

平成27年度

事業
報告



THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉 2015

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

はじめに

「共に生きる豊かな社会」を求めて

認知症患者の数は約500万人、予備軍も450万人以上で、65歳以上の4人に1人以上に症状が出るとも言われます。誰もが認知症と無関係でいられなくなる「認知症社会」に今、私たちは直面しています。この社会をどのように生き抜いていけばよいのか。試行錯誤が続いています。

当事業団では、「子ども」「障害のある人」「高齢者」を3本柱に事業を展開しています。認知症は、「高齢者」事業の大きな柱です。認知症患者本人や介護する家族、支援する医療関係者・介護関係者や地域の人が集うことのできる「認知症カフェ」の役割を重視し、地域として認知症を支える社会ができるようカフェの普及を後押ししています。また、「予備軍」としての自覚から、予防や治療について関心の高い人たちに向けて、認知症の基礎知識や初期の症状や対応についての講演会を開催するなど、認知症対策に幅広い対応を展開しています。

一方で「子ども」については、「貧困問題」への対策が急務とされています。事業団では、社会的養護の面から、大学や専門学校を目指しながら経済的理由で苦慮している子どもたちを応援する「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」事業について、募集人員を増やして制度の充実を図りました。「障害のある人」に向けた事業も、14回目となった「自閉症カンファレンス NIPPON」など長年にわたる取り組みを続けています。東日本大震災の被災者救援・復興支援事業を息長く継続していくことは、言うまでもありません。

改正社会福祉法の2017年4月施行を控え、事業団としての対応は大がかりになることが見込まれます。このため2016年度開始を予定していた中期計画は、2017年度スタートを目指して策定することとしました。当事業団は、これからも時代の要請に応える事業を展開していきたいと思っております。末永いご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

2016年5月

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

■ 2015年度(平成27年度) 朝日の社会福祉 ■

目

次

はじめに.....	1
東日本大震災.....	5
キャンプホクレレ in HAWAII	5
朝日のあたる家(岩手)	8
こども応援金	9
大切な人を失った子どもに寄り添う「グリーフサポート」(岩手、宮城)	10
子どもグリーフサポートトレーナー研修(東京)	12
被災地ピジット(宮城・岩手・福島 16カ所)	13
東日本大震災救援事業へのご寄付、15年度は1800万円	15
子どもの福祉.....	16
児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金	16
社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」(東京)	17
第62回朝日夏季保育大学(長野)	17
親子で楽しむクリスマスコンサート(東京)	20
第32回福祉施設絵画展(名古屋)	20
障害のある人の福祉.....	21
自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会(東京)	21
メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」(佐賀、富山、金沢)	22
朝日福祉ガイドDVD「自閉症の人が求める支援」	23
第32回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト(東京)	23
高次脳機能障害講演会「当事者のライフステージにあった生活・就労・住まい」(東京・大阪)	24
講演会「あなたのうつ 私うつ となりのうつ」(名古屋、東京)	27
視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」(東京)	28
第61回耳の日記念行事(全国)	28
「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」(東京)	28
第34回肢体不自由児・者の美術展(東京、福岡)	29
第44回聴美会展(名古屋)	30
第50回名古屋市障害者作品展示会	30
第36回障害者歩くスキーの集い(札幌)	30
第36回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会(鹿児島)	31
第27回九州車いすツインバスケットボール選手権大会(沖縄)	31

高齢者の福祉…………… 33

- 高齢者在宅ケアモデル事業 認知症カフェ「あまなつ」(静岡) 33
- 高齢者在宅ケアモデル事業 ～認知症カフェ開設講座～ (福岡、愛媛、岡山、石川) 34
- 講演会「看取り・幸せな人生の最終章とは」(大阪、東京) 34
- 講演会「人生の最終章を自分らしく生き抜く」(大阪、東京) 35
- 講演会「自分らしい人生の最終章とは？」(名古屋、福岡) 36
- 高齢期の豊かなくらし研究会講演会(大阪) 37
- 「これって認知症？」を開催(大阪、東京) 39
- フォーラム 認知症カフェを考える(大阪、東京) 41
- 朝日高齢者福祉セミナー2015(名古屋) 41
- 高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」(全国16カ所) 42

福祉啓発・公衆衛生…………… 45

- 第11回自殺防止事業「心の健康～仏心は歌心～」(福岡) 45
- いのちの電話などに福祉助成金(福岡) 45
- アサヒベビー相談室(大阪、高槻、大津) 46
- 第67回保健文化賞(東京) 47
- 遺贈・遺言セミナー(東京、大阪、名古屋、福岡) 47
- ネパール地震救援金 48
- 関東・東北豪雨救援金 48
- 台湾地震救援金 48

チャリティー事業…………… 49

- 朝日チャリティー美術展(名古屋、大阪、東京) 49
- 第65回メサイア演奏会(東京) 50
- 第57回各派合同三曲演奏会(大阪) 51
- 第63回洋舞合同祭(大阪) 51
- 協賛能(大阪) 52
- 第62回各流合同茶会(大阪) 52
- 第3回関西学生チャリティー茶会(大阪) 52
- 第61回歳末朝日チャリティー茶会(名古屋) 53
- 第53回チャリティー大茶会(北九州) 54
- 杵勝会 第33回歳末チャリティー長唄演奏会(東京) 54
- 上野学園第56回慈善演奏会(東京) 54
- 浦和学院高校吹奏楽部チャリティーコンサート(埼玉) 54

主な後援・協賛・協力事業一覧	55
チャリティー美術展に出展いただいた皆様	60
ご寄付をいただいた皆様	68
朝日福祉ガイド DVD・ビデオ・本のご案内	74
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ	76
2015年度事業活動計算書より抜粋	78
理事・監事・評議員名簿	79
お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿	80

東日本大震災

東日本大震災5年 グリーフキャンプをハワイで実施 「キャンプホクレレ in HAWAII」

当事業団主催、米国キッズ・ハート・トゥー・ハワイ協力

事業団では、震災で大切な人を亡くした子どもたちが、自分の内面にあるグリーフ（喪失・悲嘆）と向き合う時に、彼らに寄り添い見守り続けるグリーフ事業に取り組んでいます。この事業の一環として「東日本大震災から5年」を迎えた2016年3月、米国ハワイ州で4泊5日（現地3泊4日）のグリーフキャンプを実施しました。

●「流れ星に願いを」

参加したのは、震災で親や兄弟・姉妹を亡くした小学3年生から高校3年生の44人。5～7人ごとにグループとなり、各地での集合場所（盛岡、一ノ関、仙台、上野）からハワイでのキャンプ終了まで生活を共にしました。

「ホクレレ」とは、ハワイの言葉で「流れ星」を意味します。震災で壮絶な体験をし、大切な人を失ってグリーフを抱えながら生きる子どもたちの願いが、このキャンプを通して少しでも叶うようにと、「流れ星に願いを」の思いにちなんで名付けました。

現地では、グリーフケアの拠点キッズ・ハート・トゥー・ハワイの全面的な協力のもとに、スタンドアップパドル（サーフボードの上に立って乗り、パドルで海をこぐスポーツ）やシュノーケリングにカヌーなど海での遊びや、ウクレレやフラダンスといったハワイの伝統的な文化やコトバを学んだり、同じく親などの大切な人を失った現地ハワイの子どもたちと交流しながら、日本ではできない盛りだくさんのプログラムを大自然の中で経験しました。

震災の影響によるさまざまな理由で海から遠ざかり、震災以来5年たって「初めて海に入った」という子どもたちがほとんどでした。ですが、ハワイの青い空の下、透き通った海では歓声とともに大はしゃぎ。中には、あえて水着を持ってこなかった女子が、気付けば服ごと海に入り、グループのみんなとともに白い波に遊ぶ姿も見られました。

●「キャンプホクレレ」とグリーフ

「トーキングタイム」と名付けたグリーフワークの時間では、大切な人を亡くした時の気持ちや、その人との思い出などを話しました。思い出しながら、涙する子もいました。人の話を聞きながら、自らの体験を思い起こし、ずっと胸に秘めてきた思いを初めて他の人に語るという



子どももいました。

子どもへのグリーフワークの経験を積んだ現地ハワイのスタッフと、日本から同行した専門家が寄り添う中、「話したくないことはパスをしてもいい（言わなくてもいい）」「ここで聞いた話は外では話さない」といった子どもたちにとっての安全なルールを設けることによって、「トーキングタイム」は、安心して自分自身のグリーフと向き合うことのできる貴重な機会となりました。

「同じ境遇の仲間と話せてこれから頑張れる気がした」「この体験を忘れないで人との関わりを大切にしていきたい」「学校や家では震災の話はしないけど、ここでは言ってもいいんだという安心感があった」など、キャンプを通して、グループの仲間とそれぞれの経験や想いを共有できたことへの喜びの声を、多くの子どもたちから聞くことができました。

●ハワイの人のたくさんの思い

今回のハワイ受け入れの中心となり、現地受け入れのための準備に奔走し、さらに子どものグリーフに関する長年の経験に裏打ちされた理論と実践によって精神的な支柱となってくださったのが、東日本大震災の後すぐに被災地に入り、各地で子どもだけでなくさまざまな人にグリーフワークを実施していたキッズ・ハート・ツアー・ハワイ代表のシンシア・ホワイトさんと伊藤ヒロさんです。



そして、ボランティアで参加したキッズ・ハート・ツアー・ハワイのファシリテーター、子どもたちの日本語と英語の垣根をなくすために奮闘したハワイ在住の日本人スタッフ、安全でとびきり楽しいプログラムを準備し提供してくれたサーフィンの世界チャンピオンを含む海に関わるプロ集団「ナカマカイ（ハワイのコトバで「海の子どもたち」の意）」の人たち、素晴らしい演奏を聴かせてくれたプロのウクレレミュージシャン、フラダンス教師など、キャンプ中に協力をしてくださった人たちのほか、海でのランチを提供してくれたり、キャンプに必要なさまざまな物品を提供してくれたり、そのための経費を寄付して下さったりした方々を含めると、100人を超えるハワイの人たちの、たくさんの思いが詰まったキャンプでした。

●少しでも多くの子どものグリーフに寄り添う

このキャンプホクレレは、各県や市、同各教育委員会などの協力を得て参加者を募ったところ、30人の定員に対して124人の申し込みがありました。その中から年齢(学年)や地域、申し込み時に「流れ星への願い」と題して書いていただいた作文をもとに44人を選び、やむなく他はお断りすることとなりました。今回お断りせざるをえなかった子どもや一人でグリーフを抱えている子どものために、これからも子どもたちのグリーフに寄り添うさまざまな取り組みを続けていきます。帰国して1ヵ月後の16年4月には、一連のグリー-



フワーク(キャンプホクレレ)の区切りとして思い出会を開催しました。

キャンプから帰って数日、参加した子どもから文章が届きました。

「ハワイで、みんなと仲良くなって一緒に遊んだりすることのうれしさや、自分と同じ経験をした子どもたちと気持ちを共有する大切さを知りました」。

「私がホクレレキャンプから帰ってきて新しくできた願い事は、キャンプのメンバー、ハワイのスタッフや子どもたちに、また会うことです」。

この「キャンプホクレレ」については報告書に詳しくまとめ、みなさまのご寄付とご理解によって東日本大震災後5年を経て実現した「グリーンワーク」の記録としてとどめる予定です。

【キャンプの主な日程】

	日		内容
1	3月25日(金)	午前	・盛岡、一ノ関、仙台、上野集合、出発
		午後	・成田国際空港発
1	3月25日(金)	午前	・ホノルル空港着
		午後	・歓迎会(在ホノルル日本国総領事館ほか)
		夜	・ハワイ伝統のあそびを体験 ・ビーズアクセサリー作り ・グリーンワーク など
2	3月26日(土)	午前	・ポーカールーベビーチ「ナカマカイ」プログラム
		午後	・スタンドアップパドル、シュノーケリング、カヌーなどの海のプログラム
		夜	・シャボン玉遊び ・ヨガ ・クラフト ・トーキングタイム(グリーンワーク) など
		夜	・ヨガ ・クラフト ・トーキングタイム(グリーンワーク) など
3	3月27日(日)	午前	・ドリームキャッチャー、コアの木で小物作り
		午後	・バスケットボール、サッカー ・ウクレレコンサート ・フラダンス
		夜	・海水浴 ・キャンプファイアー ・グリーンワーク など
	3月28日(月)	午前	・バスでホノルル空港へ移動 ・ホノルル空港発
	3月29日(火)	午後	・成田国際空港着
		夜	・上野、仙台、一ノ関、盛岡着、解散

朝日のあたる家(岩手)

当事業団、NPO法人 福祉フォーラム・東北主催

岩手県陸前高田市米崎町の地域交流拠点「朝日のあたる家」=写真=が2016年2月17日に開設3周年を迎えました。この日に先立ち、同年2月6日に開設3周年記念会を開催しました。記念会は、米崎小学校の児童らがたたく重倉太鼓で幕を開け、地域住民や関係者ら約150人が参加。高田東中学校吹奏楽部の生徒による演奏をはじめ、日頃から「朝日のあたる家」を利用する地域



の方々による高田

音頭などが披露され、手作りの料理でにぎやかに3周年を祝いました。「なごやかな雰囲気にもまれて、町への愛情と、今日この場に共に居られる事の喜びを、皆で分かち合う事ができた」という言葉を参加した方から後日いただきました。「朝日のあたる家」は地域の方々にとってかけがえのない場所になっています。



●虹の架け橋

陸前高田では土地のかさ上げや、新しい堤防の工事が進んでいます。しかし、市街地の復興、地域の方々の暮らしの復興は進んでおらず、子どもの遊べる場所はありません。

そんななか15年5月に、子どもに親しみやすいシンボルとして「虹の架け橋」というモニュメントを敷地内の小高い丘の上につくりました。ひのき造りの展望台に、はしごやすべり台。まちの景色を眺めたり、鬼ごっこをしたりと「朝日のあたる家」の窓から、子どもたちの生き生きとあそぶ姿が毎日見られるようになりました。



制作は石巻で被災した木工職人の遠藤伸一さんに依頼しました。もともと自宅跡地に「虹の架け橋」をつくっていた遠藤さん。哀しみにくれていた時、支えてくれる人たちとの多くの出会いがあったといいます。「虹の架け橋」には、人と人の想いをつないでくれた象徴として、幸せがあった場所を淋しい場所にしたくないという想いや、人の笑顔が戻るようにとの祈りが込められています。

陸前高田と同じく被災した石巻をつなぐ「虹の架け橋」、全国からご寄付を寄せてくださった各地の皆さんの想いと陸前高田の皆さんをつなぐ「虹の架け橋」です。

●「認知症カフェ」の開催

認知症のある人や、その家族らが集い、交流を行う「認知症カフェ」を開催しています。

15年度から米崎地区の名産品・リンゴにちなんだ名前「アップルカフェ」として毎月1回開催しています。認知症への偏見をなくし、認知症になっても暮らしやすい地域になるよう、陸前高田市地域包括支援センターと連携をしながら開催をしています。

●子どものグリーフケアのプログラム～地震と津波を体験した子どもに寄り添う～

朝日のあたる家では、震災を体験した子どもたちが、楽しく安全に遊び、心を癒やす、グリーフケアプログラム「あそびのいえ」を開催しています。

●多彩な催し

そのほか、朝日のあたる家では、手芸や料理のプログラム、地域包括支援センターと協力して行っている体操の教室、子どもと大人と一緒に楽しめるコンサート、認知症などをテーマにした講演会など、さまざまなプログラムや催しを開いてきました。

●仮設住宅に暮らす人たちなど1万8300人が利用

この1年間で、仮設住宅の住民をはじめ、子どもから高齢者まで延べ7900人の利用者がありました。開設以来、延べ1万8300人が朝日のあたる家を利用しました。月1回の会報誌「おはやがんす」を発行するなど、地域の方に積極的に情報を発信しています。

福祉フォーラム・東北と当事業団は、「朝日のあたる家」を拠点として、現地に密着した地域包括ケア事業を構築することを目指しています。

こども応援金

当事業団主催

震災で両親を亡くした子ども（孤児）に「東日本大震災こども応援金」を届けています。金額は未就学児・小学生が1人当たり300万円、中学生が200万円、高校生相当年齢が150万円。「自由に使えるお金」として、対象の子どもたちに直接、渡しています。

震災直後から両親を亡くした子どもたちのことを考えていた私たちは、全国の多くの方々から、ご寄付と一緒に届く「被災地の子どものために」という声にも背中を押され、取り組みを始めました。

経済的な不安を和らげ、子どもが夢をあきらめずに将来への希望を持てることに少しでも役立ちたいと、すべての孤児に渡すのを目標にしています。

11年7月から贈呈を始め、16年3月末までに、対象と見込んできた220人の9割を超える202人に総額4億8850万円を贈ることができました。震災から5年がたち、子どもたちは成長の節目ごとに多くの不安を感じることもあるかも知れません。グリーフサポート事業などを通して今後もこの子どもたちをサポートしていきます。

こども応援金 贈呈者数の内訳

(2016年3月末現在 県名などは被災時)

	岩手	宮城	福島	合計
未就学児	8	8	3	19
小学生	34	45	10	89
中学生	24	21	2	47
高校生	16	27	4	47
合計	82	101	19	202

大切な人を失った子どもに寄り添う「グリーフサポート」

当事業団主催、米国キッズ・ハート・トゥー・ハワイなど協力

15年度は往來のグリーフ事業をシフトチェンジし、新たな事業を行いました。米国や日本の子どものグリーフケアに大きな影響を与えている米国ハワイ州のキッズ・ハート・トゥー・ハワイの協力のもと、震災の被害が大きかった沿岸部で、震災によって大切な人を亡くした子どもたちを対象にしたプログラム「あそびのいえ」を開始。その子どもたちを取り巻く保護者や教師のための講演会や地域で活動を行う実践者を養成する講座、小学校の学童訪問を行いました。

●地震と津波を体験した子どもと大切な人を亡くした子どもの「あそびのいえ」

「あそびのいえ」は、子どもたちが安心と希望を持って暮らすために、あそびを通して自分自身のさまざまな感情を受け入れ、自分なりに整理していくプロセスとともに歩むグリーフケアの場です。15年度は陸前高田市で4回、東松島市で3回開催しました。

プログラムは、津波や地震のことを子どもたちが自由に表現できるように、子どもにとって安全な環境や状況を整えます。プログラムの冒頭ではそのためのルールを子どもと一緒に確認したあと、共通する体験をした子ども同士による集まりであることを共有。次いで自分自身に気持ちを向ける準備のために、参加する全員が自己紹介と合わせてそれぞれの喪失体験などを話します。話をする事自体が目的ではないので、話したくない場合は“パス”ができ、話したくないという気持ちも大切にされます。



この「始まりの会」が終わると、遊びの時間が始まります。そこでは、鬼ごっこをしたり、木製のモニュメントで遊んだり、ビーズでアクセサリを作ったり、ウクレレを弾いたり、体験を語ったりと思い思いの時間を過ごします。

「終わりの会」では、この日のプログラムが修了し、また日常に戻ることを全員で輪になって確認します。自分の感情へと触れる意識が高いままの状態では日常に戻らないことも、子どもたちの安全のためには大切なことです。

「あそびのいえ」のほかに、陸前高田市内小学校の学童クラブを訪問し、キッズ・ハート・トゥー・ハワイの伊藤ヒロさんの指導のもと、ブレスレットの制作やコアの木を使った工作をしました。

開催日	地域	開催場所
6月23日	陸前高田市	朝日のあたる家
9月28日	東松島市	小野市民センター
9月29日	陸前高田市	朝日のあたる家
11月26日	陸前高田市	朝日のあたる家
11月27日	陸前高田市	米崎小学校「リンゴ学童クラブ」
11月31日	石巻市	大須中学校
12月2日	東松島市	小野市民センター
2月22日	陸前高田市	米崎小学校「リンゴ学童クラブ」
2月23日	陸前高田市	長部小学校「松ぼっくり学童クラブ」
2月24日	陸前高田市	朝日のあたる家
2月25日	東松島市	小野市民センター

●保護者や教師、地域のおとなのための講演会を開催

キッズ・ハート・トゥー・ハワイのエグゼクティブディレクター、シンシア・ホワイトさんの講演会を陸前高田市と東松島市で開催しました。

6月22日には陸前高田市の朝日のあたる家で開催し、市内で子育てをする人や教育関係者など17人が参加しました。東松島市のコミュニティセンターでは6月24日に開催し、学校関係者や子ども福祉の関係者、保護者など約80人が集いました。



両日ともこれから「あそびのいえ」を新たに開始するにあたり、子どもたちのために地域の大人に何ができるかを一緒に考える機会となりました。

東松島市では12月1日に「教師のための喪失体験とトラウマのある子どもへの気づきとまなざし」を開催。教育関係者や子ども福祉の関係者など約20人が参加。教室で子どもが心を落ち着かせるための具体的な方法の紹介がありました。11月30日は東松島市教育委員会主催の教師を対象にした研修会に協力。約30人が参加し、講演や意見交換を通してグリーンケアについて考えました。

開催日	地域	開催場所	講演会名	主催、後援、協力
6月22日	陸前高田市	朝日のあたる家	講演会 ～いっしょにグリーンケア～	当事業団、福祉フォーラム・東北主催 キッズ・ハート・トゥー・ハワイ協力
6月24日	東松島市	コミュニティセンター	講演会 ～私たちの地域でグリーンケア～	当事業団主催 東松島市、東松島市教育委員会後援 キッズ・ハート・トゥー・ハワイ協力
11月30日	東松島市	コミュニティセンター	教師への「グリーンケア」講演会	東松島市教育委員会主催 当事業団、キッズ・ハート・トゥー・ハワイ協力
12月1日	東松島市	コミュニティセンター	講演会 ～教師のための喪失体験とトラウマのある子どもへの気づきとまなざし～	当事業団主催、東松島市教育委員会、 石巻市教育委員会、女川町教育委員会後援、 キッズ・ハート・トゥー・ハワイ協力

●実践者養成講座 ～津波を体験した子どもを地域で癒す～（東松島市）を開催

グリーフケア活動を行う実践者（ファシリテーター）を養成する講座を9月26、27日に東松島市で開催し、行政や子ども福祉の関係者、保護者など24人が集まりました。

講師はキッズ・ハート・トゥー・ハワイのシンシア・ホワイトさんです。2日間の講座の中でシンシアさんは、子どもがグリーフを表現しやすい安全な環境を整える上で、サポートをする人が自身のグリーフを整理することの重要性を強調。グリーフプログラムを行うためのスキルや子どもとのかかわり方などもロールプレイを通して解説しました。



子どもグリーフサポートトレーナー研修

当事業団主催、米国キッズ・ハート・トゥー・ハワイ協力

全国各地ですでにグリーフサポートを実践している人々を対象に、14年11月から2年にわたる全4回の「トレーナー養成研修」を行っています。講師はキッズ・ハート・トゥー・ハワイのシンシアホワイトさんと伊藤ヒロさん。アシスタント講師は「だいじな人を亡くした子どもの集まり」のファシリテーターの小嶋リベカさんです。

4月19日に中間研修を行ったあと、6月27、28日に2回目、11月21～23日に3回目の研修会を朝日新聞東京本社で開催。北海道、宮城県、東京都、大阪府、福岡県の団体などから12人が参加しました。

2回目の研修会では、遊びの重要性について学びました。ファシリテーター役と子ども役に分かれてロールプレイを実施し、遊びを通して子どもに寄り添うスキルを習得しました。3回目は過去2回の研修を踏まえて、各地域で実践してきたことを発表、共有するワークショップを実施。それぞれの団体の特色ある発表は、ともに学び合う貴重な時間となりました。



2年間にわたる研修を経て、グリーフサポートトレーナーとなるみなさんが各地での取り組みをさらに拡充するとともに、自らが指導者となって後継を育て、質の高いグリーフケアを実践できる人が全国に増えることを期待しています。

被災地ビジット（宮城・岩手・福島16カ所）

当事業団主催

15年度も、東日本大震災のため不自由で不安な生活を強いられている方々が少しでも心豊かなひとときを過ごせるように「被災地ビジット」を実施しました。千住真理子さん、川畠成道さん、おおたか静流さん、大友剛さん、山口ともさんらと共に、宮城県、岩手県、福島県の被災された方々を訪れました。

●千住真理子さん

バイオリニストの千住真理子さんと、ピアニストの山洞智（さんとう さとし）さんが8月4、5日に、宮城県の石巻市と東松島市を訪問しました。4日は、石巻市の渡波公民館と仮設大森第4団地、網地島でミニリサイタルを開きました。渡波公民館では近隣住民約45人の前で7曲を演奏。石巻市新成の阿部久子さん（65）は「生で千住さんのバイオリンが聞けるなんて信じられない。感動して涙がでていた」と興奮した様子で話してくれました。仮設大森第4団地では、約20人が「浜辺の歌」や「チャルダッシュ」など8曲を堪能しました。



網地島では、仙台市内にある児童養護施設「小百合園」の子どもたちや、ボランティアグループ「あじ朗志組」のみなさんなど約70人が、島の楽校（中学校跡）に集まりました。「あじ朗志組」は仙台市内の児童養護施設の子どもたちを招いて自然を体験してもらう「網地島ふるさと楽好」を毎年開催しているグループです。2泊3日で招待された子どもたちは、新鮮な海の幸を食べたあと、千住さんの奏でる美しい音楽に至福のひとときを過ごしました。子どもたちは千住さんや山洞さんに駆け寄って、「とても感動しました」など各々の感想を直接伝えていました。

5日は網地島の医療機関併設型小規模介護老人保健施設「網小医院」で演奏したあと、場所を東松島市に移し、大曲保育園を訪問しました。

●大友剛さん、おおたか静流さん、山口ともさん

9月8、9日はおおたか静流さん、大友剛さんと、廃品打楽器奏者の山口ともさんが、岩手県陸前高田市と大船渡市を訪問し、「ぶったまげマジカルショー」を開催しました。山口さんは「被災地ビジット」に新たにご協力をいただけることになり、豪華3人によるコンサートが実現しました。

まず陸前高田市の高田小学校を訪問。1～3年生と地域の方々約100人の前で、「でんでらりゅうば」や「私と小鳥と鈴と」などの楽曲計6曲にマジック、廃品打楽器の演奏などを披露しました。歌や不思議なマジック、珍しい廃品打楽器に会場の視線は釘付け。参加した3年生の吉田

智咲さんと臼井昇汰さんは「テレビで見ていた本物のおおたかさんに会えてうれしかった」と笑顔で語りました。

朝日のあたる家では、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の約30人が集まりました。木のぬくもりが感じられる、あたたかい空間の中で、足でリズムをとったり、声を出したり、踊ったりして楽しさを表現する参加者の姿もありました。大友さんが「東北でリクエストの一番多い曲を演奏します」と言って、ピアノとピアノカで奏でた「見上げてごらん夜空の星を」は、会場の雰囲気と曲が折り重なり、感動的な時間が流れました。



9日に訪問した障害者支援施設「ひかみの園」では約60人の前でパフォーマンスを披露。参加者の一人がおおたかさんとともにマイクを持って「七つの子」を熱唱し、他の参加者は合図に合わせて「カアア」とカラスの鳴き声を真似して歌い、会場が沸きました。続いて高田東中学校と米崎保育園を訪問。年齢層が異なる6か所のいずれの訪問先でも、笑いあり、感動ありでステージと会場が一体となったコンサートになりました。

●川島成道さんと恵村友美子さん

バイオリニストの川島成道さんとピアニストの恵村友美子さんは、10月28、29日に福島県と宮城県を訪問しました。

28日は、原発事故の影響で浪江町から西郷村に避難している福島県の救護施設「浪江ひまわり荘」を訪問。利用者ら約80人の前で「朝の歌」や「ムーンリバー」など10曲を披露しました。同施設の利用者や職員は原発事故の影響でいまだに故郷へ戻れず、現在も西郷村の仮設施設で生活をしています。志賀周平さん(70)は「バイオリンとピアノの優しく響く音色で、4年半の避難生活の苦難も癒やされました」と美しい音色に感動していました。その後、相馬市の特別養護老人ホーム「相馬ホーム」を訪問しました。

29日は宮城県の岩沼市と名取市の中学校、障害者地域活動支援センター、老人ホームを訪問。岩沼市の玉浦中学校では生徒ら約170人を前に7曲を披露。生徒を代表して2年生の加茂大雅さんが「困難にぶつかった時は、川島さんのように自分の希望を見つけて頑張りたい」と感想を述べました。その後、全校生徒の皆さんから合唱「Tomorrow」の贈り物をいただきました。名取市の宮城福祉会では、近くの仮設住宅で暮らしている住民をはじめ、養護老人ホーム「松寿園」、視覚障害老人ホーム「松風荘」などの利用者約75人が集まり、映画音楽の「スマイル」やクラシック音楽「チャルダッシュ」など計12曲を堪能しました。



15年度も、福祉フォーラム・東北、石巻市で避難所にいる時から支援を継続している団体「チームわたはい」、児童養護施設の子どものためのキャンプなどを主催する、石巻沖合の網地島で活動

をしている団体「あじ朗志組」など、現地で活動している皆さんのご協力をいただき、計16カ所を訪問しました＝表。11年度からの通算の訪問先は111カ所になりました。

	訪問者(敬称略)	訪問日	地 域	訪問先
1	千住真理子 山洞智	8月4日	宮城県石巻市	渡波公民館
2		8月4日	宮城県石巻市	仮設大森第4団地
3		8月4日	宮城県石巻市(網地島)	網地島ふるさと楽校
4		8月5日	宮城県石巻市(網地島)	介護老人保健施設網小医院
5		8月5日	宮城県東松島市	大曲保育園
6	おおたか静流 大友剛 山口とも	9月8日	岩手県陸前高田市	高田小学校
7		9月8日	岩手県大船渡市	末崎小学校
8		9月8日	岩手県陸前高田市	朝日のあたる家
9		9月9日	岩手県陸前高田市	障害者支援施設ひかみの園
10		9月9日	岩手県陸前高田市	高田東中学校
11		9月9日	岩手県陸前高田市	米崎保育園
12	川島成道 恵村友美子	10月28日	福島県西郷村	救護施設浪江ひまわり荘
13		10月28日	福島県相馬市	特別養護老人ホーム相馬ホーム
14		10月29日	宮城県岩沼市	障害者地域活動支援センターやすらぎの里
15		10月29日	宮城県岩沼市	玉浦中学校
16		10月29日	宮城県名取市	養護老人ホーム松寿園

東日本大震災救援事業へのご寄付、15年度は1800万円

朝日新聞厚生文化事業団の東日本大震災救援事業へ15年度に寄せられたご寄付は1847万7091円に上りました。東日本大震災救援募金(震災直後から12年3月末まで実施)も含めたご寄付の累計は16年3月末現在で約9万件、総額37億1473万5302円となりました。

14年度までの年度別では10年度が17億1703万9856円、11年度が17億9627万3050円、12年度が1億1362万4052円、13年度が4572万1384円、14年度が2359万9869円でした。

子どもの福祉

児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

当事業団主催

16年春に高校を卒業し、児童養護施設や里親家庭から、夢の実現に向けて大学や専門学校に進学する高校生に対して、入学時に必要な入学金など、最大100万円を贈る「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」を実施し、内定者のうち辞退者3人を除く29人に合計約1350万円を贈りました。この事業は朝日新聞厚生文化事業団に寄せられたご寄付と山岡こども応援資金などによって行っています。皆様の善意に支えられ、今年度から贈呈する人員を増やしました。

3月22日、23日には、「進学応援金の集い」を開催し、贈呈対象者のうち28人が参加しました。22日は東京都品川区大井町のホテル・アワーズイン阪急で、日本のグリーンワークの活動を長年続けている小嶋リベカさんの指揮のもと、グループごとに分かれてグリーンワークやクラフト（コアの木を使ったストラップやブレスレット作り）などのプログラムを実施しました。グリーンワークの時間は、「話したくないことはパスできる」などの安全のためのルールを設け、これまでの歩みやこれからの不安や期待などを語り合いました。昨年度と一昨年度に応援金を受けて進学した5人が駆けつけ、先輩助言者としてワークに加わりました。同じ立場の仲間や先輩と交流することで、自分が1人ではないことを知り、それぞれの未来を一緒に考える場となりました。



夜は、廃品打楽器奏者の山口ともさんによるコンサートを開催。急遽スペシャルゲストとして大友剛さんも登場。2人による豪華なステージで参加したみなさんを激励しました。ともさんのガラクタから奏でられる音色や大友さんのマジックに参加者は大盛り上がり。新しく出会った仲間とすてきな夜を過ごしました。



翌日は東京ディズニーシーを観光しながら、更に親交を深めました。

社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」 「社会的養護で育ったユースの集い」研修会

当事業団など主催

児童養護施設や里親家庭で暮らしたことがある人たちが中心になって活動するグループと朝日新聞厚生文化事業団が、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」を2010年4月に結成。全国の当事者活動の活性化のために、情報交換やピア・キャンプ、研修会などを行っています。

虐待をはじめ何らかの事情で実の親と離れて暮らさなければならない子どものために、家庭に代わる養育の場として制度的に用意されているのが児童養護施設や乳児院、里親家庭などです。こうした制度を「社会的養護」といい、約4万6千人の子どもがこの制度を利用しながら全国で暮らしています。「社会的養護の当事者活動全国ネットワークこどもっと」では、この社会的養護で育った若い人たちが集まり、“一人じゃない”と感じ、安心して語り合い、楽しい時間を過ごす「社会的養護で育ったユースのつどい」を開催する準備をしています。この「つどい」を運営する実行委員の研修会を、11月29日(日)に朝日新聞東京本社で開催し、全国の社会的養護で育った11人が参加しました。



講師は、NPOキッズ・ハート・トゥー・ハワイの創設者で、フォスターケア(米国の里親養育)で育ったシンシア・ホワイトさん。同団体の副代表で日本の児童養護施設で育った伊藤ヒロさんも駆けつけました。

まず、参加者が「子ども時代の経験が今の自分自身にどういきているか」を語りながら自己紹介を行い、シンシアさんが「当事者が集うことの意味」について説明。その後、ロールプレイを通して、語り合いのプログラムを運営するうえで欠かせないスキルについて共に考えました。

第62回朝日夏季保育大学(長野)

当事業団主催。共催諏訪市。

長野県、全国社会福祉協議会、長野県社会福祉協議会、長野朝日放送後援 大同生命厚生事業団協賛

朝日夏季保育大学は、保育従事者の技術と教養の向上を図ることを目的に、保育先進県と言われた長野県の諏訪市で1954年に開催して以来、今日まで継続している事業です。15年度は諏訪市文化センターで7月24、25日に開かれ、保育士をはじめ、幼稚園の先生ら、「乳幼児の健やかな育ち」を願うのべ約900人が参加しました。

オープニングは童話、絵本作家で「魔女の宅急便」の作者の角野栄子さんによる講演「物語を通

して子どもたちに伝えたいこと」。学校が苦手だったため、その時ついたウソや想像から物語を作ったことなどご自身の体験を語りました。「物語は人の心に種を植える。いつか芽が出て生きる力が育っていく」と本が子どもにあたえる可能性について説明しました。

続いて川崎医療福祉大学准教授の諏訪利明さんに「気になる子どもへのかかわり」と題し、自閉症など発達障害のある子どもへの支援についてお話しいただきました。障害をどう理解するかという基本的な考え方を確認し、気になる行動は「困った行動」ではないことを説明。子どもの行動だけを見るのではなく、なぜその行動が起きるのか“行動の背景”を探り、本人のつまずきを理解することや、予防措置や周囲にできる様々な対応を考えることなどの重要性を述べました。

初日の最後は、今年で2回目となる、「子どもに学ぶ保育講座」。これは「明日の保育に活かせる質の高い実技」をテーマに、子どもとのかかわりを実践から学ぶ講座です。会場内の講義だけでなく、講師に保育園を訪問していただき、子どもと接する様子を撮影しました。保育大学当日にそのビデオを上映することで、子どもの反応にこたえながら、好奇心を刺激し、様々な可能性を引き出していくポイントを、参加者に学んでいただくのがねらいです。今回はミュージシャンでマジシャンの大友剛さんに講師を頼み、6月に山梨県甲府市の2カ所の保育園でマジックと音楽、絵本のコンサートを開催していただきました。講義冒頭でその時の様子を上映。保育園での実際の様子から、子どもとのかかわりを考える機会となりました。その後、大友さんが登場。保育現場でも使える様々なマジックをレクチャーしました。



9割の参加者に苦手意識があるというピアノ演奏を、大友さんは3本の指で、少ない音、少ない移動でも十分に弾けることを実演し、「音楽は楽しむものです」とエールを送りました。保育園でも披露された絵本「ねこのピート」を用いたお話では、子どもたちが作ったストーリーも紹介。子どもたちが考えた想像力豊かなアイデアの数々に会場からは感嘆の声があがりました。マジック、絵本に加えて歌や手あそびも交えながら、最後には会場からのリクエスト曲のピアノ生演奏と盛りだくさんのステージとなりました。



2日目の最初は帝京大学教授の清水玲子さんにご登壇いただきました。「子どもの思いをくむことに徹する～新制度を通してあらためて保育を考える～」をテーマに、実際に保育士から相談のあった「抱っこして」の要求をどこまで受け入れるかなど、現場ならではの悩みと、その対応について、より具体的に説明。15年の4月からスタートした「子ども・子育て支援新制度」の概要にも触れながら、どうすれば子どもにとって十分な保育ができるかをしっかり話し合っていく姿勢は変えてはならないことを強調しました。

続いては、保育者同士で子どもの日々の姿を共有し、自らの保育を評価するうえで欠かせない、記録の書き方について元立教女学院短期大学教授の今井和子さんに「保育が伝わる・心がつながる記録の書き方」と題してお話しいただきました。実際の保育園での子どもの様子を映像で紹介

したあとに記録の書き方や評価のポイントを解説。「遊びの中でどんな学びが育っているかを書いて伝えることが大切」と述べ、記録を活かし、子どもたちとのかかわり方を考えることが“子育て支援”であることを訴えました。

午後は、児童精神科医、恩賜財団母子愛育会愛育相談所所長の齋藤万比古さんの講演「子どものうつ～多様なストレスの中で生きる子どもたち～」。子どもにどんなストレスや傷付きの種があるかを子どもの心の成長を踏まえて説明しました。後半には子どもの情緒の問題についての支援の仕方を事例をもとに考察。「子どもの安全な基地として養育環境の動揺を改善するための両親へのサポートが重要」と述べました。

最後の講座は、「それいけ！アンパンマン」のバタコさんなど子どもが親しんでいるキャラクターの声を演じている佐久間レイさんとピアニストの佐田詠夢さんによる特別ステージ「子どもと生きるあなたの物語～次のセリフは自分で決められます～」。大人へのメッセージを込めた大人バージョンの「アンパンマンマーチ」を熱唱。「いっぱい声を出すことで心の窓が開き、換気されます」と話し、参加者全員で「ふるさと」を歌いました。佐久間さんの経験や近い人の言葉を書き起こし、佐田さんが音楽をつけた“語り”「魔法の靴」も披露。「今、この時を大切に」という強い想いが込められた親子の物語は、多くの参加者の涙を誘いました。さらに佐久間さん自身の子育ての経験談や、手あそび「ごんべさんの赤ちゃん」など笑いと涙のあふれる感動のステージとなりました。「セリフを変えるだけで物語（人生）が変わります。セリフを作っていくのは自分です」と締めくくりました。

7月24日(金)		7月25日(土)	
10:10 10:30	開校式	9:15 10:45	「子どもの思いをくむことに徹する」 ～新制度を通してあらためて保育を考える～ ◆清水玲子／帝京大学教授
10:30 12:00	「物語を通して子どもたちに伝えたいこと」 ◆角野栄子／童話、絵本作家	11:00 12:30	「保育が伝わる・心がつながる記録の書き方」 ◆今井和子／元立教女学院短期大学教授
昼食休憩		昼食休憩	
13:00 14:30	「気になる子どもへのかかわり」 ◆諏訪利明／川崎医療福祉大学准教授、臨床心理士	13:30 15:00	「子どものうつ」 ～多様なストレスの中で生きる子どもたち～ ◆齋藤万比古／児童精神科医、 恩賜財団母子愛育会愛育相談所長
14:45 16:15	「マジックと音楽と絵本の世界」 ～子どもの世界を彩る3つの魔法～ ◆大友剛／ミュージシャン・マジシャン	15:15 16:45	「子どもと生きるあなたの物語」 ～次のセリフは自分で決められます～ ◆佐久間レイ／声優、歌手、脚本家、 佐田詠夢／ピアニスト

親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）

当事業団主催

16回目となる「親子で楽しむクリスマスコンサート」を12月23日（水）、有楽町朝日ホールで開催しました。

2015年のコンサートはシンガー・ソング絵本ライターの中川ひろたかさんと、ケロこと増田裕子さんとポンこと平田明子さんのスーパーデュオ「ケロポンズ」が出演。会場は、600人を超える家族連れらで満席となり、なかには16回全て参加している女性や、親子3代続いてのファンだという方もいました。

絵本などの著書が200冊を越えたという中川さん。コンサートの前半は、「これはまる」や「ぼくがすきなこと」といった自作の絵本6冊を壇上のスクリーンに映して見せながら、楽しい朗読を繰り広げました。

後半は、幼稚園や保育園で大人気のケロポンズの代表曲「エビカニクス」からのスタートで、会場の子どもたちを大いに盛り上げました。

その後、中川さんとケロポンズの掛け合いの形で進行し、あそび歌の「つるたんてん」では、会場の全員が立ち上がって、歌に合わせて体を動かしながら振り付けを楽しむ場面も。



なんの物真似かを当てる「ジェスチャーゲーム」や、今回の目玉のひとつである「パネルシアター」などに加え、全部で16曲の歌や遊びが披露されました。

「はじめの一步」や「にじ」などの名曲のあとのアンコールでは「パンポンピンポン」と「ぼくたちの希望」が歌われ、大きな拍手に包まれコンサートは幕を閉じました。

第32回福祉施設絵画展（名古屋）

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会主催、当事業団後援

名古屋市内の児童養護施設や障害児者施設に入所、通所する人の作品を展示する絵画展を7月下旬から8月下旬に市内の地下街ギャラリーなどで開きました。27施設から588点の応募があり、特別賞6点、入選31点、佳作53点が選ばれました。

朝日新聞厚生文化事業団理事長賞は「高岡大仏」を制作した障害者施設「てふてふ」の奈良井仁さんが受賞しました＝写真。



障 害 の あ る 人 の 福 祉

自閉症カンファレンスNIPPON ～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会(東京)

自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会、当事業団主催
厚生労働省、文部科学省、日本自閉症協会、日本知的障害者福祉協会後援

自閉症の人たちへの支援の会議として国内最大級の「自閉症カンファレンスNIPPON 2015」を8月22日、23日、東京都新宿区の早稲田大学で開催。全国から福祉・教育・医療関係者ら約1000人が参加しました。今回が14回目。



当事業団は1989年、米国ノースカロライナ大学で開発された包括的な自閉症支援のシステム「TEACCHプログラム」による5日間にわたるトレーニングセミナーを日本で初めて開催しました。当時は自閉症の人たちへの支援が日本国内のみならず世界中で混とんとした状況の中、同プログラムは画期的な成果をあげ、注目されていました。以来、数々の講演会やセミナーの開催をはじめ、ガイドブックやDVD(ビデオ)の制作と普及、人材育成のための研修留学生の派遣など、さまざまな事業を、世界でも類を見ない同プログラムを日本に普及させるために、25年を超えて継続して実施してきました。

この「自閉症カンファレンスNIPPON」は、佐々木正美・川崎医療福祉大学特任教授を中心に、その門下生とも言える日本国内で活躍する専門家や実践家が集まりスタートさせた実践研修の場です。この2日間に合わせて毎年来日し、自閉症支援の基本と新しい情報を伝えてくださるのが米国・ノースカロライナ大学の元TEACCH部部長ゲーリー・メジボフ教授。今回は、現在のTEACCHプログラム・ディレクターのローラ・クリンガーさんにも来日していただき、自閉症の人の自立のために生涯にわたって支援する具体的な方法についてお伝えいただきました。



このほかに、3つの分科会を設け合計15の国内の実践報告を聞くプログラムや、各地の活動を報告するポスターセッション、入門解説講座として初心者向けの「基礎からの構造化」、「基礎からの評価と自立課題」などの講義、特別講座の「医療サポートセミナー」や「コミュニケーション機器セミナー」、それに当事業団制作の最新DVD「自閉症の人が求める支援」の上映など、盛りだくさんの内容のさまざまなプログラムが2日間にわたって行われました。今後も、「自閉症

を正しく理解する」支援者の輪をさらに広げ、新たな未来を開いていくことを目指します。

メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」(佐賀、富山、金沢)

当事業団など主催

ノースカロライナ大学のゲーリー・メジボフ教授が「自閉症カンファレンスNIPPON」のために来日するのに合わせて開催する講演会「自閉症を正しく理解すること～自閉症の支援で最も大切なこと」を、今年は8月25日に佐賀市文化会館、29日に富山市・サンシップとやま、30日に金沢市・石川県地場産業振興センターで開催。合わせて約950人が参加し、「自閉症の人たちの学習スタイル～正しく理解する」「構造化された指導～自閉症の学習スタイルに合わせた支援」「自閉症の支援で最も大切なこと～TEACCHプログラムのコア・バリュー」の3講義、5時間の話に耳を傾けました。

原因が特定できず、理解の難しい自閉症。教育現場、専門家や親にさえ正しく理解されていないことが多く、そのことが本人たちの生活の上での困難をさらに増やし、複雑にしています。適切な支援をするために必要なのは「自閉症の人たちを正しく理解すること」です。いま世界的に最も認められ、実践されている自閉症の人への支援モデルであるTEACCHプログラムを、今日の世界規格に育て上げたメジボフ教授による分かりやすい講演を毎年日本各地で開催することによって「正しい支援は自閉症の障害を正しく理解することが大切」という基本を伝えようとするものです。

8月25日に佐賀文化市民会館で開催した同講演会には、「自閉症カンファレンスNIPPON」に合わせてメジボフ教授とともに来日した現TEACCHプログラム・ディレクターのローラ・クリンガーさんにも特別講演をしていただきました。

当講演会は2004年度から熊本(04)、長野(05)、京都(06)、青森(07)、奈良(08)、札幌・沖縄県豊見城(09)、高松(10)、博多・宮崎(11)、長崎・盛岡・福島・仙台(12)、鹿児島・山形・宇都宮(13)、大分・静岡・秋田(14)の各市を回り、今年の3か所と合わせて合計23都市で開催したことになります。

各会場とも厚生労働省、文部科学省後援をもらいました。その他、佐賀会場は佐賀県自閉症協会、NPO法人それいゆ、TEACCHプログラム研究会佐賀支部、佐賀県発達障害者支援センター結、当事業団主催、佐賀県、佐賀市、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会が後援。富山会場は富山県自閉症協会、当事業団主催、富山県、富山市、富山県教育委員会、富山市教育委員会、とやま発達障がい親の会、めひの野園の後援。金沢会場はいしかわTEACCHプログラム研究会、当事業団主催、石川県、金沢市、石川県教育委員会、金沢市教育委員会、石川県自閉症協会、いしかわ子育て支援財団の後援でした。

朝日福祉ガイドDVD「自閉症の人が求める支援」

朝日福祉ガイドDVD「自閉症の人が求める支援～よくわかる自立のためのアイデア～」を制作、13年秋から頒布を始めました。自閉症の人、それぞれの個性に合わせた支援の基本である「構造化」を映像化した、画期的なDVDです。



①「スケジュール」や「視覚支援」などの具体的な要素を解説した「基本編 基礎からわかる構造化」②学校の教室を例に生徒に合わせた環境の作り方などを具体的に紹介した「実技編 構造化と再構造化のしかた」③さまざまなケースを収録し、共通する支援の考え方と方法、それぞれに合わせた個別の支援について、より理解を深められる「実践編 自立のための構造化」の3巻で、監修は佐々木教授とメジボフ教授。3巻セット9900円、各巻4320円(ともに税込み)。

第32回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト(東京)

全日本ろうあ連盟、当事業団、朝日新聞社主催。厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、日本手話通訳士協会、全国聾学校長会後援。NEC協賛。東京都聴覚障害者連盟協力

手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進を目的に1984年から始まった「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」。32回目となった今回は、東京都中央区の有楽町朝日ホールで8月29日に開催しました。全国の応募者62人から原稿と映像審査で選ばれた10人が、手話と音声と同時に使ったスピーチで競いました

第1位には、愛知県・桜花学園高校3年佐藤梨江さん＝写真左＝が輝きました。佐藤さんは「夢をかなえるために」と題して、障害のある子どもとのキャンプなど自分が行ったボランティア活動を紹介し、社会福祉士になる夢をスピーチ。「私はひとりでも多くの人と関わり、人のためになりたいと思っています」と約500人の来場者の前で自分の思いを堂々と披露しました。2位には沖縄県立真和志高校3年、與那嶺舞寧さん＝写真中、3位には鳥取県立鳥取聾学校2年、新井ほのかさん＝写真右＝が選ばれました。聾学校の生徒で本選に出場し、入賞したのは新井さんが初めてです。



入賞者には賞状とトロフィー、協賛のNECからノートパソコンやタブレットなどの賞品が贈られました。また、参加者全員にNECからコンテストを録画したDVDが贈られました。

今回は秋篠宮妃紀子さまが、次女の佳子さまとともに出席。紀子さまは開会式で、手話を交えながら「発表されるみなさまがご自分の考えや思いをしっかりと豊かに表現することを期待しております」と出場者にエールを送りました。

特別プログラムでは、難聴のラグーマン、大塚貴之さん(元帝京大学ラグビー部)が「社会で生きる力」をテーマに司会者の岡本妙子さんと対談しました。今までの生い立ちからラグビーとの出会い、部活動で学んだこと、そして今後の夢などを質問に答える形で話しました。

審査員は小椋英子・日本手話通訳士協会会長、道躰正成・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、粟野達人・東京都聴覚障害者連盟会長、久松三二・全日本ろうあ連盟常任理事・事務局長、石橋大吾・全日本ろうあ連盟理事、友野賀世・朝日新聞論説委員のみなさんに務めていただきました。



3位までを除く入賞者と出場者は次の通りです。(敬称略)

奨励賞＝坊田悠太(広島県・広島学院高校2年)、廣川祐和(北海道追分高校3年)

出場者＝星友香梨(宮城県・クラーク記念国際高校3年)、藤本みなみ(東京都・川村高校1年)、井田法誠(山梨県・身延山高校2年)、石井碧(兵庫県播磨高校3年)、領家希歩(福岡県立三井高校3年)

高次脳機能障害講演会 「当事者のライフステージにあった生活・就労・住まい」(東京・大阪)

.....
当事業団主催。日本脳外傷友の会、大同生命厚生事業団(大阪のみ)ほか後援

交通事故や病気で脳を損傷した高次脳機能障害の人たちは、日常生活の中でさまざまな問題に直面しています。当事業団では、当事者とその家族、医療・福祉関係者らを対象に、2009年度から高次脳機能障害の人たちを支援する講演会活動に取り組んでいます。今年度は児童期、青年期、壮年期など、当事者が受傷をしたそれぞれの年代に応じて生活・就労・住まいのあり方について考える講演会を東京と大阪で開催しました。

●東京

東京での講演会は9月5日に、東京都中央区の浜離宮朝日小ホールで開催しました。高次脳機能障害の当事者をはじめ、作業療法士や言語聴覚士なども含め269人が参加しました。

まず、東京慈恵会医科大学附属第三病院・リハビリテーション科診療部長の渡邊修さんが「当

事者のライフステージに合った支援」と題して講演し、高次脳機能障害に関する基礎的な解説が行われました。高次脳機能障害になる主な原因疾患は、脳卒中や頭部外傷、脳腫瘍、低酸素症などで、このうちもっとも多いのが脳卒中です。その7割が脳の血管が詰まる脳梗塞によるもので、都内に約5万人、日本全国では50万人の患者がいるとみられています。

小児の時期における高次脳機能障害の特徴としては、大脳の発達期にあるため、症状が遅れて出たり、健康な周りの友人たちの成長に追いつけず学力差が生まれたり、いじめの対象になりやすいといった問題が挙げられます。支援者は「本人が納得できる具体的課題に取り組ませる」、「嫌な事はさせない」、「うまくできたら褒める」といったことに配慮する必要があると指摘しました。

続いて、国立研究開発法人国立成育医療研究センターリハビリテーション科医長の橋本圭司さんと、同センターで働く堀間真さん＝写真が対談をしました。堀間さんは14年前、26歳の時に友人の車に同乗していて交通事故に遭い、高次脳機能障害となった当事者です。2015年2月に同センターに障害者枠で採用され、リハビリ室の受付として働いています。障害のため周りの人の名前がなかなか覚えられず、「いつも半袖の人」などという形で判断をしながら仕事をこなしているそうですが、性格が明るくユーモアがあるため、周囲からは「笑顔がステキ」と言われ、センターの職員たちからも親しまれているようです。



後半のシンポジウム「当事者（少年期）の地域での包括的支援」は橋本医師が司会を行い、12歳の時に木から落ちて高次脳障害となった穴澤啓太さん（現・NPO法人翔和学園大学生）を、周囲の人々がいままでどのように支えてきたのか、その実体験を、母親の穴澤芳子さん、東京都心身障害者福祉センターの大塚祐子さん、足立区障がい福祉センターあしすとの宮尻京子さん、東京都立城北特別支援学校主幹教諭の林田麻理子さんの皆さんが、おのおのの立場から紹介しました。

啓太さんは、木から落ちた後3週間に渡って意識不明の状態が続きました。どうにか一命はとりとめたものの、それから5年間ほどは、自分の実体験とマンガなどで読んだ話がゴチャゴチャになってしまい、「人を殺しました」と言って警察に出頭したり、川に飛び込んだり、2階から飛び降りたりと、作話、妄想、徘徊といった症状が出ました。

お母さんも支援学校も、どう対処したらいいのかわからず困惑しましたが、橋本医師とうまくつながったことで高次脳機能障害としての対応ができるようになりました。中学3年生以降は、「チーム穴沢」と呼ばれた「関係者会議」を開けるようになり、地域のみんで啓太くんを支える態勢が確立されました。保護者や学校をはじめ、都心障センターや福祉センター、児童相談所などに地元の警察までが入ったチームです。

啓太さんの場合、学校が長期の休みになると問題行動を起こすという事が分かってきたため、学校が休みの間は児童デイケア施設に通ってもらいました。訪れた子どもたちと一緒に遊んだり、子どもたちを支援する側に回ってもらうようにしたら休み中も問題なく過ごせるようになりました。

●大阪

大阪での講演会は10月3日に、大阪市西区の大阪YMCA会館で開催され、164人が参加しました。

まず高次脳機能障害に関する基礎的な講演を、東京慈恵会医科大学の渡邊修さんが行いました。渡邊さんは冒頭、人間の頭の模型をカバンから取り出し、脳のどの部分を損傷すると、どのような機能障害が起きるのかといったことを説明しました。

続いて、国立成育医療研究センターの橋本圭司さんと、高次脳機能障害の当事者である登俊(のぼり・すぐる)さんの対談が行われました。登さんは講演時に35歳。26歳の時に、自転車で道を横断中に時速100キロで突っ込んできた車にはねられ、意識不明の重体に。集中治療室に2週間入り、3カ月後に退院はしたものの、高次脳機能障害の症状が出て挙動がおかしくなり、それまで勤めていた美容室を辞めざるをえなくなりました。

以後、土木作業やレンタルショップなどでバイトをしたものの長続きがせず、遊びに行った派出所で暴れたりしたため、精神病院にも2回入院し、拘束衣で体を縛られたりといったことも経験しました。

2012年からは大阪府豊中市にある高次脳機能障害のある人たちが集う「らしんばんの家」に入居。現在はカット専門の美容室で週4日、働けるほどに回復しました。会場で登さんの生活を追った関西テレビのニュース番組も放映。「らしんばんの家」で仲間と暮らすうちに、最初はこわばり固まったままのようだった登さんの表情が徐々に和らぎ笑顔も生まれてくるなど、登さんの様子の変化がとても印象的な番組でした。

後半は、橋本さんと、登さんが暮らしている「らしんばんの家」の施設長・山河正裕さん、大阪府豊中市のコミュニティソーシャルワーカー勝部麗子さんの3人による鼎談が行われました。勝部さんは、2014年4月に深田恭子さんの主演でドラマ化がされた「サイレント・プア」のモデルとなった人物で、同番組の監修も務めました。

「らしんばんの家」の山河さんは、98年に職員2人、利用者7人という態勢で、中途障害者を集めた無認可作業所として工房「羅針盤」をスタート。02年には利用者が30人に増えて社会福祉法人として認可されました。11年には第二工房も設立。12年にグループホーム「らしんばんの家」を建て、今は高次脳機能障害を中心にして障害のある人たち約150人が集う団体となりました。もう二度と道に迷いたくないという思いを込めて『羅針盤』と名付けたという山河さんは、「障害を受け入れるのは家族やご本人というよりも、社会全体で受け入れることのほうが先ではないか」と述べました。

コミュニティソーシャルワーカーの勝部さんは、ひとり暮らしの引きこもりの人やゴミ屋敷といった、制度のはざまに落ち込んでいる人たちに手をさしのべてきた数々の事例を紹介。高次脳機能障害については、本人が言葉を発しないので、自分たちが言っていることが本人に伝わっているかどうか不安だった家族を支援した事例を紹介しました。



勝部さんがその男性宅に家庭訪問に行ったところ、元気な時は4番でピッチャーをしていたという事が分かりました。試しに男性にグローブを持たせてボールを投げるマネをしてみたところ

ろ、男性はとっさにボールを受け止めるポーズをしました。男性が的確に反応したことで、こちらの言っている事などが分かっている、ということが家族にも理解できました。

勝部さんはさらにこの男性を「マウンドに立たせてみたい」と思い、高次脳機能障害の人たちを集めた野球チームを結成。発達障害などで引きこもっている子どもたちを相手のチームとして、実際に野球大会を開くことができました。このエピソードは「サイレント・プア」でも映像化されました。

勝部さんは、福祉の分野で起こる多様な狭間の問題を地域ごとに解決していくためには「住民まかせにしないし、行政任せにもしない。地域の人たちと一緒に解決していく事が大事。知る事によって、やさしさは生まれる。そのことを実感する人が増えていくことで世の中が変わっていく、ということを感じたい」と訴えました。

講演会「あなたのうつ 私のうつ となりのうつ」 ～てんてん、ツレと考える～(名古屋、東京)

当事業団など主催。地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会連合会後援

夫のうつ闘病生活を描き大ヒットとなった漫画「ツレがうつになりまして。」の著者細川貂々(てんてん)さんと「ツレ」こと夫でうつ病を経験した望月昭さん、精神科医の大野裕さん(一般社団法人認知行動療法研修開発センター理事長)を講師に招き、うつ病になってもその人らしく生きられるよう、本人や周囲の人にできることを考える講演会を、名古屋と東京で開催しました。

名古屋では、朝日新聞名古屋本社の朝日ホールで5月9日に開催して200人が参加。東京では、浜離宮朝日ホールで7月4日に催し、320人が集まりました。

大野さんが「うつ病との上手な付き合い方」について講演した後に、「てんてん」と「ツレ」の二人を交えてディスカッションを行い、「うつ」についてより



具体的に理解を深める時間を持ちました。二人は、当時の心境を交えながら夫婦でうつ病にどのように向き合ってきたのかを紹介。「ツレ」がこれまでの生き方や、考え方を



を変えていったプロセスや、その「ツレ」に寄り添い支え続けた「てんてん」さんの気持ち、その存在がいかに大切だったかを本人、家族、精神科医の立場からうかがいました。「てんてん」さんのサポートや声掛けのタイミング

が素晴らしかったことを例にあげながら、「うつ病の人を支えるには、周りの人の力やコミュニティの力が大切」という大野さんの言葉を実感できた講演会になりました。

視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」(東京)

当事業団、聖明福祉協会主催

視覚障害のある大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」の第47期奨学生が決まり、7月4日に東京都内のホテルで貸与式が行われました。奨学生に選ばれたのは、竹保遥さん(京都外国語大学)、加藤将太さん(駿河台大学)、中村遼佑さん(筑波技術大学)、山田陽介さん(天理大学)の4人。竹保さんは英語の教師になること、加藤さんはスクールカウンセラー、中村さんはIT関係、山田さんは貿易業に就職することが夢です。

式典では、聖明福祉協会の本間昭雄理事長が「学生生活を有意義に楽しく過ごし、目標に向かって頑張ってもらいたい」とエールを送りました。当事業団の大井屋健治事務局長が審査経過を報告したあと、厚生労働省社会援護局障害保健福祉部企画課の道躰正成・自立支援振興室長が「しっかりと勉強し、夢を実現されて社会でご活躍されることを祈念いたします」とお祝いの言葉を贈りました。

毎月3万円が貸与されるこの奨学金は、視覚障害のある学生を対象として1969年に国内で初めて設けられ、今年度で貸与者の総数は206人になりました。



第61回耳の日記念行事

日本耳鼻咽喉科学会主催。厚生労働省、文部科学省、日本医師会、当事業団など後援

日本耳鼻咽喉科学会は、ろうや難聴の予防と聴覚障害者に対する適切な指導・治療を図るため、3月3日を「耳の日」と定めています。この日を中心に各都道府県にある日本耳鼻咽喉科学会の地方部会が、聴覚や音声の重要性の啓発や無料相談会などを毎年開催しています。

15年度も同学会東京都地方部会が、補聴器を上手に使用できない人や日常会話が聴き取りにくい人らを対象にした無料相談会を、有楽町マリオン11階の朝日スクエアで3月6日に開催し、約80人の相談に専門医らが応じました。

「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」(東京)

内閣府主催。当事業団ほか後援

誰もが共に支え合って暮らす「共生社会」の実現を目指して、障害のある人とない人との心のふれあい体験を綴った「心の輪を広げる体験作文」の募集と、障害のある人に対する国民の理解を広めるための「障害者週間のポスター」の募集が、15年度も行われました。

作文とポスターで最優秀賞（内閣総理大臣賞）に選ばれた受賞者5人の表彰式が12月3日、中央合同庁舎の講堂で行われました。受賞した人々には賞状と副賞が贈られました。受賞者は次のみなさんです（敬称略）。

【作文】小学生＝大野城市立大野東小学校6年 加藤灯▽中学生＝大垣市立赤坂中学校3年
菅麻菜美▽高校生・一般＝川村恵子

【ポスター】小学生＝美里町立不動堂小学校3年 赤坂優心▽中学生＝さいたま市立大原中学校
1年 協駿太郎

第34回肢体不自由児・者の美術展（東京、福岡）

日本肢体不自由児協会など主催。厚生労働省、文部科学省、当事業団など後援

肢体不自由児・者の生きがいづくりと、障害のある人への理解を深めることを目的に、「第34回肢体不自由児・者の美術展」が12月16日から19日まで、東京芸術劇場（東京都豊島区）の5階ギャラリーで開催されました。

この美術展には、全国の肢体不自由児・者から合計705点の応募がありました。その中から選ばれた入賞作品93点（特賞25点、優秀賞37点、佳作賞31点）が展示され、初日には入賞者の表彰式も行われました。

当事業団からは、特賞のうち2作品（書、デジタルアート）に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。同展は全国各地を巡回して実施され、16年2月29日から3月6日まで、福岡市中央区天神のアクロス福岡でも開催されました。

主な特賞は次のとおりです（敬称略）。

【厚生労働大臣賞】絵画 福島美津子（広島県・広島市西部デイサービスセンター）▽コンピュータアート 糟谷幸輝（東京都立府中療育センター）

【文部科学大臣奨励賞】絵画 黒澤昇龍（静岡県・焼津市立港中学校1年）▽書 河西朝（山梨県立あけぼの支援学校小学部4年）

【東京都知事賞】絵画 高瀬瑠菜（東京都立鹿本学園小学部4年）▽書 柴崎啓二（東京都・あゆみの会）

【朝日新聞厚生文化事業団賞】書 畑中明日美＝写真＝（青森県立八戸第一養護学校中学部2年）▽コンピュータアート 高橋溪斗（埼玉県立熊谷特別支援学校小学部2年）



第44回聴美会展(名古屋)

中部聴力障害者美術同好会主催。当事業団など後援

聴覚に障害がある美術愛好者らが自主運営する美術展「聴美会展」が8月4日から9日まで、名古屋市中区の名古屋市民ギャラリーで開かれました。32人から絵画、彫刻、写真など約110点の作品が集まりました。優秀作品に贈られる朝日新聞厚生文化事業団賞は、工芸「桜のタペストリー」＝写真＝を出品した山本美代子さんが受賞しました。手話サークルの支援者や障害者施設の人ら約1500人が会場を訪れました。



第50回名古屋市障害者作品展示会

名古屋市身体障害者福祉連合会主催。当事業団など後援

名古屋市障害者作品展示会が16年2月9日から14日まで、名古屋市瑞穂区の市博物館で開かれました。障害のある4歳から84歳までの人が5部門325点(書道66点、絵画122点、写真34点、手芸58点、工芸45点)を出品しました。

5部門の優秀作品には当事業団が「朝日賞」の楯と賞状を贈りました。会期中に家族や友人ら約1100人が訪れました。

第36回障害者歩くスキーの集い(札幌)

当事業団、朝日新聞北海道支社主催。三菱電機協賛

障害のある人もない人も一緒にスキーを楽しむ「第36回障害者歩くスキーの集い」を、札幌市南区の滝野すずらん丘陵公園で16年1月17日に開催しました。

風もなく青空が広がった絶好のスキー日和のなか、1キロ、3キロ、7キロの3コースに分かれて計197人が参加し、それぞれのペースでゴールを目指しました。

今年初めて、3キロのコースに参加した聴覚障害を持つ札幌市西区の50代男性は「ゲレンデスキーの経験はあるが、歩くのは初めて。気分がスカッとした。来年も出たいですね」と笑顔で話していました。



第36回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会(鹿児島)

九州車椅子バスケットボール連盟、当事業団主催

第36回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会が、12月19日、20日、鹿児島県いちき串木野市の総合体育館で開かれ、九州・沖縄から10チームが参加し、熱戦が繰り広げられました=写真。

今大会の注目は、連勝中の「佐世保WBC」(長崎)が3連覇を果たし、九州の車いすバスケットボールで不動の地位を占める足固めとなるか、それとも歴代優勝チームのリベンジが成るかに焦点があてられました。



「佐世保WBC」の初戦は、優勝経験のある「SEASIRS(シーサーズ)」(沖縄)との対戦となりましたが、59対42で順調に勝ち上がり、続く準決勝も攻守のバランスがかみ合い無難に勝利しました。決勝の相手は、優勝候補の一角「太陽の家スパーズ」(大分)を準決勝で、48対32で破り、勢いに乗る「福岡breez」。決勝も僅差での戦いとなり、第2クォーターでは5点差まで「福岡breez」が迫りましたが、後半は「佐世保WBC」の攻めのスピードと固いディフェンスが勝り、68対44で3連覇を果たしました。3位決定戦では「太陽の家スパーズ」(大分)が「大分ウィルチェアーBC」を70対33で下しました。

上位2チームは16年5月に東京で開催予定の全国大会への出場権を獲得しました。

第27回九州車いすツインバスケットボール選手権大会(沖縄)

九州車椅子バスケットボール連盟、九州車椅子ツインバスケットボール委員会主催、当事業団共催

第27回九州車いすツインバスケットボール選手権大会が6月27、28日、沖縄県豊見城市の市民体育館で開催され、8チームが参加、熱戦が繰り広げられました=写真。

ツインバスケットボールは、フリースローサークルの中にもう一つ低いゴールがあるのが特徴です。下肢だけでなく上肢にも障害を持つ人でも参加できるように、日本で考案されたスポーツです。



高低2つのゴールがあることで、障害の重い選手もシュートを打つことができます。選手は障害の程度によって狙えるゴールが決められているなど、選手一人ひとりが障害の程度に応じて存在感を発揮でき、達成感を感じることができる競技です。

初戦から、3連覇を目指す博多パトラッシュ(福岡)チームと、第23回の沖縄大会で2チー

ムを編成して、両チーム同士の決勝戦で地元の大会を盛り上げた沖縄フェニックスの戦いとなりました。多くの声援の中、47対69で沖縄フェニックスが勝利し、決勝まで駒を進めました。

決勝は、沖縄フェニックスと熊本マウゴッツの戦いになりました。熊本マウゴッツは、昨年4強に入った福岡BEATと、昨年準優勝している太陽の家ブレイカーズ(大分)を共に破って、勢いに乗って決勝戦へと臨みました。結果は、84対30で沖縄フェニックスが勝利し、5年ぶり3回目の王者に輝きました。

高 齢 者 の 福 祉

高齢者在宅ケアモデル事業 認知症カフェ「あまなつ」

当事業団など主催

高齢となり認知症になっても、住み慣れた家、住み慣れたまちで暮らしていける地域づくりを目指し、「認知症カフェ」を全国に広める取り組みを行っています。そのひとつとして、2014年2月、南伊豆の小さな集落で、「認知症カフェあまなつ」を地元で活躍するNPO法人風楽(ふうら)(代表・渡邊映子さん)とともに開設しました。



「認知症カフェ」は、認知症の人やその家族、認知症のことが気になる地域の人やボランティア、そして医療やケアの専門職、行政の担当者といったさまざまな人が気軽に集まり、お茶を飲み、語らいながら、ひと時を過ごす場。参加者が安心できる空間と時間を共有する場所です。情報交換をしたり、ときには個人的な悩みを相談したりすることもできます。

高齢化率41.9%(2015年4月1日現在)の南伊豆での認知症カフェの活動が、地域で互いの生活を支えあっている、そんな社会の実現のモデルとなるよう目指しています。「あまなつ」には毎回15人前後の方々が集まります。月に1回の開催を心待ちにし、毎回参加して下さる方もいます。すでに参加している人が近所の人や気になる人を誘って一緒にきて下さることも多くあります。少しずつ、地域の中に仲間の輪が広がっていくのが感じられます。コーヒーや紅茶、お菓子などの代金はそれぞれ100円。地域に住む方なら誰でも「あまなつ」に参加できます。

●「あまなつ」1周年

一人ひとりが思い思いの過ごし方をされて回を重ねるごとに「あまなつ」が参加者の日常の一部になっていることが感じられてきました。開設1周年を迎えた16年2月11日には地元の方々と関係者を招待して「ありがとう1周年記念会」を開催しました。南伊豆町の松本恒明副町長もかけつけ、約80人が参加。「あまなつ」開設時からの助言者で、認知症になっても地域で安心して暮らすことを支えるための在宅医療をすすめる新田國夫さん(新田クリニック院長)のお話や、ミュージシャンでマジシャンの大友剛さんによるミニコンサートもあり、いつもの「あまなつ」よりも少し華やかでにぎやかな「カフェ」になりました。



高齢者在宅ケアモデル事業 ～認知症カフェ開設講座～

当事業団主催

認知症カフェを開きたいという声は各地で聞かれる一方で、カフェを始めるための具体的な方法や運営の仕方は伝わっていません。市民レベルで、認知症カフェがさらに広がり、社会に浸透していくよう、当事業団では、認知症カフェの意義や開設・運営のためのポイントを学ぶ講座を開催しています。京都認知症カフェ連絡会代表世話人でカフェの重要性を提唱している武地一さん（当時京都大学医学部附属病院神経内科講師）の講演や、各地で認知症カフェを運営している方々の実践報告などを通して具体的な内容を伝えるように努めています。

15年は、10月18日に福岡県中小企業振興センター、11月1日に愛媛県生活文化センター、12月12日に岡山市勤労者福祉センター、16年1月31日に石川県地場産業振興センターと計4回開催しました。

第1回目の開催となった福岡の講座には、認知症カフェの開設に関心のある地域住民や医療・福祉関係者、行政の担当の方々など約110人が参加しました。武地さんは認知症の人や家族の支援について触れた後、「認知症カフェ」と「認知症予防カフェ」や「高齢者サロン」の違いについても言及。「世間的にニーズが高いのは認知症予防かもしれないがしかしそれらは結果的に認知症の人を排除することにつながる場合がある」と認知症予防はカフェの本来の役割とは異なることを説明しました。



武地さんの講演のあとは、各地の認知症カフェの実践報告と、パネルディスカッションを行い、カフェを運営する上で欠かせない資金やスタッフの人件費などをはじめ、認知症カフェを開設、運営するためのより具体的な話を掘り下げて伝えています。

松山の講演会には約50人、岡山は100人、金沢は180人が参加し、熱心な参加者の姿から、認知症カフェの関心の高さがうかがえました。

講演会「看取り・幸せな人生の最終章とは」

当事業団など主催

当事業団は、年齢を重ねても住み慣れた地域で、最期までくらししていくことができるような社会をめざし、様々な講演会を実施しています。今回は「看取り」をテーマに、大阪市西区の大阪YMCA会館ホールで10月11日（日）に開催し、約170人が参加しました。

講師としてお招きしたのは、医師で東近江市永源寺診療所所長の花戸貴司さんと、写真家でフォトジャーナリストの國森康弘さん。國森さんが、花戸さんの医師としての働きぶりを取材して出

版した写真集「恋ちゃんはじめでの看取り」（農山漁村文化協会）は、「看取り」をテーマに死を正面から取り上げた写真集として反響を呼びました。

花戸さんの講演「住み慣れた地域で最期まで安心して生活するために」と國森さんの講演「人生の最期に寄り添うということ」の後に、「人生の最期を豊かに生きるためには」をテーマにした二人の対談を石前浩之・朝日新聞生活文化部次長の進行ですすめました。



花戸さんは、琵琶湖の東に広がる滋賀県東近江市(旧永源寺町)にある永源寺診療所を拠点とし、看護師、ヘルパー、薬剤師らと協力しながら、訪問診療、訪問ケアに取り組んでいます。永源寺地域は、人口約5800人、高齢化率は30%という典型的な高齢化の進んだ地域です。花戸さんは80人近い在宅の患者さんを担当し、在宅による看取りは年30人くらい。地域の約4割～5割の方の看取りをしているといます。

花戸さんは講演の中で、在宅医療は決して医師一人ではできない。看護師、薬剤師、ケアマネジャー、家族などの連携が大変重要と話し、地域社会の様々な資源を統合して展開する「地域まるごとケア」を推進したいと述べました。また、ご自身の医師の専門分野について、内科でも小児科でもなく「永源寺です」と、地域医療を支える思いを語ると会場から大きな拍手が送られました。

國森さんは、美しい自然に囲まれた永源寺地域と、そこで生きる人々の日常、そして看取りの場面などを写真で紹介しました。これまで取材した東日本大震災の被災地とそこに暮らす人々や、海外の戦地で生きる子どもたち、思い病気を抱えながら、人生最後の旅行を実現しこの世を去った少女に同行し撮影し続けた写真なども紹介しながら、命の大切さについて語りました。國森さんは、「看取りには悲しみだけではなく、生命のほとぼしりのようなものを感じる。死は単なる終わりではなく、それをつなぐ壮大なバトンリレーの一舞台である」と感じたといいます。

後半の質疑応答では、会場から寄せられた様々な質問について、石前浩之さんの進行でお二人に答えていただきました。また、参加者からは、「あっというまの3時間だった」「生きる自信がわいた」「心がうごかされる講演だった」などと、大変好評でした。

この講演会は、10月18日(日)に、東京中央区の浜離宮朝日ホールでも開催し、167人が参加しました。後半の対談の進行は、岡本峰子・朝日新聞元論説委員が務めました。

講演会「人生の最終章を自分らしく生き抜く」(大阪、東京)

当事業団主催

作家の椎名誠さんを招き、世界を旅する中で椎名さんが出会ったという、様々な葬儀や死の在り方について、大阪と東京の会場で語っていただきました。大阪は11月8日に大阪市西区の大阪YMCA会館で、東京は11月15日に東京都中央区の浜離宮朝日ホールでそれぞれ講演会を開き、大阪会場には251人、東京会場には362人が参加しました。

椎名さんは、肉親の死や少年時代に体験した親友の自死などについて綴った「ぼくがいま、死

について思うこと」という本を、新潮社から2013年に出版。今回の講演では、自身が望む葬式の在り方などを含めて、生きることや死ぬことについての思いを述べました。

世界の様々な葬式を見聞きしてきたという椎名さんが、「一番うらやましい葬式」として挙げたのが、チベットの鳥葬。チベットでは遺体を埋葬せずに、ハゲタカなどに食べさせて処理します。



寺の裏にある鳥葬場で、ハゲタカが食べやすいように遺体を細かく割り、チベットの人々が主食にもしている、サンパと呼ばれる麦こがし粉で包んでダンゴにしてやると、30分くらいで鳥が食べてしまい遺体は跡形もなくなるそうです。椎名さんは、これは一種の鳥への施しでもあり、遺影もなく、悲しみもまたすぐになくなっていくであろう葬儀として「きれいさっぱり自分なくなるのはいいなと思った」と評価しました。

この他、拝火教として知られるゾロアスター教による鳥葬やモンゴルの風葬、インドシナ半島における「ジャングル葬」や、ガンジス川にそのまま遺体を流すインドの水葬なども紹介しました。若い頃に行ったインドのバラナシの沐浴場では、インドの人々に混じってガンジス川を泳いだ際に、膨れあがった水死体と川で出会ってしまった、というエピソードなども語りました。

「埋葬の仕方は、本当にいろいろ」という椎名さんが、以上のいずれの方法にも共通することとして挙げたのが「墓が存在しない」という点。「昔の日本の土葬などと同じでやがて大地と一体化する。墓がないのは、いかに地球に優しいかがわかる」と話をまとめました。

講演会「自分らしい人生の最終章とは？」

当事業団主催

人生の締めくくり方について考える「自分らしい人生の最終章とは？」を名古屋と福岡でそれぞれ7月11日(土)と9月26日(土)に開催しました。この講演会は、昨年度に大阪と東京で開催した連続講座「自分らしい人生の最終章とは」の3講座の中で最も人気が高かった最終講座を特別に取り上げ、改めて名古屋と福岡で実施したものです。

医師で作家の久坂部羊(くさかべ・よう)さんが、近代医療ぎらいの父親の看取(みと)りを通して考えたことについて、医師の立場と家族の立場の両方の視点から、死を迎える心構えを含めて話しました。

久坂部さんは大阪大学医学部を卒業後、勤務医、外務医務官を経て2003年に作家デビュー。「悪医」(朝日新聞出版)で日本医療小説大賞を受賞されました。「悪医」をはじめとする、あまり馴染みのない医療の内側の世界を舞台とした小説は、近年大変注目を集めており、多くの作品がテレビドラマ化されています。

久坂部さんの父親は30代で糖尿病の診断を受けたのを始め、白内障、前立腺がん、認知症を次々と発症し、転倒して腰椎の圧迫骨折もしました。ところが、「検査を受けると、その数値で

心を患う。それなら症状が悪くなくてもいい」と糖尿病の治療を放置したり、がんと分かった途端、ほっとした表情を見せたりしたりするなど、自身も医師でありながら、病気や治療についての独特な見解を持ちながら生活をされました。

久坂部さんはそのような父親の姿を見て「どうやら、むやみな長生きを心配していた」のではないかと感じたといいます。そのような父親の生き方を受け入れ、自宅で看取った様子についてユーモアを交えて話し、約100人の参加者を引き込みました。



質疑応答の時間に寄せられた親への介護の向き合い方についての質問に「親のしたいことを支援するのが一番の親孝行。自分の価値観を押しつけてはいけません」とアドバイス。最期まで父親の自主性を確保しながら向き合った介護の姿勢に会場から大きな拍手が送られました。

福岡市の講演は、福岡朝日ビルで開催し、約80人が参加しました。名古屋会場に引き続き、父親の治療への向き合い方のエピソードをユニークな出来事を含めて紹介。「食事制限がストレスになって数値が下がらない！」と勝手な結論を導き、「(いっそ)検査をしなければ怖くない」と食事療法を放棄して家族を困らせた話や、前立腺がんを告げられると「これで長生きせんですむ」と達観した人生論を周囲に述べたりする姿を紹介。治療を拒否しながらも、最期まで自分らしく生きた父親の生き方を、様々な思い出とともに語りました。

最先端の医療より自分の感覚を信じ、闘病生活を続ける父親と、それをすべて受け入れ在宅看護を続ける久坂部さん。家族の死を目の当たりにしたら、皆うろたえ、動揺し、病院へとなるのが普通ですが、「自然に死んでいくことはある程度苦しいが、医療の手を加えるとその苦しみは長くなることもある。心の準備をして、なるようにしかならないという気持ちで過ごすしかない」「死を受け入れたら気持ちは穏やかになり、心配もなくなり、感謝の気持ちだけになります」と締めくくりました。

高齢期の豊かなくらし研究会講演会(大阪)

高齢期の豊かなくらし研究会、当事業団主催

高齢期の問題を考える学者や医療、看護、介護、福祉の専門家らが、市民目線に立って高齢期の情報を提供していく「高齢期の豊かなくらし研究会」(佐瀬美恵子代表)を2013年7月に立ち上げました。当事業団では、同研究会とともに専門家の情報交換の場と市民向けの講演会を開催してきました。

今年度は「認知症はこわくない」「認知症になっても大丈夫な環境づくり」「学んで準備～成年後見制度の理解と活用」の3つのテーマで講演会を開催しました。会場はいずれも大阪市北区の朝日新聞アサコムホールで開きました。

●講演会「認知症はこわくない」～からくりを学んで笑顔で暮らす～

6月7日に開催。講演者は、「認知症をタブーにしない」を合言葉に、出雲市で支援・啓発活動に取り組んでいるエスポアール出雲クリニックの高橋幸男院長です。高橋さんは、認知症患者がどのような経過をたどって周囲と孤立していくのかを説明しました。



認知症の症状には、記憶障害が起きる中核の症状の他に、BPSD (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia) と呼ばれる行動や心理などに影響を及ぼす周辺症状があります。このBPSDがどのように悪化して不幸なパターンへと陥るのか、そうなった場合に、家族や周囲の人々はどのような対応をすればよいのかが解説されました。

なぜ「認知症はこわい」と誰もが思うようになったのか。高橋さんは、1972年の有吉佐和子さんのベストセラー小説「恍惚の人」がきっかけではないかと推察しています。この小説の中で、認知症の人の異常な行動が描かれたため、世話する家族は大変なことになる、という認識が一般に広まったのではないかと、このように述べています。

今では認知症の当事者自身が発言をする時代となりました。「恍惚の人」が流行った当時と比べると認知症も解明が進み、認知症になった本人もまた実は悩んでいるのだ、ということがわかってきました。認知症になると、自分と配偶者、自分と子どもとの関係などが薄れ、たとえ家族に囲まれていてもつながりを失って「いつも一人ぼっち」と感じてしまうようになるそうです。

周囲との会話が減り、家族にも症状を受け入れてもらえず、「しかられている」というストレスを日常的にかかえてしまうようになります。不安で孤独な世界に追い込まれ「よるべない」存在になると高橋さんは指摘します。

こういった状況が、中核症状の記憶障害から二次的に起きてくるBPSDをさらに悪化させ、家族も苦しめるという悪循環へと陥ります。この流れを高橋さんは「認知症のからくり」と名付けています。家族はこのからくりのことをよく理解して、認知症の人のよるべなさに寄り添い、その症状を受け入れてあげることが大切だと訴えました。

●講演会「認知症になっても大丈夫な環境づくり」～地域包括ケア時代の住まいとケアのあり方

高齢者施設や住宅の計画・設計・研究に取り組んでいる三浦研・大阪市立大学大学院教授を招いて10月17日に、「認知症になっても大丈夫な環境は作れるのか」というテーマで講演会を開きました。

三浦さんは、グループホームで暮らす認知症の人たちの表情を調べた最新の研究成果をもとにして、認知症の人たちにとってどのような環境がのぞましいのかを解説しました。

認知症の人たちの表情は、コミュニケーションを取っている時によく、直接会話がなくても、スタッフから介護を受けている時や、周囲が会話を弾ませている時などにはよい表情が見られるのだそうです。



高齢者施設の多くは「生活」という視点が弱く、結果的に“寝たきり”の状態を増加させていると指摘します。環境を整えることで、ベッドに座るなどして起きている時間が長くなった、という報告もあるそうです。

また三浦さんは、施設と住まいを歩み寄せ、創意工夫と連携によって居住性をあげることが大切だと訴えました。その人の能力に応じた生活がちゃんとできているかどうかは、住宅におけるケアの質や環境による影響が大きいそうです。家庭的で、使い慣れた形や馴染みのあるものかどうか大切だと語りました。

後半は、古民家をサービス付き高齢者住宅に改修した例や、廃寺をリニューアルして高齢者と障害者のための温泉施設にしたケース、障害者の就労支援と連携させた多機能型福祉ホームといった各地で試みられているユニークな事例を紹介し、新しい介護機器の活用についても言及しました。

●講演会「学んで準備～成年後見制度の理解と活用」

認知症になっても安心して暮らし続けるために、成年後見制度の利用やその前準備について学ぶ講演会を2月13日に開催しました。

成年後見制度とは、病気や障害などが理由で十分な判断能力が持てなくなった人に対して、司法書士などの専門職や親族などが家庭裁判所から代理権を与えられた上で、預貯金などの管理や様々な契約の締結を代行する仕組みのことです。

講師は、大阪弁護士会所属の井上計雄さん。井上さんは、高齢者・障害者総合支援センター運営委員や日本弁護士連合会高齢者・障害者権利支援センター運営委員、日本成年後見法学会理事などを務めています。講演では、成年後見制度の概要や活用の実際、法的なトラブルが無いケースについて担う市民後見人についての紹介などがありました。



「これって認知症？」(大阪、東京)

当事業団主催

認知症の初期症状やその対応についての講演会「これって認知症？ ～早期治療の体験から学ぶケアの実際とこれからの課題～」を3月26日(土)に東京・築地の浜離宮朝日ホールで開催し、242人が参加しました。

講師は、週刊朝日編集委員の山本朋史(ともふみ)さんと、メモリークリニックお茶の水院長の朝田隆さん。63歳になる山本さんは、週刊朝日の現役の記者。しかし、取材でのしくじりなどで物忘れが気になり、東京医科歯科大学医学部付属病院の「もの忘れ外来」に勤めていた朝田隆医師に診察してもらった結果、2014年に軽度認知障害(MCI)と診断されました。山本さんは自らの認知症治療の体験を「認知症早期治療実体験ルポ ポケてたまるか！」と題して本にまとめ朝日新聞出版から刊行しました。

講演で山本さんは、自分の記憶力の問題に気づいたのは、二つの取材先に対し同じ日時に約束を入れてしまうダブルブッキングをしたことがきっかけ、と話しました。しかし、その前から「簡単な漢字が書けなくなる」とか「ズボンのチャックを閉め忘れる」といった物忘れの兆候が出ており、脳の断層写真を撮るMRIと脳血流の流れを調べてもらった結果、朝田医師からごく早期の認知症と診断されました。

ショックを受けた山本さんは、朝田医師が当時教授を務めていた筑波大学付属病院にデイケアの形で週一回、認知力アップのトレーニングに通うことになりました。頭を使うパソコンを利用したゲームや、水彩画を描く「芸術療法」、歌ったり楽器を奏でる「音楽療法」といったトレーニングを受けましたが、なかでも山本さんに効いたというのが筋トレ。



会場では、太ももを鍛える足上げの姿勢や、両足を大きく広げた股割りの形で行うスクワットなど、山本さんが受けて来た「本山式若返り筋トレ」を実演して見せました。こういった運動を行うと、筋肉から痛みの刺激が脳へと上がっていくことで感覚神経がうまくつながり、脳を活性化するそうです。これらトレーニングの結果、山本さんの認知症の進行は止まっているそうです。

続いて山本さんの主治医の朝田医師が「認知症の基礎知識」について講演。現在、日本の認知症患者は500万人を超え、その予備軍も450万人以上と見られています。全患者の7割が80歳以上で、有病率は5歳刻みで倍増しています。しかし、高齢で発病するという事は、それまでの生活の総決算という面が強いということでもあるので「予防効果が期待できるということ」と朝田医師は言います。



認知症予防には何が効くのか？ 医学的に行われた介入試験の結果では「ビタミンB、C」や「銀杏葉エキス」「降圧剤」といった栄養や医薬品については、いずれも期待薄。一方、山本さんが受けたような「運動」や「認知トレーニング」は「リスクを減らす」、「少しでもリスクを減らす」といった評価が下されています。

二人の講演の後は、山本さんと朝田医師の対談が行われ、会場からの質問に答えました。

「加齢による普通の物忘れと認知症との差は何か」という質問に対して朝田医師は、「自宅の2階に物を取りに行き、ハテ？何を取りに来たのか忘れてしまった、などといったことは認知症とは言わない。個別の物ではなく、そうしたことが『あった』というエピソード自体を忘れてしまうのが認知症」と説明。例として、前日までのストーリーを忘れてしまうので、NHKの朝の連続テレビ小説が楽しめなくなる、といった症状だと説明しました。

また「物忘れ外来のかかり方」に関する質問では、物忘れ外来の医師は、日本老年精神医学会か日本認知症学会に所属しているので、ネットで両学会の専門医を探して、自分のかかりつけ医に紹介状を書いてもらって診察を受けるのがよいということでした。

大阪でも、山本さんと朝田医師による同じ講演会を2月28日(日)に、大阪市中央区高麗橋の朝日生命ホールで開催し263人が参加しました。

フォーラム 認知症カフェを考える

朝日新聞社、当事業団、立教大学社会デザイン研究所(東京会場)主催

●大阪

7月25日、大阪・中之島の朝日新聞大阪本社で「フォーラム認知症カフェを考える」が開かれ、約200人が参加しました。認知症カフェは、厚生労働省の調査によると、41都道府県に597カ所あるそうです。

自らも認知症カフェを運営する京大付属病院神経内科講師の武地(たけち)一さんが「認知症カフェの作り方・使い方」と題して講演。カフェの運営方法や課題について語りました。

後半は、NPO法人「認知症の人とみんなのサポートセンター」代表の沖田裕子さんが加わり、武地さんと対談。沖田さんは、認知症カフェで課題となってくる人件費や場所代について「デイサービスなどで土日が空いている所などを探せば、無料で協力してくれる施設もある。立ち上げには、自治体の助成金を受けることができるかもしれない」と話しました。

●東京

東京会場の「フォーラム認知症カフェを考える」は、豊島区の立教大学タッカーホールで11月8日に開催され、約650人が参加しました。前半は、厚生労働省の水谷忠由・認知症施策推進室長が、国の対認知症戦略「新オレンジプラン」の内容を解説。後半は、京都大学医師の武地一さんと、京都認知症カフェ連絡会の川北雄一郎事務局長、川崎市で「土橋カフェ」を運営する明石光子さん、「認知症カフェ かさね」(千葉県市原市)の高橋瑞穂代表らカフェの実践者が討論しました。川北さんは、認知症カフェの広報について「利用するメリットが周知されてくると、黙っていても人は集まってくる」と指摘しました。

過去に3回開催した「フォーラム認知症カフェを考える」の内容が、「認知症カフェを語るともに生き、支えあう地域をめざして」(朝日新聞社CSR推進部編)という本にまとめられ、11月にメディア・ケアプラスから刊行されました。税込み2160円。

朝日高齢者福祉セミナー2015(名古屋)

愛知高齢者福祉研究会、当事業団、朝日新聞社主催

高齢者を支える医療や福祉を考える「朝日高齢者福祉セミナー2015」が6月7日、名古屋市中区の朝日ホールで開かれました。「医療と介護をつなぐ」をテーマに講演とシンポジウムがありました。

約120人が参加。訪問診療で先駆的な取り組みをしている岐阜市の開業医小笠原文雄さん(日本在宅ホスピス協会会長)が約



30年間の事例を基に基調講演しました。

在宅で穏やかに死を迎えた患者に出会ったことが訪問診療を本格的に始めるきっかけとなったそうです。孤独死というと独り暮らしでの在宅死を思い浮かべがちですが、普段の暮らしや地域社会から切り離された「病院での孤独死」こそが問題であることを、大勢のお年寄りの死に立ち会って実感したといいます。「希望死」「満足死」「納得死」を実現するためにさらに在宅での看取りを進めていく必要があると強調しました。

高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」(全国16カ所)

当事業団主催

日ごろ外出の機会が少ない、高齢者向け施設の入居者や利用者らを対象に、音楽家や相撲の力士らが訪問して楽しいひと時を届ける「ゆうゆうビジット」は、2015年度で7年目を迎えました。15年度は、全国の特別養護老人ホームや介護老人保健施設など16カ所を訪問しました。

7月末、名古屋場所を終えた大相撲高砂部屋の力士、幕下の朝弁慶と三段目の朝乃丈の2人が、愛知県小牧市の老人保健施設「豊寿苑」を訪れ、お年寄りら約100人と交流しました。食堂に畳12枚を敷き、竹で組んだ屋根もかけて「豊寿苑場所」を急造。懸賞幕や行事の軍配まで手作りする凝りようでした。解説は高砂部屋マネージャーの松田哲博(元一ノ矢)さん。軽妙な語り口で職員や地域の人との取り組みも加わり会場を沸かせました＝写真上。11月末には九州場所を終えた高砂部屋の力士、朝乃丈と朝金井が福岡県久留米市の介護老人保健施設「サンダイヤル」を訪問しました。初場所直後の1月末には、東京都日の出町平井の特別養護老人ホーム「ひのでホーム」で入所者や職員など約150人と交流しました。三段目の朝乃丈と序二段の朝金井が、高齢者らの前で相撲の技を披露し、施設職員などとも相撲を取ってみせて会場を沸かせました。大阪場所を終えた3月末には、大阪府高槻市の特別養護老人ホーム「ひばり苑」を大相撲高砂部屋の朝乃丈と朝興貴が訪問しました。



女優の日色ともゑさんと、ポルトガルギターとマンダリンのデュオ「マリオネット」は8月、静岡県島田市の特別養護老人ホーム「あすか」を訪問しました。マリオネットが「南蛮渡来」「日曜はダメよ」や焼酎のCMでおなじみの曲を演奏。演奏の後は日色さんが童話「白いぼうし」(作・あまんきみこ)を朗読しました。皆で一緒に歌ったり、手拍子をしたり、身体を揺らしたりと楽しい時間が流れました。84歳の入所者は「ギターも歌もすごく良かった。朗読では涙が出た」と笑顔で語っていました。12月20、21日に、京都市の介護老人福祉施設「市原寮」と宇治市の特別養護老人ホーム「宇治明星園」を訪問しました。20日は京都市の介護老人福祉施設「市原寮」を訪問。翌日の21日は宇治市の特別養護老人ホーム「宇治明星園」を訪問。会場の施設利用者や職員をはじめ、日色さんやマリオネットも含めて全員が赤いサンタの帽子をかぶり、クリスマスムード溢れる中でのコンサートとなりました＝写真上。



歌手のおおたか静流(しずる)さんとミュージシャンでマジシャンでもある大友剛さんは8月、広島市南区にある特別養護老人ホーム「ひうな荘」を訪問しました。大友さんの伴奏に合わせて、おおたかさんが「赤とんぼ」や「ゾウさん」といった童謡を歌い、大友さんが、白紙のはずのスケッチブックに絵が現れたり、その絵にさらに色が付いたりするマジックを見せたり、りんごにまつわる歌をメドレーにして歌ったりし盛りだくさんのコンサートになりました。会場からは演奏にあわせて踊り出す人も現れ、大変に盛り上がりました。9月7日は宮城県栗原市の特別養護老人ホーム「若藤園」で入所や通所の約70人が参加し、童謡「赤とんぼ」から始まり、国内外のリンゴの歌メドレーなど計9曲やマジックなどを披露。10月5日は長崎市の特別養護老人ホーム「サンハイツ」で開催。おおたけさんは、大友さんのピアノ・ピアノカによる伴奏で「赤とんぼ」「夕日」を披露し、大友さんはおおたかさんの発声に合わせて、スケッチブックに絵を描いたり、色付けしたり、一瞬のうちに描き換わるマジックやレコード版の色を瞬時に変えるマジックを披露しました。=写真上。



ギタリスト・福田進一さんは8月27日、愛知県北名古屋市の特別養護老人ホーム「あいせの里」を訪れました。クラシックギターの名曲に日本、南米の曲も取り混ぜた構成。静かな音色で弾き始めて、フラメンコをモチーフにしたアルベニスの「アストゥリアス」で場面転換。定番の「禁じられた遊び」でヤマ場をつくりました。福田さんのトークも会場を盛り上げました。「ずっとアルハンブラ宮殿を訪れる機会がなくてようやく昨年かないました。赤い壁に赤い夕日が当たり、燃えるような光景が印象的でした」。そう語って弾いた締めくくりの「アルハンブラの思い出」に、聴き入る入所者らはその光景を思い浮かべているようでした。11月9日、徳島県小松島市の介護老人福祉施設「千歳苑」を訪れました。クラシック音楽から始まり、利用者さんの希望が多い日本の曲、最後は映画音楽と合わせて11曲を披露。=写真下。



千住真理子さんは8月3日、福島県の特別養護老人ホーム「愛日荘園」を訪問。入所者ら約80人が熱心に聴き入り、盛んな拍手を送りました。千住さんは「G線上のアリア」や「ジュピター」など7曲を披露。最後に「とても元気の出る曲です。音楽からエネルギーを吸い取って元気に過ごしてください」と話し、「愛の喜び」を演奏しました。参加者の川島忍さん(76)は「すばらしいのひとつ」と満面の笑みで感想を述べ、花束を送りました。

バイオリニストの川島成道さんとピアニストの佐藤勝重さんは9月25日、岐阜県神戸町の特別養護老人ホーム「ラック」を訪問しました。川島さんの演奏は最初にクラシックから始まり、クライスラーの「愛の悲しみ」「愛の喜び」など3曲を披露。そして、チャップリンの映画音楽などを含めた8曲を演奏しました。佐藤さんの力強いピアノ伴奏と見事にコラボして、奏でる曲に感嘆の声が漏れ、なじみの曲では目を閉じて名場面を思い浮かべ、感動されている方もいました。川島さんから本日使用しているバイオリンの説明があり、ベートーベンが生誕した1770年に製作されたもので、245年も引き継がれていますと伝えると、施設入居者や利用者約70人からどよめきの声があがりました。10月27日は山形市の特別養護老人ホーム「なごみの里」を訪

問。11月4日、ピアニストの宮本聖子さんとのコンビで奈良市の高齢者介護福祉施設「かがやきのその」を訪問しました。川島さんはクライスラーの3部作である「愛の喜び」などのクラシックの楽曲や、映画「ティファニーで朝食を」の主題歌「ムーン・リバー」など、全9曲を披露。=写真上。



2010年2月に始まった「ゆうゆうビジット」は、通算で100回実施。

2015年度の全訪問先は次の通りです。

	訪問者(敬称略)	訪問日	地域	訪問先
1	福田進一	4月19日	愛媛県伊予郡	インフルエンザで中止
2	高砂部屋の力士	7月27日	愛知県小牧市	老人保健施設「豊寿苑」
3	日色ともゑ・マリネット	8月 3日	静岡県島田市	特別養護老人ホーム「島田福祉の杜あすか」
4	おおたか静流・大友剛	8月 3日	広島市	特別養護老人ホーム「ひうな荘」
5	千住真理子	8月 3日	福島市	特別養護老人ホーム「愛日荘園」
6	福田進一	8月27日	名古屋市	介護老人福祉施設「あいせの里」
7	おおたか静流・大友剛	9月 7日	宮城県栗原市	特別養護老人ホーム「若藤園」
8	川島成道	9月25日	岐阜県安八郡	特別養護老人ホーム「ラック」
9	おおたか静流・大友剛	10月 5日	長崎市	特別養護老人ホーム「サンハイツ」
10	川島成道	10月27日	山形市	特別養護老人ホーム「なごみの里」
11	川島成道	11月 4日	奈良市	高齢者介護福祉施設「かがやきのその」
12	福田進一	11月 9日	徳島県小松島市	介護老人福祉施設「千歳苑」
13	高砂部屋の力士	11月23日	福岡県久留米市	介護老人保健施設「サンダイヤル」
14	日色ともゑ・マリネット	12月20日	京都市	介護老人福祉施設「市原寮」
15	日色ともゑ・マリネット	12月21日	京都府宇治市	特別養護老人ホーム「宇治明星園」
16	高砂部屋の力士	1月25日	東京都西多摩郡	特別養護老人ホーム「ひのでホーム」
17	福田進一	2月25日	福岡市	インフルエンザで中止
18	高砂部屋の力士	3月28日	大阪府高槻市	特別養護老人ホーム「ひばり苑」

第11回自殺防止事業「心の健康～仏心は歌心～」(福岡)

福岡いのちの電話、当事業団主催。朝日新聞社、九州朝日放送、福岡県、福岡市後援、大同生命厚生事業団協賛

9月19日、福岡市の都久志会館で自殺を防ぐために何ができるのかを考える公開講座を開催しました。南陽山勝光寺(大分市)の住職・南慧昭(みなみ・えしょう)さん=写真=が、「心の健康～仏心は歌心～」をテーマにして、生きにくいと感じる現在社会でいのちを大事にして生きていくことについて歌を交えた軽妙な説法を行いました。約150人の参加者が、南さんの講話のなかに明日につながるヒント探りました。



日本は、昭和30年から目覚ましい発展を遂げてきました。特に、ビートルズの来日(昭和41年)あたりから都市がビル化し、やがてバブルの崩壊へと繋がっていきました。

その間、生活は豊かになりましたが、人の心のほうは本当に豊かになったのか? 慧昭さんは、人生を10年単位で区切り、どの年代が一番楽しいかを考えながら生きてきたそうです。「今、思えるのは60歳～70歳です。これから迎える80歳代はさらに楽しくなるのではないかと考えています」。人生の不公平感については「世の中は『存外公平』に天からの光は平等に与えられています。短期間で考えると、なんで自分だけがと不満も募るが、機会はみんなに与えられている。長いスタンスで物を見る必要がある」と説きました。また、「過ぎ去ったことに取り付かれず、くどくど思い詰めない。あらぬ『夢追い』を行わず、『何とかなる』の気安さで考え、大事なことは何事にも一歩踏み出す癖を作ること。立ち止まれば気持ちはしぼんでいきます」。「歌を歌い、体を動かしていると笑顔が出る。笑顔が出ればもめ事はおきない。そんな世の中になってほしい」「いつかはなくなる命、だから今を大切に生きよう!」と講演の最後を締めくくりました。

2014年の日本の自殺者数は2万5427人。近年減少傾向にありますが、依然として多い人数です。与えられたいのちを大切に、明日につながるヒントをこの講座で見つけ出せたならば幸いです。

いのちの電話などに福祉助成金(福岡)

当事業団では、福岡県内で地道な社会福祉活動を続け、継続的な支援が必要な団体を支援するための助成を続けています。助成金は運営費として活用できます。

福岡いのちの電話(福岡市)と北九州いのちの電話(北九州市)は、さまざまな事情から自殺を思うほど精神的危機に直面し、失いかけた生きる力の回復を手伝うために、ボランティア相談員

が年中無休の24時間体制で電話相談に応じています。福岡県交通遺児を支える会(福岡市)は、交通事故遺族の救済、福祉更生の援助や慰霊祭、励ます会、就学援助、奨学生の推薦などを行っています。この3団体に各15万円を贈りました。贈呈式は16年3月8日に朝日新聞西部本社で行いました。

アサヒベビー相談室(大阪、高槻、大津)

当事業団主催

育児に悩む親のために、無料の育児相談室をデパート内に設け、医師や歯科医師、栄養士などの専門家が、病気や発育、栄養などの相談を行っています。実施場所は、大阪市、大阪府高槻市や大津市の三つのデパートです

大阪・天王寺のあべのハルカス近鉄本店は、1957年に全国で初めてデパート内に無料の相談室を開設。2014年春にリ



ニューアルオープンし3年目を迎えました。清潔感があって明るく快適な相談室には、大勢の相談者が訪れています。ここには大阪市立大学医学部付属病院小児科の医師のほか、栄養士やヨガインストラクター、小児歯科医師といったさまざまな専門家がそろっています。春と秋にはイベントも行っています。保育の専門家によるパネルシアターや手遊びはファミリーで参加でき、大変にぎやかな雰囲気で開催されています(写真)。管理栄養士による「離乳食講習会」は、栄養士と近い距離で話しながら聞くことができる、子育てに役立つ講座です。

大津市の西武大津店(2004年開設)では、2014年秋に子ども用品売り場をリニューアルしたのにあわせて、子育て支援施設「育(はぐ)ママセンター」を新設しました。この一角で第1、3日曜日に、専門相談員が子育ての先輩の立場からアドバイスをするベビー相談を実施しています(2016年4月現在は休止中)。

大阪府高槻市の西武高槻店(1974年開設)では、毎週木曜日に小児科医が相談にあたっています。何年も通っている方もいて地域に根ざした活動を続けています。

今年度の各相談室の利用者数は次の通りです。

あべのハルカス近鉄本店 1009人(1回平均15.8人) ミニ講演会 277人

西武高槻店 334人(1回平均6.7人)

西武大津店 52人(1回平均2.9人=2015年4月から12月まで)

第67回保健文化賞(東京)

第一生命保険株式会社主催。厚生労働省、当事業団など後援

保健衛生の向上に寄与する研究や発見をした団体と個人に贈られる「保健文化賞」の第67回贈呈式が10月6日、東京都千代田区の帝国ホテル東京で行われました。10団体と個人5人に、賞金(団体各200万円、個人各100万円)と朝日新聞厚生文化事業団賞などが贈られました。

この賞は1949年に制定され、この分野の民間の表彰事業としては最も定評のあるものです。受賞団体・個人は次の通りです。(敬称略)

【団体】北海道家庭生活総合カウンセリングセンター、震災こころのケア・ネットワークみやぎ、福島県総合療育センター歯科協会の、茨城いのちの電話、日本助産師会(東京)、バイオメディカルサイエンス研究会(同)、多言語社会リソースかながわ、いのちにやさしいまちづくり ぽぽねっと(石川)、島根県食生活改善推進協議会、ホームホスピス宮崎

【個人】順天堂大学名誉教授・福地義之助(東京)、滋賀医科大学名誉教授・上島弘嗣(京都)、グランドタワーメディカルコート理事長・伊藤千賀子(広島)、歯科医・柳沢繁孝(大分)、医師・永井慎昌(鹿児島)

遺贈・遺言セミナー(東京、大阪、名古屋、福岡)

当事業団主催

自分が認知症になった場合への備えや、相続で起きうる問題、簡単な遺言状の書き方といった様々な「老いじたく」について学ぶ「遺贈・遺言セミナー」を、東京、大阪、名古屋の朝日新聞各本社と福岡市の福岡朝日ビルで開催しました。

東京(5月14日、参加127人)、名古屋(同11日、同21人)、大阪(6月13日、同140人)の各会場は、成年後見制度や相続問題に詳しい弁護士の中山二基子(ふきこ)さんが話し、福岡会場(5月13日、同22人)は福岡県弁護士会の石井将さんが講演をしました。

中山さんは、遺言書があったためスムーズに相続ができた80代の独身女性の例を紹介。この女性は生前に公正証書の形で遺言書を作成していたため、自分の財産を地元の自治体に望み通りに遺贈できました。一方、遺言を書かないまま夫が死亡してしまったため、財産の相続人として20人以上の親族が現れてしまい、相続に苦労した妻の例も紹介しました。遺言には「公正証書遺言」と「自筆証書遺言」、「秘密証書遺言」の3種類がありますが、とりあえず一番簡単な形の自筆証書遺言として「4行遺言」を書いておくことを薦めました。

また認知症になった場合への備えとして、財産などを管理してもらう人を、自分に判断能力があるうちに決めておく「任意後見制度」についても説明がありました。

後半の質疑応答のコーナーでは「夫婦でも遺言状は別々に書かねばいけないのか」、「任意後見が始まった後でも、遺言書を書く事は可能なのか」といった、かなり踏み込んだ質問も出されました。

福岡市で開かれたセミナーでは石井将弁護士が、「相続」が「争続」にならないための「知ってお

くと役立つ遺言と相続の法律知識」について、身近な事例を引用しながらわかりやすく説明をしました。

石井弁護士は、相続のトラブルを防ぐためには、遺言書など必要となる処置をあらかじめ講じておくことが重要だと強調しました。



ネパール地震救援金

当事業団、朝日新聞社主催

4月25日に発生したネパールの地震で大きな被害を受けた被災者のため、4月28日から6月30日まで救援募金を受け付けました。朝日新聞社からの100万円を含め、全国から寄せられた救援金は1426件、総額2998万7740円に上りました。全額を日本赤十字社本社に送りました。

関東・東北豪雨救援金

当事業団、朝日新聞社主催

9月に起きた関東・東北地方の豪雨で大きな被害を受けた被災者のため、9月12日から9月30日まで救援金を受け付けました。全国から寄せられた救援金は1401件、総額2705万108円に上りました。10月30日に飯田真也・朝日新聞厚生文化事業団理事長が、東京都港区の日本赤十字社本社を訪問。救援活動に役立ててもらうため、近衛忠輝（ただてる）日本赤十字社社長に目録を手渡し、全額を寄託しました。

台湾地震救援金

当事業団、朝日新聞社主催

2016年2月6日に台湾南部で発生した地震で台南市にあった16階建てマンションが倒壊して、100人以上が犠牲になりました。この地震の被災者のために、2月11日から29日まで救援金を受け付けました。全国から寄せられたご寄付は600件、総額813万2412円に上りました。この全額を日本赤十字社本社にお渡ししました。

チャリティー事業

朝日チャリティー美術展(名古屋、大阪、東京)

当事業団、朝日新聞社主催

全国の芸術家や著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる「朝日チャリティー美術展」を15年12月に名古屋と大阪で、16年3月に東京で開催しました。文化勲章受章者や人間国宝を含む画家、工芸・彫塑(ちょうそ)家、書家、宗教家、茶道家など各界の著名人のみなさん約2800人にご協力をいただきました。販売作品は日本画、洋画、工芸、彫塑、書、色紙など約3400点に上りました。

●名古屋展

第62回になる名古屋展は12月25日から27日まで、名古屋市中区栄の丸栄百貨店で開催しました。約900人の作家から約900点のご協力をいただき、入札と即売で展示・販売しました。

今回から陶工芸と絵画の即売を初日に一斉スタートしたところ、大勢のお客さまでにぎわいました。漫画・イラスト作品も一層拡充し、若者を中心に人気を呼びました。



●大阪展

89回目を迎えた大阪展は、12月27日から29日まで、大阪・なんば高島屋7階グランドホールで開催しました。約900人の作家から1000点の寄贈をいただき、入札と即売で販売しました。

大阪では初めてクレジットカードによる購入が可能となり、来場者には大変好評でした。人気のイラストレーター、絵本作家、漫画家のコーナーのほか、昨年開催して人気が高かった特別企画「琉球(沖縄)の工芸コーナー」を今年も併催しました。人間国宝の平良敏子さんをはじめとする17人の作家から紅型やシーサーの置物、ガラス工芸などが寄せられ、すべて入札形式で販売しました。3日間ののべ入場者は、年末の開催となったため、例年よりも少ない3600人でした。



●東京展

91回目の東京展は3月4日から7日まで東京都中央区の松屋銀座で開催し、約1000人の作家から寄贈された作品約1500点を入札と即売形式で販売しました。

前期の4、5日は日本画家、洋画家の作品、後期の6、7日は工芸家、



版画家、書家、著名人の作品を販売しました。前期、後期ともに初日は早朝から多くの人が列を作り、オープンと同時に目当ての作家の作品を求める姿が見られました。今回から新たにご協力くださった作家も多く、社会福祉の共感の輪が広がっています。

●Next Art展

次世代のアートを担う若手作家の作品を推薦するNext Art展を、朝日チャリティー美術展東京展と併催しました。応募作196点から選ばれた30作品を展示、入札販売しました。会場では作家と来場者の交流もみられ、若い作家の活躍の場を広げるという面からも、同展の意義は高まっています。

Next Art展の売り上げは、作家のさらなる創作活動と当事業団の社会福祉事業に役立てられます。

第65回メサイア演奏会(東京)

当事業団、朝日新聞社主催。東京藝術大学音楽学部協力、JR東日本特別協賛

チャリティーコンサート第65回「藝大メサイア」を12月24日、東京・上野の東京文化会館大ホールで開きました。東京藝術大学音楽学部指揮科招聘教授の山下一史さんによる指揮で、藝大フィルハーモニアと同大学同学部声楽科の学生ら約200人が「メサイア」全曲を披露。荘重な「ハレルヤ」コーラスで約2000人を超える聴衆を魅了しました。

このコンサートは、1951年(昭和26年)の第1回より同大学同学部の教員、学生が出演する年末恒例のチャリティーコンサートとして人気が高く、今回が65回目。1997年からは美術学部教員の協力も得てポスターやプログラムを制作しており、今年と同大学大学院保存修復日本画准教授の荒井経さんにご協力いただきました。

毎年オーディションで選考されるソリストは、その後も日本の音楽界をリードする方たちばかりです。今年のソリストは、いずれも大学院生の竹田舞音さん(ソプラノ)、小野綾香さん(アルト)、澤原行正さん(テノール)、青木海斗さん(バス)のみなさんが務めました。

来場者の間では長年「藝大メサイア」の愛称で親しまれ、リピーターも多く訪れますが、中には第1回から毎年来場し、ソリストの卒業後の成長を楽しみにされている方もいらっしゃいます。

今年はクリスマス・イブの公演ということで終演後、来場者の皆さんに、声楽科の学生からサプライズでアカペラの「きよしこの夜」がプレゼントされました。



第57回各派合同三曲演奏会(大阪)

当事業団主催

琴、三絃、尺八の世界で活躍する各派社中が競演する邦楽の演奏会を、11月23日、大阪市中央区のNHK大阪ホールで開催しました。今回は16社中が参加し、約千人の観客が、優雅な和の音色に浸りました。



出演社中と曲目は次の通り(出演順、敬称略)。

須山知行・中島警子社中「きぬた」▽酒井典彦社中「第九」▽八千代会「秋の曲」▽都山流大阪府支部「本曲薫風」▽遊琴会「銀色の翼にのって」▽菊井松音と菊井箏楽社「尾上の松」▽菊扇弘子と琴栄会「いつかどこかで」▽中扇喜琇鳳社中「新玉の曲」▽箏曲和光会・琴古流玉川社「錦秋」▽中村双葉と葉風会「能登の海」▽大阪正絃社「春風の刻」▽中里会「荒城の月抄さくら舞曲」▽菊田歌雄社中「波頭の踊り」▽箏曲栄琴会「琴の栄」▽菊武厚詞社中「野辺の錦」

第63回 洋舞合同祭(大阪)

当事業団主催

12月24日から26日までの3日間、大阪市北区中之島のフェスティバルホールで、モダンダンスとクラシックバレエの祭典「第63回洋舞合同祭」を開催しました。今年度はアートバレエ難波津と麻美バレエランドが新たに加わり、16団体21チーム(児童の部11チーム、大人の部10チーム)の総勢870人が出演。日頃の成果を披露した華やかなステージで観客を魅了しました。入場者数は4400人でした。



次の団体が記念表彰を受け、舞台上で当事業団から表彰状と記念品が贈られました。

【25日】55回記念表彰＝波多野澄子バレエ研究所＝写真

出演団体は次の通り（出演順）

- 【24日】児童の部＝下田春美バレエ教室、麻美バレエランド、法村友井バレエ学校▽大人の部＝地主薫バレエ団、法村友井ジュニアバレエ団
- 【25日】児童の部＝アートバレエ難波津、大阪バレエアカデミー、波多野澄子バレエ研究所、江川バレエスクール▽大人の部＝大阪バレエアカデミー、江川バレエスクール、波多野澄子バレエ研究所、アートバレエ難波津
- 【26日】児童の部＝野辺恵バレエスタジオ、宝塚音楽学校附属宝塚コドモアテネ、本田道子バレエスクール、江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所▽大人の部＝スズキ・バレエアート・スタジオ、MRB松田敏子リラクゼーションバレエ、畑節子バレエ学院、高田由紀子バレエ学園

協賛能（大阪）

能楽協会大阪支部、当事業団主催

関西で活躍する能楽師や狂言師が一堂に集まる恒例の「歳末助け合い協賛能」を12月23日、大阪市中央区の大槻能楽堂で開催しました。能は観世流、喜多流、宝生流、金春流、金剛流。狂言は大蔵流、和泉流の各流派が出演。能は「菊慈童（きくじどう）」「半蔀（はしとみ）」「鉄輪（かなわ）」「枕慈童」。狂言は「盆山（ぼんさん）」が演じられました。

公演は午前と午後の2回に分かれ、約900人の入場者がありました。いずれも能楽堂の前には入場待ちの列ができて、関心の高さをうかがわせました。収益金は4万6000円になり、全額が厚生文化事業団に寄付されました。

第62回各流合同茶会／第3回関西学生チャリティー茶会（大阪）

当事業団主催

3月12、13日に各流派の茶道宗匠の協力を得て行う各流合同茶会と、関西の大学茶道部の学生らによるチャリティー茶会を大阪美術倶楽部（大阪市中央区今橋）で開催しました。まだ寒さが残るこの時期、華やかな着物姿の入場者ら両日延べ5千人以上が訪れました。

会場には各日8茶室（茶会6茶室、学茶会2茶室）に、大広間に学生による書、生け花、絵画などの展覧席が設けられ、おおいに賑わいました。

一般の人たちにお茶を点てる機会の少ない学生たちも、「多くの人で大変緊張した」と話してくれました。入場者からも「若々しさの感じられる席だった」「手作りのお菓子がかわいかった」と好評でした。





●各流合同茶会の懸釜担当宗匠は以下の通り（敬称略・順不同）

【12日】表千家流＝木村雅基、裏千家流＝村司宗紫、村上宗秀、武者小路千家流＝佐伯江南斎、遠州流茶道＝筍新会、習軒流＝坂田柏苑

【13日】表千家流＝森泰輔、裏千家流＝杉本宗璋、武者小路千家流＝木津露真、藪内流大阪支部五葉会、古石州流＝本庄扇宗、花月菴流大阪支部

◆協賛宗匠

表千家流＝生形貴重、表千家同門会大阪支部▽裏千家流＝中尾宗勢、矢野宗菁
武者小路千家流＝芳野宗春、三宅真翁、藪内流＝随竹庵、宗徧流大阪支部、一茶庵＝佃一輝、松尾流＝上西宗慶、庸軒流＝柿本梅軒、松風清社＝泉谷亘風

●関西学生チャリティー茶会の懸釜大学は以下の通り（順不同）

【12日】表千家流＝関西学院大学、藪内流＝大阪樟蔭女子大学

【13日】裏千家流＝神戸女学院大学、奈良女子大学

運営＝大阪医科大学、展覧席の企画運営＝大阪芸術大学

第61回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋）

当事業団主催、名古屋美術倶楽部協賛

名古屋の茶道8流派によるチャリティー茶会を12月14日、名古屋市中区の名古屋美術クラブで開きました＝写真。師走の一日、約千人が各流派のお点前を楽しみました。和服姿の女性が多く華やかな席となりました。

お点前の順番を待つ間、先生持参の道具類をめでたりする光景もありました。

ご協力いただいた各流派と席主は次の通り（敬称略）。

第1席 尾州久田流（下村瑞晃）、裏千家（庄司宗文）、遠州流（丸山宗翠）、宗徧流（寺尾宗康）

第2席 志野流（蜂谷宗玄）、松尾流（松尾宗典）、久田流（加藤久道）、表千家（谷口宗清、柴田紹和）



第53回チャリティー大茶会(北九州)

茶道裏千家淡交会北九州支部主催。当事業団など後援

北九州市小倉北区の小倉井筒屋で9月5、6日に第53回チャリティー大茶会が開かれました。秋の訪れを告げるこの茶会には、女性客を中心に2日間で約1200人が訪れました。茶道裏千家淡交会北九州支部の会員によるお点前で、美味しいお茶とお菓子を楽しんでいました。後日、収益金の49万5241円が当事業団に寄せられました。

杵勝会 第33回歳末チャリティー長唄演奏会(東京)

一般財団法人杵勝会主催。当事業団後援

円熟の重鎮から若手まで幅広い層の長唄演奏家が集まる杵勝会が12月20日、第33回歳末チャリティー長唄演奏会を有楽町朝日ホールで開催しました。収益金から15万円が事業団へ寄付されました。

上野学園第56回慈善演奏会

学校法人上野学園主催、当事業団後援

東京・台東区の上野学園で12月22日に「リコーダー万華鏡～12人の綾なす500年の歴史パノラマ～」と題した慈善演奏会が開かれました。ファン・エイクの笛の楽園より「美しい羊飼いの娘フィリス」やG.ガブリエーリの「第1旋法による8声のカンツォーナ」などが演奏されました。集まった23万8613円が事業団に寄付されました。

浦和学院高校吹奏楽部チャリティーコンサート(埼玉)

浦和学院高校吹奏楽部主催、当事業団後援

さいたま市緑区の浦和学院高校吹奏楽部が16年1月11日に、東日本大震災救援を訴えるチャリティーコンサートを開催しました。集まった16万1825円は、朝日新聞さいたま総局を通して当事業団に寄託されました。このコンサートは2004年の新潟県中越地震をきっかけに毎年1月に開かれるようになり、今年で11回目。部員たちが手作りした被災地の状況を伝えるパネルなどロビーに設置して募金を呼びかけました。

主な後援・協賛・協力事業一覧

(※各事務所の区分は管轄内)

日程	催事		主催者	会場
本部事務所(東京)				
3/29～8/30	第9回全東京ろう社会人軟式野球TDリーグ戦大会	後援	全東京ろう社会人軟式野球連盟	新荒川大橋野球場ほか
4/13～15	第7回国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブin横浜」	特別後援	ゴールデンウェーブ開催委員会、横浜みなとみらいホール	横浜みなとみらいホール
5/2・3	第20回ウオーキングフェスタ東京 ツーデーマーチ	後援	同ツデーマーチ実行委員会	都立小金井公園など多摩・武蔵野地域
5/4～6	第43回日本車椅子バスケットボール選手権大会	後援	日本車椅子バスケットボール連盟、日本障害者スポーツ協会ほか	東京体育館
5/30	日本リウマチ友の会第55回全国大会	後援	日本リウマチ友の会	ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング
5/30・31	第31回DPI日本会議全国集会in福島ほか	後援	同実行委員会、DPI日本会議	ビッグパレットふくしま
6/5	日本聾話学校チャリティー映画会	後援	日本聾話学校	ホテルメトロポリタン長野
6/28、8/5～7、11/7・8ほか	朝日キャンプ	後援	NPO法人 朝日キャンプ	千葉印旛郡ぼうそう村ほか
7/10・11	第64回関東聾学校陸上競技大会	後援	関東聾学校体育連盟	埼玉県上尾運動公園陸上競技場
7/22～24	第64回関東聾学校バレーボール大会	後援	関東聾学校体育連盟	神奈川県立体育センター
9/7	東京都老人クラブ芸能大会	後援	東京都老人クラブ連合会	文京シビック大ホール
9/10	日本点字図書館 秋のチャリティー映画祭	後援	日本点字図書館	なかのZERO
9/23	第19回電動車椅子サッカー関東大会	後援	関東ブロック電動車椅子サッカー協会	障害者スポーツ文化センター横浜ラポール
9/25	第45回「朗読録音奉仕者感謝の集い」	後援	鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会	弘済会館
9/26	光バンドチャリティーコンサート 愛のサウンドフェスティバル	後援	東京光の家	ひの煉瓦ホール
9/27・28	みんなの音楽会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会	浴風会大ホールほか
10/3	第13回本間一夫記念 日本点字図書館チャリティーコンサート	後援	日本点字図書館	東京文化会館
10/7～9	第42回国際福祉機器H.C.R.2015	後援	全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会	東京国際展示場
10/17	多摩在宅医療・地域包括ケア研究会シンポジウム	後援	同研究会ほか	一橋大学
10/31	第47回愛隣会チャリティーバザー	後援	愛隣会	愛隣会(東京都目黒区)
11/1～3	第38回日本スリーデーマーチ	後援	東松山市、日本ウオーキング協会、朝日新聞社ほか	埼玉・比企丘陵一帯

日程	催事		主催者	会場
11/1～3	サイトワールド2015	後援	同実行委員会、日本盲人福祉委員会	すみだ産業会館
11/7	第36回全国歯科保健大会	後援	山梨県、山梨県歯科医師会ほか	山梨県立県民文化ホール
11/14	第12回本間一夫文化賞	後援	日本点字図書館	日本点字図書館オープンオフィス会場
11/15	第62回東京都聴覚障害者大会	後援	東京都聴覚障害者総合支援機構	ティアラこうとう
11/20	平成27年度全国社会福祉大会	後援	厚生労働省、全国社会福祉協議会、中央共同募金会	日比谷公会堂
12/2	第27回「国民の健康会議」	後援	全国公私病院連盟	ヤクルトホール(東京都港区)
12/7～9	第53回「弘済学園 わたしたちが創る展」	後援	鉄道弘済会ほか	JR東京駅
12/12～13	情報アクセシビリティ・フォーラム2015	後援	全日本ろうあ連盟	秋葉原UDX他
12/18	第64回東京都社会福祉大会	協賛	東京都、東京都社会福祉協議会、東京都共同募金会	東京都庁
12/19～24	自立援助ホーム「憩いの家」資金バザー	後援	青少年と共に歩む会	日本橋高島屋
2016年3/5	「メンタルヘルスの集い」(第30回日本精神保健会議)	後援	日本精神衛生会	有楽町朝日ホール
3/5・6	第45回耳の日記念文化祭	後援	東京都聴覚障害者総合支援機構	東京都障害者福祉会館ほか
大 阪 事 務 所				
通年	第51期 電話相談ボランティア養成講座	後援	関西いのちの電話	大阪府立羽衣青少年センター
通年	H27年度「地域保険福祉研究助成」ボランティア活動助成」	後援	公益財団法人 大同生命厚生事業団	大同生命厚生事業団
4/12	第33回日本ライトハウスチャリティコンサート	後援	日本ライトハウス	ザ・シンフォニーホール
4/17～19	バリアフリー2015(第21回)	後援	大阪府社会福祉協議会	インテックス大阪
4/26	全国遷延性意識障害・家族の会講演会	後援	全国遷延性意識障害・家族の会講演会	大阪市立生涯学習センター
5/31	第22回共生・共走リレーマラソン	後援	同マラソン実行委員会	花博記念公園・鶴見緑地
6/6～7	第11回堺ツデーマーチ	後援	堺市、南海電車	堺市代
7/2～3	第65回近畿児童自立支援	後援	和歌山県、近畿児童養護施設協議会、	紀三井寺公園」球場他
7/5	第22回マインドエアロビクス	後援	マインドエアロビクス実行委員会	大阪市長居障害者スポーツセンター体育室
7/5	第50回肢体不自由児者を支援するチャリティーバザー	後援	大阪市肢体不自由児者父母の会連合会	アネックスパル法円坂
7/6	講演会「ヘレンケラーの手紙」	後援	桃山学院大学	桃山学院大学
7/18・19	福祉の就職フェアWinter in osaka	後援	大阪府、府社協ほか	インテックス大阪

日程	催事		主催者	会場
7/19～ 21、26・27	2015年子供の城 障がい児教育夏期 連続講座	後援	一般社団法人子供の城協会	公文教育会館5階
7/21	共に生きる・交流研修会	後援	共に生きる・交流研修会実行委 員会	西宮市総合福祉セン ター
7/30～8/2	第27回ろう教育を考える全国討論会	後援	特定非営利活動法人ろう教育 を考える全国協議	サンスクエア堺
8/4～9	第36回子どもたちの賛歌	後援	大阪特別支援教育諸学校造形 教育研究会ほか	大阪市立美術館
8/7～12	第32回「土と水と緑の学校」	後援	公益財団法人 アジア協会アジア友の 会	新宮市高田地区一帯
8/22	ナイトハートバザール in キューズ モール	後援	大阪府社会福祉協議会大阪授 産事業振興センター	あべのキューズモー ル
8/22～24	吃音親子サマーキャンプ	後援	日本吃音臨床研究会	彦根市荒神山自然の 家
8/24	第54回近畿知的障がい者福祉大会	後援	近畿手をつなぐ育成会など	国際障害者交流セン ター
9/3	第65回施設従事者激励会	後援	大阪民間社会福祉事業従事者 共済会	大阪松竹座
9/22	全国高校生手話パフォーマンス甲子 園	後援	同甲子園実行委員会	米子市公会堂
10/9～10	きょうされん第38回全国大会 in ひょうご	後援	きょうされん	神戸国際展示場
10/12, 12/13	こころがシンドイときシリーズ26	後援	精神障害と社会を考える啓発 の会	大阪市立総合生涯学 習センター
10/13	第21回大阪YMCAチャリティーラ ン	後援	大阪YMCAなど	長居公演外周
10/18	ファインエリアフェスティバル 2015	後援	ファインエリアフェスティバ ル実行委員会	大阪府障がい者交流 促進センター
10/25	第43回全大阪ろうあ者文化祭	後援	大阪聴力障害者協会	大阪市長居障害者 スポーツセンター体育室
11/7	第51回肢体不自由者を支援するチャ リティーバザー	後援	大阪府肢体不自由者父母の会 連合会	八尾市山城町1丁目 第1公園
11/8	身体障害者福祉法施行65周年	後援	大阪市、大阪市身体障害者団 体	阿倍野区民センター
11/8	第39回「福祉まつり」	後援	第39回「福祉まつり」実行委 員会	城東区 関目学園
11/11・19・20	平成27年度医療社会事業従事者講 習会	後援	大阪医療ソーシャルワーカー	エル大阪南ホール
11/25	第16回大阪救護施設合同文化事業 運営委員会	後援	大阪救護施設合同文化事業運 営委員会	太閤園迎賓館3階
11/25	若さの栄養学秋ノ講演会	後援	一般財団法人若さの栄養学	大阪産業創造間
11/26	平成27年度大阪府社会福祉大会	後援	大阪府社会福祉協議会	大阪国際交流セン ター
12/2～5	第22回ノーマイゼーション「絵画・ 創作展」	後援	ノーマイゼーションクラブ	大阪市立総合生涯学習 センター
12/20	NPO法人こころ子育てインターネッ ト関西第26回フォーラム	後援	NPO法人こころ子育てインター ネット関西第26回フォーラム	大阪人間科学大学庄 屋学舎
2016年 1/22～26	第35回障がいのある子どもに学ぶ 図工展	後援	大阪市小学校教育研究会特別 支援教育部	大阪市長居障害者 スポーツセンター体育室

日程	催事		主催者	会場
1/31	平成27年度認知症講演会	後援	大阪認知症研究会	千里ライフサイエンスセンター
2/11～13	2016国際親善車椅子バスケットボール大阪大会	後援	日本車椅子バスケットボール連盟	大阪中央体育館
2/20～21	TEACCHコラボレーションセミナー2016	後援	TEACCHプログラム研究会	京都染織会館
2/28	府民のつどい大きく変わる難病対策の全体像	後援	NPO大阪難病連	エル・おおさか（中央区北浜東）
2/28	第36回みんなでつくるコンサート	後援	同実行委員会	西宮市プレラホール
3/18～4/6	世界ダウン症の日写真展 in 大阪	後援	日本ダウン症協会	梅田スカイビル40階
西 部 事 務 所				
通年	西日本カラオケ連合協議会のチャリティー発表会（年に数回予定）	後援	西日本カラオケ連合協議会	北九州市内の生涯学習センターほか
4/12、7/5、8/23	第5回全九州ろう社会人軟式野球大会	後援	全九州ろう社会人軟式野球連盟	福岡県・大牟田市延命球場ほか
5/24	第53回北九州市障害者スポーツ大会	後援	北九州市障害者スポーツ協会ほか	北九州市立本城陸上競技場ほか
5/26～31 6/17～22 6/25～30	第50回西部伝統工芸展	協力	日本工芸会ほか	福岡三越 熊本県・鶴屋百貨店 大分県・トキワ本店
5/30	第33回北九州精神障害者家族会連合会総会・記念講演会	後援	北九州精神障害者家族会連合会	あかつき会「さんらいず小芝」事業所
7/17～20	第36回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ	後援	福岡あゆみの会	やすらぎ荘
8/10～12	第60回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ	共催	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡県立少年自然の家「玄海の家」
10/9～11	第40回記念全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	後援	全日本ろう社会人軟式野球連盟	久留米市営球場ほか
10/11・25	第52回福岡県ろうあ者体育大会	後援	福岡県聴覚障害者協会	久留米市総合福祉センターほか
11/22	平成27年度ひとり親家庭・寡婦のふれあいスポーツ大会	協力	北九州市母子寡婦福祉会ほか	北九州市小倉北体育館
11/10～12/10	第63回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市など福岡県内主要都市
名 古 屋 事 務 所				
4月～10月	第67回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	愛知県共同募金会ほか	愛知県庁本庁舎ほか
4/12	第35回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	西尾市体育館ほか
4/18～5/24	平成27年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会	名古屋・星ヶ丘ボウルほか
5/8～11/22	第12回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市ほか	パロマ瑞穂スタジアムほか
5/21～23	第18回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2015～	後援	名古屋国際見本市委員会	ポートメッセなごや
7/4	第53回心身障害問題を考える集い	後援	社会福祉法人あさみどりの会	朝日ホール

日程	催事		主催者	会場
7/5	第32回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	長久手市文化の家
8/10～15	第32回岐阜心理リハビリテーション療育キャンプ	後援	岐阜心理リハビリテーション部会親の会ほか	大垣市山村体験宿泊施設「奥養老」
8/16～22	第30回中部ブロック動作法セミナー	後援	三重県心理リハビリテーション連合会	三重県立鈴鹿青少年センター
8/18～23	第43回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	ホテル ボンセジュール
8/24～26	第66回全日本少年野球大会	後援	全国児童自立支援施設協議会、全日本少年野球連盟ほか	長良川球場ほか
9/10～12/10	第63回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県内
9/26～9/27	第2回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会名古屋大会	後援	全国手をつなぐ育成会連合会ほか	名古屋国際会議場
10/3	生き生き長寿フェア2015「はつらつ健康プラザ」	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	あいち健康の森公園(大府市、東浦町)
10/4	第43回医療講演会	後援	三重県重症心身障害児(者)を守る会	三重県伊勢市総合庁舎
10/24	第18回 なるほど!なっとく!!高次脳機能障害	後援	NPO高次脳機能障害者支援笑い太鼓	朝日ホール
10/30	第63回愛知県社会福祉大会	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	愛知県体育館
10/31	脳外傷リハビリテーション講習会	後援	同講習会実行委員会	名古屋市中区役所ホール
11/3	第60回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市中区役所ホール
11/4	認知症の人と家族の会愛知県支部「35周年記念講演会」	後援	公益社団法人「認知症の人と家族の会」愛知県支部ほか	日本福祉大学東海キャンパスほか
12/20	第55回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合会ほか	豊田市民文化会館
2016年2/20・27	平成27年度知的障害者支援者養成講座	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会館ほか
3/6	第34回耳の日記念聴覚障害者と県民の集い	後援	愛知県聴覚障害者協会	豊川市文化会館

チャリティー美術展に出展いただいた皆様

(50音順、敬称は略させていただきました)

【日本画】

(あ行)

青山博之	赤沢嘉則	秋本幸一	浅野信康	朝比奈陽心	安達英志郎	阿部穰	荒井孝
新井陽子	安藤徹	池田夏乎	石踊紘一	石崎昭三	石田幸誠	石塚青篁	泉東臣
板垣青仁	市川保道	市野鷹生	市野晴美	市橋豊美	伊藤はるみ	伊藤正男	犬飼白龍
井上耐子	井上北斗	猪熊佳子	今井武久	岩田三枝	岩波昭彦	岩本峯斉	植田清子
上村淳之	鶴飼千佐子	白井治	内田広己	烏頭尾精	梅原幸雄	江川照美	蝦名芳枝
王荻地	大嶋英子	大竹紫水	大塚千聰	大月紅石	大野廣子	大野幹彦	大森運夫
大矢時保	大矢十四彦	大矢紀	大矢眞弓	岡田郁子	岡信孝	小川国亜起	小倉理山
落合初美	小山硬	折式田生子					

(か行)

春日あけみ	勝田幸男	加藤恵	加藤美恵子	加藤佳子	兼島聖司	鎌田紀子	上岡奈苗
川合和子	河合重政	河嶋淳司	川島睦郎	河津胖子	河村沙希	河本正(故人)	
川本淑子	菅かおる	神林久子	菊池治子	岸野圭作	木村英史	金原保則	久芳道信
久保嶺爾	倉田富美	倉地千枝子	栗原幸彦	小泉智英	上泉蘭一良	郷倉和子	香西坦子
国府克	小島光徑	後藤順一	後藤紳也	後藤純男	小林正直	小林六博	小宮絵莉
近藤恵三子							

(さ行)

齋藤陽	斎藤和	斎藤宗	坂元洋介	佐久間顕一	佐々木経二	佐々木裕而	笹本正明
佐治満澄	佐竹雲遊	佐藤晨	佐藤継雄	猿橋幸治	澤山輝彦	椎名保	重岡良子
品川成明	清水史郎	清水達三	清水信行	清水操	下川立夏(故人)		下島洋貫
下田義寛	霜鳥忍	杉谷彩光	鈴木紀和子	鈴木竹柏	鈴木至夫	染谷聡之	

(た行)

高木白雲	高越甚	高野純子	高橋新三郎	高橋浩規	田口愛子	武市齐孝	武田州左
田島奈須美	多治見早苗	田代邦子	辰巳寛	伊達良	田中重造	谷井恵紅	谷口蕙香
田宮栄子	田村仁美	月居和子	辻村和美	土屋雅裕	土屋禮一	角田範子	道家珍彦
戸田みどり	殿南直也	富元秀俊	鳥山武弘				

(な行)

中岡友子	中川脩	長崎莫人	中島潔	中島千波	永田実子	中谷温男	中庭隆晴
中根妙子	中野貴雄	中野嘉之	仲林敏次	中村宗弘	名古屋剛志	那波多目功一	
成田環	新美葉子	仁木寿美子	西野陽一	西村勝廣	西村光人	西山英子	西脇繁華
沼本三郎	野原真澄						

(は行)

長谷川郁子	服部誠子	浜上俊和	濱田昇児	浜田泰介	林孝彦	林田啓江	林美枝子
原武子	日置宏輔	樋口鎮吉	日比野光雄	平岩洋彦	平尾秀明	平松礼二	福王寺一彦
福本達雄	藤井康夫	藤原祐寛	二川和之	紅山幸水	堀川えい子	本間正英	

(ま行)

前島恵里乃	前田龍一	馬驍	馬瀬里子	間瀬静江	町田泰宣	松生歩	松木秋佳
松崎良太	松下勝正	松村公嗣	松室加世子	松本進	松本高明	松本勝	真野尚文
三浦絵衣子	三上俊樹	三沢英伍	水江東穹	水谷勝子	水野收	水野本光	三谷青子
三宅和光	宮崎観峰	宮野孝司	宮本脩子	宮本和胡	三輪晃久	村井玉峰	村田晴彦

森田りえ子 森英明

(や行)

矢澤貞子 安川眞慈 谷中武彦 柳績 柳沢正人 山口溪華 山口義明 山下まゆみ

山本恭子 山本しず子 山本真一 山本真也 吉岡三樹子 吉田祥子 吉田多最

(わ行)

若麻績敏隆 和田洸珀 和田利造 渡辺章雄 渡邊幸子 渡辺富栄 亘征子

【洋画】

(あ行)

青江健二 青木今陽 赤塚一三 浅井清貴 浅井義弘 麻田博子 遊馬賢一 東弘孝

安達康夫 渥美静子 阿部信行 阿部晴美 安部英夫 天野吉則 荒井孝 安藤公一

飯田道嗣 池田くみ子 池田清明 池田洋子 恵俊彦 井阪仁 石倉豊 石阪春生

石田聖子 石根三千代 石野紀美子 石野容三 石橋武夫 石原ミチオ 居島春生 板垣千鶴子

板倉美智子 伊丹重男 市村一 井手典子 伊藤和義 伊藤清和 伊藤純子 伊藤隆

伊藤秀男 伊東博子 伊藤文男 井藤雅博 伊藤康夫 稲垣考二 稲垣龍雄 井上慎介

井上利哉 井上よう子 井口由多可 今関アキラコ 今村价男 入江観 岩井康頼

岩瀬郁夫 岩田視司 岩田知幸 岩谷康世 岩渕晃三 岩本かずえ イ・ワヤン・シーラ

上木伸之 上尚司 上田真澄 上野憲一 上野千代子 上野理男 白井恵之輔 碓井たか子

打田幸男(故人) 宇野義行 生方純一 梅村徹 栄永大治良 江上寿夫 榎俊幸

榎本多恵子 江本繪門 遠藤晴夫 王前一馬 大石つね子 大川浩市 大口邦子 大島泰子

大谷哲生 大津英敏 大西生余子 大西弘之 大橋城(故人) 大淵繁樹 大見伸

大森良三 岡貞徳 緒方洪章 岡千秋 岡宏 岡義実 小川清子 小川幸紅

小川周二 小川リエ 沖田廉平 沖中勝則 荻野宏幸(故人) 奥田喜一 奥谷博

奥村聰臣 尾崎ゆき子 納健 小澤一正 尾澤達也 小沢眞弓 小田島えい子

織田義郎 乙丸哲延 小野仁良 小野知久 面矢元子 折本美祢子

(か行)

加古千恵子 笠井誠一 梶浦寿布 春日井正 片山弘明 加藤助八 加藤千太郎 加藤照

加藤トオル 加藤信子 加藤吉春 金井順子 金丸悠児 壁下孝 上所幹彦

辛島一誓(故人) 加覧裕子 川井一義 河野宗之蒸 川原比瑳子 河村斗世子 菊池郁子

菊地洋二 喜澤のり子 岸田淳平 岸野昭 木谷利江 北見隆 北村美枝 橋田政明

木寺淳二 鬼頭恭子 木下實之 樹林雅生 木村信之 木村正志 木村優博 日下直樹

草壁隆 草野直己 久世瑠璃 久保輝秋 倉田政子 倉持正 栗田政勝 黒木郁朝

黒木トシ子 黒木雅彦 黒沢信男 黒田秀方 黒田富紀子 黒田勝 黒柳弘行 桑島春彦

小池かよ 小泉元生 河本和子 小阪謙造 五島まさを 小瀬垣宏郎 後藤昭夫 小林千枝

小林英且 小林雅英 小林裕児 小柳晟 小柳景義 小柳幸代 小山オサム 小山成

近藤昭彦

(さ行)

斎藤高志 斎藤孝弘 斎藤千川予 斎藤由比 佐伯浩 沙海苑子 酒井英利 坂本泰漣

坂本直 坂本よしこ 櫻井孝美 桜井陽彦 櫻井幸雄 佐光重紀子 佐々木馨 佐崎紘一

佐々木澄江 佐々木友幸 佐藤一成 佐藤勝信 佐藤潤 佐藤泰生 佐藤富美子 佐藤義光

佐野千津子 猿渡士郎 塩川佑子 志賀源吾 四方道夫 七里和子 芝田キク 柴田美智子

芝芳雄 嶋谷卓之 嶋谷美鈴 島田安雄 島村信之 清水亟煥 清水鉄彌 清水佳子

下園由莉 白川順子 白鳥三郎 白山扶士子 新宅光男 水藤澄子 杉浦充 杉田明維子

杉本澄男 杉山英子 鈴江章郎 鈴木勝之 鈴木貞子 鈴木延雄 鈴木福男 瀬尾一嘉

関拓司 世利徹郎 園山幹生 祖父江弘幸
(た行)

醍醐イサム 高梨芳実 高松政子 多賀谷無人 滝沢直次 滝滋 瀧下和之 瀧田依子
 宅田忠正 田口正子 竹内喜久江 竹内重行 竹内靖夫 竹生節男 竹下功 竹中稔量
 竹原邦樹 多田晴義 辰将成 楯岡和子 田中敏夫 田中良 谷川泰宏 谷本暁雄
 タマカワ千恵 玉谷明美 玉谷優 千原稔 中條健史 塚田清 塚原ヨリ子
 塚本英一 津川純子 津田勝利 堤慶 椿野浩二 鶴房健蔵 鶴見雅夫 鶴山好一
 出村幸代 寺井徹 寺沢順子 土井邦晃 遠山源吾 戸狩公久 富澤尚美 富田伸介
 友成晴雄

(な行)

永井夏夕 中井史郎 長井宏之 長尾浩一 長澤すみ江 長澤卓重 中嶋国博 中島千恵
 中島裕司 中嶋美瑛子 中田順 中谷健三 長富博子 中西良招 中野治朗 中野洋一
 長濱伶子 中村英 中村光幸 那須ゆいか 生井京子 桧崎重視 難波忍 仁木雅子
 西井義晃 西澤知江子 西田藤三郎 西野一郎 西村純子 西村壽郎 西山徹 新田ゆき子
 丹羽直子 塗師祥一郎 沼尾雅代 根萩斎門 野辺田紀子 野村亜紀子 ノムラカツキ
 乃村豊和

(は行)

萩原栄文 橋本忠夫 長谷岩友 長谷川和子 濱田進 濱田弘康 濱本恵一 早川勝
 林孝三 林茂樹 原田たかし 原尚子 原秀樹 半澤満 日賀野兼一 平井誠一
 平井智子 平岩郁郎 平尾倫子 平川富貴子 平野昭子 廣岡清武 広瀬範 広田和典
 深川和久 深津静男 福岡幸子 福岡通男 福原満江 福満よさ美 藤井勉 藤崎恒頼
 藤村サツ子 藤本正男 藤森悠二 布施久美子 ブライアン・ウィリアムズ 別府忠雄
 帆足ゆり 保ヶ淵静彦 保科浩一 細川進 細谷久美子 堀井克代 堀尾一郎 堀博喜
 本間千恵子

(ま行)

前川雅幸 前島隆宇 榎利光 牧野美代子 正木茂 榎木高 マサルW 増本憲樹
 松井茂樹 松浦正博 松浦安弘 松沢茂雄 松田貴美子 松原政祐 松村和紀 松室重親
 三浦敏和 三浦勉 三木義尚 三塩清巳 水野伊津子 水野利詩恵 水野一 源尊磨
 美濃部民子 三柘明子 三宅四郎 宮崎進 宮下由夫 宮田翁輔 宮平勉 宮本裕之
 宮山博司 村井成好 村井洋子 村岡顕美 村瀬京平 村田伊佐夫 村田知子 村山容子
 村山陽 森勇 森下ヒロ子 森田眞 森田幸宏 森長武雄 森文男 森本計一
 森本有一

(や行)

八木時子 安井啓二 安井正子 安居素子 安富信也 安福葉子 柳瀬俊泰 矢萩武三志
 藪崎昭 藪野健 山尾才 山岸用之介 山口剛生 山口静治 山口隆夫 山口美佐子
 山下恒子 山下毅 山田正二 山田精一 山田嘉彦 山手正彦 山寺重子 山本亞稀
 山本悦子 やまもと悦子 山本虎雄 山本文彦 横井三郎 横内襄 横山申生
 吉岡均二 吉岡耕二 吉城弘 吉田伊佐 吉田清光 吉田淳一 吉田敏男 吉田緑
 吉野清 吉村美令由 米田整弘

(わ行)

わたせせいぞう 渡辺明 渡辺卓美 渡辺正夫 渡邊妙法 渡辺良一 和田行雄
 渡紀美子

【工芸】

(あ行)

相羽鴻一郎	青木九仁博	青木拳	粟生屋東洗	青山鉄郎	青山双男	赤毛敏男	秋野宏和
浅井秀子	浅蔵五十吉	浅原千代治	足利直子	東正之	東好昭	与勇輝	安達章
安達雅一	新歓嗣	雨宮弥太郎	荒井さつき	荒川達	嵐一夫	有松進	有本空玄
安藤栄子	安藤和久	安藤源一郎	安藤敏彦	安藤則義	安藤日出武	安藤博允	安藤友紀
安藤良輔	井尾建二	池田珪子	石井視子	石橋裕史	石山静男	伊豆蔵幸治	伊勢崎淳
伊勢崎創	市川清鱗	市川博一	市川正美	市野悦夫	市野勝磯	市野元祥	市野元和
市野信水	市野哲次	市野年成	市野英一	市野雅彦	市野正大	市野勝	一宮現
一宮侑	糸井康博	伊藤敦子	伊藤勝彦	伊藤憲一	伊藤美月	伊藤秀人	伊藤優
伊藤雄志	伊藤良典	伊藤渡	稲垣天津男	稲垣幹夫	稲嶺盛吉	稲荷作	井上萬二
井上康德	井上楊彩	今泉今右衛門		今井紀昭	今井政之	今西方哉	伊村徳子
岩井香楠子	岩瀬健一	岩瀬弘二	岩田溪山	岩淵寛	岩本孝志	上田哲也	上江田ひとみ
浮田健剛	後田和孝	宇田川溪山	内堀敏房	内村幹雄	内村由紀	内山政義	浦上光弘
うら林あきお		永楽善五郎	大泉讚	大角裕二	大上巧	大河内泰弘	大川正洋
大倉貞義	大倉真汝	大塩玉泉	大塩昭山	大城一夫	大須賀選	大角幸枝	太田和明
大谷昌拡	太田貢	大槻昌子	大野晃幹	大野耕太郎	大野昭和斎	大野誠二	大橋聰子
大樋勘兵衛	大樋朔芳	大樋年雄	大平和正	大平孝昭	大湾美枝子	岡田崇人	小形こず恵
岡田親彦	岡田春海	岡田泰	岡田裕	岡本篤	岡本白水	岡本碧山 (故人)	
小川真之助	小川長楽	小川二楽	荻原毅久	荻原守彦	奥村公規	奥村繁豊	奥山峰石
小倉健	小椋範彦	桶谷洋	小畑裕司	尾張裕峯			

(か行)

角谷英明	各見飛出記	隠崎隆一	鹿児島成恵	加古若菜	鹿島和生	梶原茂正	春日井範之
片山雅博	勝尾青龍洞	勝尾龍彦	勝田保子	加藤永司	加藤錦雄	加藤清之	加藤錦三
加藤溪山	加藤圭史	加藤敬也 (故人)		加藤孝造	加藤幸兵衛	加藤作助	加藤惇
加藤春定	加藤眞也	加藤尊也	加藤委	加藤唐三郎	加藤土史路	加藤土代久	加藤真雪
加藤美土里	加藤陽児	加藤嘉明	加藤亮太郎	加藤廉平	金子信彦	金子認	金重晃介
金重利右衛門		加納義光	樺澤健治	鎌田幸二	亀井幸一	亀井勝	川井明子
川井明美	河合竹彦	河井透	河井敏孝	河上恭一郎	川上力三	川喜田敦	川北浩彦
川北良造	河口純一	川口保規	川崎鳳嶽	川崎靖英	河島洋	川手敏雄	河端一海
川端近左	川端文男	川淵直樹	神崎継春	神崎正英	神戸義憲	菊地弘	北大路泰嗣
北岡省三	北岡秀雄	北口夢石	北野勝彦	北村和義	北村堅治	北村英昭	九世吉向松月
吉向孫斎	絹谷幸太	木村玉舟	木村素静	木村展之	木村雅子	木村充良	木村元次
木村盛伸	木村盛康	清水六兵衛	工藤和子	久野勝生	栗林一夫	黒岩卓實	黒岩達大
黒木国昭	黒田正玄	黒田暢	黒田儀男	桑原みさ雄	鯉江廣	小出芳弘	厚東孝明
神山清子	神山直彦	神山易久	小島憲二	小嶋太郎	小峠葛芳	小西陶蔵	小西朋子
小西博雄	小橋川清次	小橋川太郎	小林一雄	小林一富美	小林東洋	小林浩	小林貢
小林勇超	小林理恵	小南吉彦	小室幸雄	小森邦衛	小谷内和央	小柳種圃	小山貴由
近藤精宏	今野春雄						

(さ行)

斎木勲	齋藤修	斎藤則行	斎藤裕子	西念秋生	佐伯健剛	坂井修	酒井甲夫
酒井田柿右衛門		坂井貂聖	坂井教人	酒井博司	酒井芳樹	榊原啓司	榊原勇一
坂本俊人	佐久間藤也	佐々木省庵	佐々木二郎	佐々木苑子	佐々木強	佐々木雅浩	佐々木悠紀子
佐藤和彦	佐藤苔助	佐藤喬	佐藤巧	佐藤典克	佐藤二三子	佐藤泰子	佐藤亮

佐野寛	寒川栖豊	寒川義崇	皿谷実	澤克典	澤清嗣	沢田重雄	澤田利光
沢田豊山	柴岡信義	柴田好明	島岡桂	島田耕園	島田緋陶志	島田文雄	清水潮
清水潤	清水醉月	清水剛	清水千代市	清水俊彦	志村ふくみ	志村洋子	祝嶺恭子
庄村健	白武初芳	白幡明	城間栄順	新庄貞嗣	新谷一郎	水津和之	末吉清一
杉江明美	杉江善次	杉本貞光	鈴木藏	鈴木環	鈴木五郎	鈴木三成	鈴木茂至
鈴木爽司	鈴木大三朗	鈴木富雄	鈴木量	砂田正博	諏訪蘇山	関守高	瀬津純司
曾我阿嬉子	十河慶子						
(た行)							
平良恒雄	平良敏子	高聡文	高岡久美子	高木廣司	高橋彰	高橋新六	高橋楽斎
高原卓史	高見勝代	滝川幸志	滝口和男	瀧口喜兵衛	武石和春	竹内真吾	竹内眞三郎
武腰敏昭	武田敏男	竹之内彬裕	武村豊徳	竹村繁男	多田幸史	田中忍	田中源彦
田中悠子	棚橋淳	田邊小竹	谷川仁	谷口玄	谷口幸二	谷口正典	
谷清右衛門(五代)		谷野明夫	谷本あけみ	谷本洋	田沼春二	田原陶兵衛	玉村松月
力石俊二	塚原三千勝	塚本治彦	塚本満	辻英芳	辻聡彦	辻常陸	津田哲司
土谷道仙	土田友湖	土屋典康	土屋順紀	筒井修	筒井辰也	都築青峰	恒岡光興
鶴田明子	出口清廣	手塚隆	手塚央	寺田みのる	寺本守	照井一玄	天坊昌彦
徳川浩	徳田明美	徳田八十吉	飛井隆司	富岡大資	豊住和廣	豊場惺也	豊本信子
(な行)							
長江哲男	中尾彰秀	中尾恭純	中川進	中里太郎右衛門(十四代)			中里壽
中島翁助	中島卓	中嶋虎男	中島保美	中島悠紀夫	中田一於	中田呂尚	中塚佐一
中根秀介	長野恵之輔	中野陶痴(五代)		中野亘	中村眞一	中村宗哲	中村雅明
中村實	中村豊	名倉鳳山	並木恒延	新里明士	新野素子	新美吉昭	二貝清一
西浦武	西尾茂	西尾瑞舟	西尾武人	西川勝	西川實	西功一	西田真也
西村源治	西村松逸(優)		西村直城	二十歩文雄	根崎隆博	納富晋	野坂和左
野嶋峰男	野田東山						
(は行)							
萩井一丘	萩井一司	箱瀬淳一	迫二郎	橋爪靖雄	橋本昇三	蓮善隆	長谷川文陽
波多野善蔵	波多野英生	羽田登	波多野正典	麦畑耕生	花輪滋實	羽石修二	馬場九洲夫
馬場弘吉	羽原一晃	浜田英峰	早川嘉則	林慶六	林健人	林正太郎	林寧彦
林亮次	原田拾六	ピーター・ハーモン		東田茂正	東直人	久田邦男	樋上千哲
平野祐一	平野由佳	廣澤益次郎	広沢葉子	廣瀬友美	広田優美子	深石美穂	深川巖
福井由美	福岡琢也	福島武山	福田参平	藤井敬之	藤岡周平	藤田潤	藤村州二
藤本智弘	藤原和	藤原楽山	冬柴文廣	古瀬堯三	古田一	古谷徹	古家喜義
帆足まおり	星野友幸	堀田博門	堀川十喜	堀俊郎	堀野証嗣	堀菱子	本郷大田子
本多亜弥							
(ま行)							
前田泰昭	前端雅峯	前史雄	味舌隆司	眞清水藏六	増田昌弘	松井康陽	松尾潤
松尾剛彦	松吉	松崎健	松嶋弘	松田由岐子	松林正人	松村仁団望	松本為佐視
松本勝哉	松本佐一	松本尚	松本達弥	松本政昭	松本正雄	松本良夫	丸田延親
三木表悦	水野敬子	水野静仙	水野銘一	水野富弘	水野教雄	水野真澄	溝上藻風
三ツ井詠一	美藤康夫	皆川隆	宮川香齋	宮川弘尚	三宅紀保(故人)		宮田豊
宮田亮平	宮地生成	宮地陶博	宮本直樹	宮本茂利	美和隆治	迎里正光	向山文也
村井一郎	村上東市	村越風月	村瀬玄之	村田肇一	村山明	室瀬和美	室町勝廣
モーガン・ルイス		百田暁生	森一蔵	森伊呂久(故人)		森一洋	森勝資

森克徳 (や行)	森里秀夫	森大雅	森田芳伯	森陶山	森本英助	森泰司	森脇文直
屋我平尋	安田道雄	安田れい子	柳橋修二	山内厚可	山内一生	山口堅造	山口貞子
山口宏夢	山口美智江	山口みちよ	山口義博	山田耕作	山田孝三	山田孝藏	山田晋一朗
山田進二	山田正博	山田義明	山近泰	山出勝治	大和潔	大和努	大和保男
大和祐二	大和義昌	山中辰次	山本象成	山本秀吉	山本雄一	山本竜一	湯村京子
横山尚人	吉賀将夫	吉川修身	吉川千香子	吉川正道	吉田宏信	吉田真人	吉田美統
吉田幸央	吉田喜彦	吉富文代	好本敦郎	好本宗峯	吉本正	好本康人	米田和
米田萬太郎 (わ行)							
若尾経	若尾圭介	若尾利貞	脇田宗孝	湧田弘	和田桐山	渡辺松華 (礼而)	
渡辺琢哉	和田一人						
【版画】							
(あ行)							
秋元幸茂	安東菜々	池上壮豊	池間英治	井堂雅夫	井上勝江	植野史煌	尾崎淳子
尾崎斎晃	小原喜夫	園城寺建治					
(か行)							
片山誓泉	河内成幸	木嶋ちさ加	木村秀樹	日下里美	國安珣子	熊谷吾良	古賀章
小崎侃							
(さ行)							
サイトウ良	佐久間嘉明	桜井貞夫	塩田みはる	志野和男	白木俊之	須田敏夫	世古剛
(た行)							
高部多恵子	高柳裕	瀧秀水	田中喜一	辻憲	鶴岡さゆり	富田文雄	富張広司
(な行)							
野田哲也	乗兼広人						
(は行)							
浜本幸男	原三佳恵	藤田慶次	二見彰一	舩坂芳助	星野美智子	堀江良一	
(ま行)							
増田陽一	三田村努	望月厚介					
(や行)							
柳沢京子	山本桂右	山本光生	矢柳剛	吉田賢治	吉田正樹	米倉泰民	
(わ行)							
渡辺達正	渡会純价						

【書】

(あ行)

浅井機山 綾村捷子 新井光風 飯高和子 池田桂鳳 石飛博光 石本法子 江口大象
 榎倉香邨 大石三世子 岡美知子 小川東洲 尾崎邑鵬

(か行)

加賀山香尚 榎本桑牛 金澤翔子 杭迫柏樹 黒田賢一 小島寿 後藤汀鶯 小伏竹村

(さ行)

佐藤煒水 座馬井邨(故人) 師村妙石 鈴木春朝

(た行)

高木聖鶴 田口尹基子 竹中青琥 田中光穂 鼓芳石

(な行)

中川裕皓 中村秀峰

(は行)

秀島踏波 藤岡都逕 藤野北辰

(ま行)

増永広春

(や行)

山添鼎石

(わ行)

渡邊笙鶴

【著名人】

(あ行)

藍弥生 吾妻ひでお 有馬頼底 安齋肇 いしいひさいち 石田隆 市田ひろみ
 井筒啓之 稲畑汀子 植田豊弼 上野道善 宇野亜喜良 江上泰山 蛸原あきら 王貞治
 太田宏次 大野玄妙 岡井美穂 小澤一雄

(か行)

かしわらあきお 片山治之 金子兜太 かわぐちかいじ 川津祐介 河村立司
 木内達朗 きたざわけんじ 北見けんいち きむらゆういち 清原なつこの
 工藤直子 小林太玄 小林隆彰

(さ行)

酒井駒子 坂田藤十郎 狭川宗玄 佐藤邦雄 三遊亭円楽 ジェームス三木 下瀬翠
 宿輪貴子 笑福亭仁鶴 新川和江 菅原信海 杉良太郎 鈴木英人 千玄室 千宗左
 千宗室 千宗守

(た行)

高田明浦 高田良信 高橋真琴 多川俊映 田島征三 田代卓 立本倫子 谷川浩司
 ちばてつや 中条春野 趙治勲 辻和雲 唐仁原教久

(な行)

内藤貞夫 永井ひろし 永沢まこと 中原誠 なかむらるみ 鯉江光二

(は行)

萩尾望都 長谷川大眞 長谷川義史 蜂谷宗玄 羽生善治 はまのゆか 林静一 ばんば三郎
 ヒサクニヒコ 日野西光尊 藤子不二雄[㊤] 古川薫 古川タク 堀江添子

(ま行)

前川しんすけ 前田昌道 松井秀喜 松浦俊海 マツモトヨーコ 松本零士
 美樹本晴彦 水谷八重子 村上康成 森清範 モンキー・パンチ

(や行)

やくみつる 八代亜紀 安井寿磨子 安彦良和 矢吹申彦 山口哲司 山口はるみ 山口マサル
 ヤマザキマリ やよいとしん 蓬田やすひろ

(わ行)

若尾真一郎

【Next Art 展推薦作品の制作者】

穴澤和紗	飴本崇久	内野宏美	大嶋仁美
遅野井梨絵	北川安希子	金茂華	児玉沙矢華
後藤勇治	澤崎華子	菅野瑠衣	杉崎創太
住田衣里	平良志季	立木美江	田村美智子
津田翔一	永井祥浩	長谷川彩織	深田絵理
藤田遼子	古川博崇	松尾彩加	松沢真紀
松丸エミ	宮木沙知子	向井菜摘	meloco
やちだけい	渡邊富美子		



ご寄付をいただいた皆様

2015年度に全国の皆様から当事業団に寄せられたご寄付は、総額4億1164万3042円にのびりました（当事業団の東日本大震災救援事業への寄付を含む）。朝日新聞読者をはじめ、企業、団体、グループ、学校など、多くの皆様が当事業団を寄託先として選んでくださいました。また、近年は香典返しや遺贈の送り先に当事業団をご指定いただくことも増えてまいりました。ご寄付いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた温かいお志はこの事業報告で紹介している、さまざまな福祉事業に充てさせていただきます。今後ともご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、ご寄付いただいた皆様は次の通りです（敬称略、順不同）。

※掲載スペースに限りがあるため、東日本大震災救援事業へご寄付いただいた方のお名前は、匿名希望の方とともに省かせていただきました。

- ▼北海道：石川義昭、泉賢司、井上國男、奥田勝重、長内諄子、加藤佳夫・多満喜、川端暢文、北山勝義・雄久、功刀雅人、坂井洋一、桜井智康、佐藤公美、佐藤榮、佐藤正顕、清水隆、清水美智子、東海林昇、鈴木真知子、須田勇、第9回ピバおはなしフェスティバル実行委員会、高木昭一、田中幸男、谷井静江、俵谷一子、西田邦夫、石橋昭二郎、発寒中央病院、服部昌男、浜島泉、東重孝、藤山直子、本多彦雄、松原陽介、宮城静子、宮地昌代、山崎洋子、山本紳朗、渡邊朔
- ▼青森県：ASA黒石、佐藤内科小児科医院、佐藤祐逸、福田建美、藤田直美、山崎みゆき、和田律
- ▼岩手県：飯島仁、石川洋子、小金森勝治、佐藤麟子、田村えい子、寺林信悦、藤嶋博、宮沢新聞店
- ▼宮城県：有住てる子、笹森洋一、佐藤京子、菅原裕子、千葉英子、日野洋子、福田耕三、堀弘子、三浦七郎、吉田正子
- ▼秋田県：ASA十文字、大内源太、菅原芳徳、鶴田貢、花田金美
- ▼山形県：遠藤國勝、斎藤万一郎、篠田昭男、菅原昭夫、成田政右衛門、布川久美子
- ▼福島県：安藤治、石川盈、上野照男、久保木恒雄、菅田七郎、高橋隆、樋口勇、星熊雄
- ▼茨城県：阿部巨、飯島昌子、江原暢子、大部克美、岡山伸一、荻原奉祐、粕谷日出夫、学校法人筑波研究学園筑波研究学園専門学校輝峰祭チャリティと売り上げの一部、神原好彦、川島房宣、川野辺薫、河原愈、河村博信、窪田敏廣、栗山歌子、小林栄喜、(有) さくら企画、佐藤正喜、鈴木弘康、高橋みもえ、高橋森音、千葉マリ子、筑波学院大学、辻久茂、中郡雅一、延吉フミ子、星野秀雄、宮崎千勝、吉田則子
- ▼栃木県：縣君子、荒井俊邦、新井正男、池間信子、ASA烏山、遠藤良治、大澤典夫、大谷一彦、大槻由利子・もも、鎌田正信、木村克二、早乙女紘一、塩野谷信夫、雫陽子、シャロームタイムス、滝童内のり子、手塚正志、豊田清、西田一巳、二渡芳雄・賀代子、野口昌一郎、野田新聞店、平野敬、星野恵子、三村美知子、矢野正義・みゆき、湯浅末吉
- ▼群馬県：伊藤恵美、岩崎順子、内田由喜江・陽子、ASA前橋西部、荻原達夫、掛川美代子、笠原純男、金井恭子、金子幸江、金子侑司、(株) 関東朝日広告社群馬支店、木村隆彦、小林弘、佐俣奨、静雅彦、清水明貞、下城啓年、反町照治、高橋信二郎、高見こどもクリニック、多田照、田所とみよ、田中嘉親、花岡卓二、矢作正夫、山田順子、山丸幸子
- ▼埼玉県：相原幸子、青木克美、青木登喜夫、青木菜穂子、浅野幸子、朝日新聞埼玉西部朝日会川越支部、安部真平、新井昭男、荒井健次郎、新井輝男・智恵子、飯島進、池田直弘、石井康雄、石崎薫、石塚明、石森正美、石山正明、泉英雄、井上桂子、井上みち子、猪俣俊晴、今榮俊一郎、入枝玲子、岩永浩・容子・吉祥、上杉清秀、上田豊、潮登久子、内山豊美、宇留間和基、ASA小手指・狭山ヶ丘、江本房利、遠藤恒幸・京子、遠藤靖夫、大木まち子、大久保典義、大島辰幸、オータムコンサートin久喜、大野敏子、岡崎弘子、岡崎新一、岡崎弘子、奥村直司、落合勝安・一江、落合眼科医院、小原恒子、笠原政二、梶本栄一、春日部厚生クリニック、加藤静代、加藤徹、金井秀子、神尾征男、菊地七郎、北沢正嗣、木村義熙、鯨井誠、久保田鷹光、黒須浩二、鯉登信義、子育て応援隊むぎぐみ、小林治美、小松原和明、小松原道明、小室保尚、小山裕子、近藤俊子、埼玉県立蓮田松韻高等学校、酒井國雄、坂下節子、佐藤最子、佐藤則夫、佐藤フミ子、佐藤義信、茂本克己、篠田悦子、芝孝治、柴田眞樹、島田澄江、島村利雄・清子、志村和男、白石道子、白鳥正司、杉田忠久、鈴木孝明、鈴木博、関根武、関本千恵子、染野彌生・孝吉、高佐屋三郎、高辻歯科医院、高橋忍、高橋治男、高橋正和、高橋光代、高林峯子、竹内ミツ、田嶋なみ、田辺美栄子、田林晃、丹野政恵、千代雪子、津田保慶、土屋栄子、出口豊、手塚リリ子、寺田英行、寺田眞廣、富原繁則・利江、内藤哲、永井安子、中島淑子、永松弘子、中村弘光、中村良太郎、名越啓史、名古屋悦男、新延泰生、西間木久子、西野優子、西森幸雄、野口英昭、野沢和佳子、白美英、蓮田育郎、羽石史生、馬場常正、浜中隆彦、林正男、原島保美、久嶋圭子、日高護、平山豊、比留間一男、廣澤成昭・攝子、深井勝己、深澤玉泉、福田利幸、福田宏征、藤高誠一郎・小葉莉、船田藤

三郎、舟橋葉子、(株)フルカワ、古谷信雄、古谷吉近、星恭治、星野宗弘・伸子、堀康彦、松崎賢治、松盛将三、松山孝雄、道久義美、宮澤健蔵、宮嶋祐一、宮本眼科医院、宮本正、武藤和郎、村岡美佐男、村田千穂子、村山律子、茂木克己、森村幸市、八重樫信之、やきとりひょうたんお客様一同、安河内功・弘子、柳澤悦子、柳本晴子、山田昭次、山田芳子、山本治男、湯浅貞則、湯田明美、吉沢郁男、吉田栄吉、吉永佳枝、吉松幹夫、吉村重華、米元直幸、米山夕子・ほのか、和田喜久夫、渡辺洋右、渡辺茂樹、渡辺利夫、渡辺峰子

▼千葉県：浅井邦彦、(株)朝日カルチャーセンター千葉、東勝也、天野昌紀、飯田義仁・弘子、池田千寿子、池田守、石井従道、石井正男、石岡善正、泉岡和行、伊藤妙子、稲益実、井上喜由、井原正昭、今裕之、内田俊子、宇都宮利善、ASA浦安北部、ASA行徳東部、ASA松戸八ヶ崎石川章一、榎本奈乎美、大川佐多子、大慈弥豊子、大塚啓之、大土勢子、大野容子、大山福緑・かつ子、小笠原あみ子、岡部匡克、岡本雅博、小川裕、小河原輝子、奥谷賢一郎、角田邦子、角田壽雄、笠原光夫、勝美智代、加藤章吏、川島敏輝、川島正治、川田雅昭、河田留美子、川野歳治、北原宏・美恵、木村スミ、隈部登茂子、黒岩雄幸、黒川澄夫、黒川千代、小池菊平、小泉孝一、小島京子、後藤哲雄、小林一博、小林かつ子、小宮山良男、紺世初代、斎藤勉、斎藤洋子、坂内朝子、酒巻新聞店、佐々木信代、佐竹潔、佐藤顯文助、佐藤純、塩月紳一郎、下野千晴、下村重孝、末藤正樹、菅谷文子、杉田幸子、杉林昭男、スギヤ英数塾、鈴木延勇、鈴木祐輔・泉、須田和夫、高木和夫、高木和夫、高梨健一郎、高橋巖、高橋清、田口久雄、田口泰子、竹内達、竹内知子、竹内阪蔵、竹野恒之、橘光子、田中光行、谷亀さち子、「小さな親切」運動ちばぎん支部、千代田走友会、塚崎重夫、土田芳孝、常泉孝、東葛坐禅クラブ、刀祢館信雄、都丸司、鳥居千恵子、中岡進、中島昌泰、長田勝男・民恵、中野澄子、中野洋子、中村治子、中村浩明、中山享子、中山尚子、生田目里枝、日本芸能の集い、根本三郎、橋光子、長谷川寿々子、島山アイ子、林常蔵、林正則、人見幸雄・良、平井健治、平野鐵三郎、広田栄次郎、福嶋弘、福地美津子、藤木武夫、藤田卓男、藤谷玲子、藤田光宏、藤田陽子、藤原信、二川邦彦、古川喜一郎、古家雅子、細田康子、増田規実子、松田和夫、松戸いずみ幼稚園、松戸いずみ幼稚園父母の会、三浦マリヤ、三島隆徳、三石昭、宮尾憲昭、宮下忠司、宮島正和・紀子、宮田信利、宮本勇、宮本民雄、武藤弘、村松知・真理子、村山益美・芳子、森弘、山田和雄・恭子、山田俊雄、山野井憲司、山脇末隆、吉岡真利子、吉田英一、吉田謙、吉田勤、吉野春雄、善當治昌、楽天地オアシス・法典の湯、力武医院、渡瀬嘉朗

▼東京都：相澤勇、相原泰次、青木幸子、青木紀子、青木房江、青山勇、浅井郁子、浅井朱實、浅賀登志子、朝日新聞社販売局、朝日トップス(株)社員会、芦澤みゆき、足立嘉子、我妻多賀子、安室礼三、雨宮満里子、鮎澤知枝子、鮎澤正信、荒井久夫、荒井康博、新井美宏、嵐勝男、安養寺紀幸、飯田孝一、五十嵐篤男、五十嵐ちづ子、井口澄子、池嶋功、池田信三、池田康・紀子、池辺史生、石井明美、石井祝子、石川儀市郎、石川医院、石毛綾子、石戸純一、和泉屋節子、磯貝博司、磯野宏秋、市川晶子、市川泰子、伊藤康子、伊藤典子、糸数恭子、井上苑子、井上操、猪忠彦、今井茂、今億勇、今村旬之介、岩井恵、岩崎千恵子、岩宿多嘉子、岩永優、岩橋洋子、岩間信彦、上野学園、上原京子、上原秀、宇佐見清・宇佐見勝美、内山矩彦、宇都野さきゑ、宇野勝己、梅澤春雄、梅園敦子、梅本益雄、ASA大塚仲町、ASA新宿新都心、ASA府中、江川礼子、榎本忠・ユキ子、榎本正人、M・F、榎本淳子、遠藤イヨ、遠藤早苗、及川敬二郎・了子、大川節雄、大久保圭子、大河内喜代、大河内正敏、大越啓次、大沢章、大澤金政、大島尚子、太田敬子、大竹茂仁・太土・信子、大谷蘭子、大多和彦一、大塚修・美代子、大塚真之、大塚美枝子、大坪黎、大西千鶴子、大沼朝子、大軒由敬、大羽富美子、大房順雄、大藪龍子、大山衛、岡崎久子、小笠原将・典子、緒方洪章、岡見千代子、岡村純夫、岡村悦子、岡本一郎、岡本みね子、小川美保子、小倉真寿雄、押田佐知子、落合道雄、乙黒耕一、小野塚厚子、小野寺フミ、小船次子、柿澤敏子、垣平博臣、角田邦明、風間久子、春日直也、家政科会、片岡史郎、片桐昭・直子、加藤昭、加藤季子、加藤金之助、加藤須賀子、加藤徹郎、加藤直行、加藤ミチ、加藤幸雄、金井邦夫、金丸昊一、金子正二、鎌田昭次、神谷斌、亀井きみ、鴨原由美子、川口俊二、川田敬俊、川端章一・百代、河部寛美、川村正夫、川本敏郎、菊谷都代子、菊地大輔、菊地まり、岸田隆秀、岸野正一、北村満子、杵勝会・歳末チャリティー長唄演奏会の収益、木下照子、君島浩、木村佳代子、木村欣司、木村文治、楠弘之、工藤進、久保田勝代、窪田武雄、熊谷隆志、蔵方宏昌、倉持雅子、倉持泰雄、クリスマスチャリティー(斎藤洋子)、栗原一郎、黒坂圭太、黒須誠、小泉美英子・佑馬、功刀正仁、河野哲夫・弘子、小勝竹雄、国府田七郎、小島靖、小関裕子、巨勢典子、小平三郎、後藤紘字、小林一正、小林金太郎、小林建次、小林正、小林尚希、小林宏、小林雄太、小林ユキ、小松範任、小峰真紀子、古明地幸勇、小山幸子、小山亮一、近藤喜明、斎藤喜美子、斎藤元英、斎藤好子、酒井珍儀、坂井準一、坂井昭七、境井敬昌、坂井則幸、境義弘・静子、坂爪商事(有)、坂場薫、坂本敬、桜井浩子、提嶋州彦、佐甲和、佐々木胤郎、佐竹芳浩、佐藤きぬ江、佐藤幸子、佐藤静夫、佐藤定二、佐藤治子、佐藤英瑞、佐藤ゆう久、早苗哲次郎、佐野武房、佐野安喜、J X日鉱石工エネルギー労働組合東京支部、J Xエネルギー労働組合本社本部、J Xエネルギー労働組合本部、志田雅美、品川珠代、篠倉正信、篠原喜美雄、Jibe、司法書士篠原善美雄事務所、島崎芳巳、島田美佐子、島村俊雄、島村百合子、清水太一、清水歯科医院、清水雅典、清水勝、白石スミ子、白石みどり、新生企画(有)、菅野登代子、杉浦和子、杉山勝、鈴木秀子、鈴木絵理子、鈴木敏行、鈴木誠、鈴木正義、鈴木洋子、鈴木好美、須田明子、諏訪眞司、諏訪眞司・邦子、諏訪直子、聖学院幼稚園、関光恵、仙頭邦子、染谷理一、反保康子、泰耀寺、高岡信男、高木文博、高島志津、鷹巣優子、高梨輝雄、田口日佐夫、田口真義、武居ユキ子、竹上秋彦、武田稔・武田桂子、竹中勇、田島昌子、田代田鶴子、橘ダンススクール、館花民雄、田中

あき、田中喜久子、田中寿子、田中富士夫、田辺功、谷川雪雄、谷口一郎、谷下一夫、田部美智子、田村クリニック、中條益子、塚本文子、辻久美子、土田豊・あつ子、土屋孝志、寺坂勝、寺島幹市郎、寺田眞文、傳田和子、(株)東京都ASA連合会、東京灯芸術家協会、都甲雄介、戸田盛忠、鳥羽ノリ子、飛田寿美子、飛田満彦、富田勝江、富田賢司、富永聖一、富村憲一、友久英孝・美知子、友永靖治・朝子、内藤齊、永井美都子、中川節子、中川雅代、長倉辰弥、中小路淑江、長迫節郎、中澤昌子、長沢淳、中澤隆太、中島美佐子、中澄子、中園けい子、中田節子、長友千枝、中西三枝子、中村斐子、中村恒明、中屋幸子、中山正子、長山美佐子、名取こずえ、名取光広、鳴海忠市、新名郁子、新井野洋子、西川とし、西川仁、西田博・久美子、西谷道郎、石橋俊之、西弘子、新田クリニック、新田ミツ子、蜷川明子、仁平富美江、日本コントラクトブリッジ連盟、日本電気(株)、沼沢良樹、ネパール会、野口慎太郎、野口雅美、野崎誠、橋本大定、(有)橋本新聞舗、長谷川幸子、羽立賢二、波多野干城、畑谷由紀、浜田隆、浜野常雄、浜比嘉正彦、早坂修廣・妙子、林馨、林昭策・敬子、林貞次郎、林本拓也、早野良子、原嶋美雪、(公財)原田積善会、原環、伴巨、日朝秀宜、日上操、東原勲、樋口信三郎、日高志満雄、百純久、檜山博昭、兵庫悠子、平川勉・邦子、平川恒久、平松清則・淑子、昼間康子、深沢宏行、深野志津子、福井一彦、福井正行、福岡紀子、藤井裕子、藤井麗子、藤田美江、瀨崎勝憲、古谷允良、分部博、北條猛、星野富榮、細田由美子、堀水美津子、本浄寺、眞板幸子、前川信朝、増尾清、増田善計、増田実、益満雄一郎、町田重光、松井隆子、松浦夏綺、松原右次、松村敦子、黛巖、見市元、水上篤・よし美、緑川勝子、宮内繁、宮内志朗、宮川武久、宮崎亮、宮澤恭人・美子、宮田誠志、宮武光吉、宮本節子、向井昌子、武藤みきこ、村井丕子、村尾静彦、村上敏明テノールコンサートぶらぼーマックス小林、村田勇、村田三枝、村野富貴子、目黒進、望月紘一、望月蘭子、もつやき松っちゃん、本橋常彦、諸寿子、矢尾板章郎、矢島伸治、安井喜太郎、矢田晶紀、柳春子、柳瀬晃、山内芳男、山口登、山口文治、山口八千代、山崎澄子、山崎敏光、山下妙子、山田美江、ヤマトホールディングス(株)、山中益子、山本以和貴、山本真一、山脇学園中学高等学校、横山美和子、吉澤忠一、吉澤禮子、吉田昭二、吉田雅一、吉田道子、吉原幸一郎、吉森浩子、米本穰太郎、力武登美子、緑雲会、和田裕久、渡邊伎美、渡辺正一、渡部通英、渡邊康子

▼神奈川県：青木幸雄、秋山康吉、(医)社団浅木クリニック、朝日新聞販売、網代和枝、(有)アミッド、安藤弘子、飯田信子、飯塚道子、家永光芳・ユリ子、家本誠一、池川明、池田良子、石垣蓉子、石川一彦、石川恵子、石川忠雄、石田一郎、磯崎功、板倉秀男・和子、伊東欣二、伊東明美、伊藤信三、伊藤泰爾、伊藤禎子、井上かつ江、今井孝一、岩崎ノリ、岩下光男、岩本秀雄、上田富恵、宇佐見和彦・泰子、臼井敏雄、内海伸子、卯西和子、羽毛田修、(株)エイワ、ASA厚木西部、ASA厚木中央、ASA大船西部、ASA大船中央、ASA大船南部、ASA大船北部、ASA鎌倉深沢、ASA上永谷、ASA港北NT東部、ASA戸塚中央、ASA三ツ境南部、遠藤雄右、遠藤ゆき、大川治衛、大川須美、大倉文雄、大島スズ子、大滝良雄、大野出穂、大橋幸二、大村成一・瑞千代、大矢征、大山行徳、岡田千衣子、岡田信子、小栗昌宏、小栗正文、小澤英雄、小澤榮一、小沢英雄、小澤政弘、小野明子、面川宏美、笠川孝子、笠原一豊、春日廣之助、粕谷敬子、片岡淑、加藤清二郎・富子、神奈川県少林寺武道競技連盟、金沢秀樹、金子公行、金子順一、神尾吉臣、神谷秀仁、かわぐち皮フ科、河原幸子、川村康子、瓦田信彦、喜久村繁、紀田浩雅、北村馨、木村晴信、桐木正子、日下誠二、久保田知子、熊澤龍雄、倉知千枝子、栗栖明、桑畑隆昭、K、高口湧太郎・颯太郎、瀨藤蒼洲、小路龍彦、肥田敦美、小勝昌興、小嶋弘、小杉弘、小菅興正、(株)コスモテック、後藤襄、小林清重、小林桂一郎、小林繁、小林清吉、小林禎子、小林元彦、小針和昇、小松勝治、小松久子、小宮悦雄・玲子、近藤勝、近藤良夫・節枝、齊藤清、齊藤経広、齊藤信子、斎藤守弘、佐伯泰志、阪井こう、酒井スエ、相良俱子、桜井香織、桜井祐二、桜井律子、佐倉三雄、佐々木秀雄、佐々木光明、笹田信之、さつき町ファーマーズ、佐藤正、佐藤英司、佐藤順二、佐藤信一・イツ子、佐藤正・久美子、里見桂子、座間博、猿田逸夫、澤田叶也、澤田君代、(有)三和看護婦家政婦紹介所、椎谷元二、篠田正、篠原勇、島和子、島幸子、清水園江、清水トシエ、志村三知子、常泉寺、湘南新聞販売(株)、代田治彦、新川雅子、菅沼亮一、菅野喜和、杉野和子、杉山孝博、鈴木一平、鈴木光夫、瀬戸三雄・美智子、副馬駿介、添田展生、曾田秀介、染谷直子、高城雅允、高橋昌三郎、高橋敏一、高橋宏之、高橋幸雄、高平孝一、龍澤光子、竹市義弘、武田敏、多田梅子、伊達知史、田中権三郎、田中さわこ、田中徳一、田中正男、田中道信、田辺幸子、谷信男、地崎広、千葉艶子、地引弘、土屋紀代、濤崎恭平、濤崎恭平、東城和也・弘子、篤田実、飛松正記、富永ウタ子、戸村隆子、永井勝喜・久仁子、中尾英一、長岡勝美、中川幸子、中川美榮子、中里厚実、中島善範、中野泰子、永峯寿美子、中村土郎、中村俊夫、永森和道、西海博明、西川春子、西富房江、西野昌男、丹羽邦彦、沼田昭、根岸美恵子、野澤美重子・ヒロ子、野澤紀美子、信夫優子、花田英輔、浜和子、林克昌、原昭子、原尾紀男、原昌子、半田喜久子、半田幸子、菱沼保幸、平澤あい子、平田キヨ、平本俊弘、平綿孝一・陽子、廣川麗子、福田寿雄・文子、福田稔子、福田行男、袋康男、藤田深雪、藤田まさみ、藤山忠、藤原美佐子、古川二三夫、別府悠逸、細谷正二・洋子、堀田暁夫、本田昌子、本間恵子、前山寿一、増山美枝、松岡圭子、松倉進、松下宏子、松村和子、松元英子、間部晴夫、丸山久子、三上行枝、三木昭・明美、湊慶紘、宮本尚武・美也子、宮本浩子、麦倉啓、村上未吉、村山健一、持田定明、望月節子、望月洋子、百瀬節夫、百田陽一・紀代、森川恵三、森九三三、森晃一、保川周治、八十田敏男、柳下洋子、山浦恒央、山上ゆう子、山口喜一、山口弘子、山下美智子、山田澄江、山本和人、山本芳枝、山本よしゑ、由井平和、行友美代子、讓原昇、湯本英二、横澤龍、横山田鶴子、吉岡榮子、吉田精吾、吉野恭子、米川武夫、ラルゴF、渡辺昭榮、渡辺克己、渡辺希世子、渡辺当美、渡辺貢・晴美

▼新潟県：有馬里美、石黒正子、石橋勉、岩崎新聞店、大平健夫、大矢玲子、風間淑子、金子美智子、工藤房子、工藤洋介、

小林尚子、佐藤宏、田中毬子、田辺アツ子、玉木清、花野安雄、樋口みつ子、平林勝正、増子玲子、八百板秀男、山本美保子、山本宗明

- ▼富山県：浅畑道子、藤井多津子、三上徳次郎
- ▼石川県：大倉正利、窪田庸子、中川清子、橋爪和男、山越栄幸・喜美子
- ▼福井県：垣内泰治・楊石、川口雄二、中村滋、吉田とみ子、吉田正美
- ▼山梨県：赤尾和子、岩永住幸・幸子、倉澤角三、田中耕太郎、中沢久子、藤田みや子、藤原静男、増田あきの、三森あき江、望月正、米沢三江
- ▼長野県：飯森震一・ひろみ・かおり、井出安恵・真愛、上田賢臓クリニック、ASA松本南部、大橋春武、笠原忠夫、熊沢正平、小金沢保重、小坂健介、坂井靖、塩沢夏江、篠田仁宏、清水栄治、清水もと子、塚田修、塚本充雄、堤よう子、中島君子、波多野妙子、原茂次・原喜美子、平林敬一、古谷和男、洞澤茂、宮沢東洋雄、師岡恒司、山口清、山崎英俊、横地泰英・美智子
- ▼岐阜県：稲葉正治、大迫輝通、尾関たみ代、加藤孝之、加藤健彦、熊崎喜久子、黒田英郎、後藤道子、坂田茂樹、桜井浩、市立岐阜商業高校「岐商デパート」、杉山博恵、八賀弘、長谷川弘、服部弘子・圭子、林崎淳二、正者敬一、松本美千代、水口和子、森圓司
- ▼静岡県：浅川浩慶、石田敏、伊藤敦之・紘子、伊藤求・明徳、今村重美子、岩本和雄、上杉孝次、内山さわ子、大嶋正章、大塚洋子、片山偉三男、川村碩彬、甘露寺、菊地國弥、稀代幸雄、小室雅恵、桜井喜維智、佐野勉、静岡県高等学校野球連盟、芝田正樹・ミチ、芹澤久光、高月逸子、多々良幸子、田中孝幸、津田司、徳留三男、富山文男、中山学、西方さかゑ、服部浩、久村洋子、星野新聞堂、村松尚代、望月保宏、矢部香、山本順之佑
- ▼愛知県：青木茂、青島健一、浅野明美、粟田昌子、安藤君衛、飯田郁美、石橋捷一、石原一雄、磯崎淳司、伊藤隆之、稲垣克己、稲垣脩世、今井泰生、今井正、今枝鉞子、岩本早苗、上田典生、白井和子、内海紀章、梅基富美子、梅基富美子、浦田雅子、ASA日進、ASA丸山、大石文恵、大宮孝、沖叔子、荻野孝、奥山富子、尾嶋喜隆、尾関博、尾野忠雄、加古善輝、笠原みどり、可知功子、勝田富貴男・志津子、加藤孝平、加藤文男、加藤誠・みづ江、金子博夫、兼松栄子、神谷一嘉、河原俊也、川本由美子、木村佐登美、木村夕エ子、楠元勲、黒田斌嗣、黒谷次郎一、小塚博史、後藤修、小堀一郎、近藤恵子、斎木清治、堺沢範一、坂上雄、坂口幸治、桜井勝、佐治満里子、佐藤孝一、柴田紀作、渋谷正一、清水緑、下山敬、杉浦医院、杉本宗孝、鈴木主典、鈴木章二、鈴木恒裕、瀧野美恵子、田中清、田中八代子、谷口国雄、丹蔭輝男、(株)中部朝日広告、中部女流書道会、辻原清春、坪井ナリ子、中村雅彦・恵子、名古屋観光専門学校、名古屋青年美術会、名古屋深雪会、七ツ村繁、南原彩稀子、新美幸子・荻村百合子、新美泰弘、能見佳英、野田一三、野武二郎、野田えつ、長谷川宏治、服部明、早川七郎、早川常彦・祥子、原千賀子、日置妙子、深谷攻、藤川鈕子、藤城郁美、古田明夫・ハツ子、ヘンデル協会、堀田ひさ子、前田豊子、松崎文雄、松本直良、三浦勝人、三木眞嗣、水谷正英、三矢ひろ子、三輪菊夫・栄子、むらかみ新聞店、森本末男・久代、森本とよ子、森安千文、山口貞子ビスクドール展、山路良子、山田恵子、山田美智子、山中寛紀、山中康彦、山本さき子、山脇宏、横井龍一、横田望、レーザテック、渡辺武夫、渡辺剛
- ▼三重県：井坂世紀子、石田信子、和泉優・弘子、市川千春、ASA津販売、恵木敏昭・祐子、岡宏次・武子、岡本雪男、柏部宗嗣、亀井百合子、北本和由、粉川亜弓、志波正義、杉下隆男、高井勝・梓、中世古浩子、中村文世、野呂純一、濱口宏子、樋口徹也、盆栽友人趣味の会、前川昌房、水谷皓子、水野隆夫、宮田忠司、盛野胤弘、柳瀬恒範、山本克己、渡辺真知子
- ▼滋賀県：石名栄佑、石原愛子、井上ミチコ、宇田新次、岡田武、音楽宅急便「クロネコファミリーコンサート」大津会場募金、金城美代、(株)坂田工務店・協力店Sクラブ、田中邦俊、辻寅建設(株)、秀澤治・登志子、藤野滋、前川正男、丸山洋・百合子、盛一・るり子、柳田正、横山好美、吉永行夫
- ▼京都府：浅沼勝雄、朝日栄太郎、浅輪信子、井上栄子、今村京子、上野昭英、大滝義一、大谷光真、岡崎芳弘、奥田成子、折井英子、河内順二、木坂順一郎、北見桂子、京都イタリア料理研究会、熊谷正義、古玉克平、小牧貞治、小山猛、佐伯征大・照美、佐藤紀之、島田得三・富子、杉山毅、須藤朝代、平良泰久、高橋希夫、高橋務、田中貞夫、田中悟志、塚本安子、徳田一男、中川冴子、中村善治、西村軍平、蜷川茂、信田司法書士事務所、橋屋秀夫、長谷川きくゑ、畑一、原田尚子、広瀬文昭、福田博幸、星尾保夫、三角勝敏、三間寛次・俊代、宮内憲夫、村井五郎、村田晶子、森下ヒサ子、矢野陽子、山川道雄、山口智子、山田健一、山田文諒、山本岩夫、吉田勇、芳中敏昭、渡辺桂子、渡辺深雪
- ▼大阪府：赤松善弘、明坂定、朝日新聞大阪本社管理部、朝日新聞社内募金箱、芦田達夫、足立太司、阿達美智子、阿部御世子、天野仁・きみ子、荒川房江、池添良行、池田清、池田美代子、石井絹子、一色玄、石城戸博子、石田昭勝、石田章、石丸マツエ、泉原昭三、板井清光、市川善博、稲田隆幸、稲向絹子、井上晴太郎、井上マツ子、今川沙陽子、今滝秀子、今村明美、植坂美穂子、上柴とおる、上田輝雄、上田陽蔵、魚住美智子、内田敬義、内豊史、内濱勉、宇野米太郎、生形和重、梅本修公、浦西美智子、ASA深井、江端昭子、大岩根清子、大北美智子、大阪市RR厚生会、大阪シティ信用金庫、大阪市ママさんバレーボール連盟、大阪府レクリエーション協会(朝日民謡会)、大阪深雪会、大塚伸二、大槻博司、大利喜代美、大野俊彦、岡田房子、岡本健治、岡本昶夫、岡本幸男、奥原傳一、小倉君枝、小原利博、加川和代、柏井住子、梶谷清、粕谷久遠、片上清雄、加藤允彦、金澤文子、金沢楨、莫正継、神原洋子、川上静代、川登利則、木岡逸子、北尾繁信、北之坊皓司、喜田充郎、木下雅司、木本弘子、切通良昭、近鉄タクシー(株)、日下敦子、楠宗一、久保真

吾、久保田健一、熊瀬孝三、栗原義美、グレース幼稚園、黒田洋・陽子、桑原諄治・ひろ子、月輪寺・榎本智照、甲田尚子、甲村文子、後藤和彦、琴谷敏治、小林たね子、小林哲男ファミリー、小峰聖子、小山敏子、金剛幸夫、金藤喜恵子、近藤幸一、今野晃士、今野捷子、佐内ツマ子、堺市立久世小学校昭和36年卒業同窓会、榊原明子、坂口博康、崎野薫、佐藤勉、佐藤友彦、佐藤嘉昭、佐野宮子、(株)サンディ、山東利一、塩田眞義、塩見克美、柴原梅子、嶋倉宏、清水勇、下出喜久子、人生道場、甚内利之、杉浦幸弘、杉本房枝、鈴木サヨ子、鈴木順子、鈴木實、諏訪百々子、聖愛幼稚園、星翔高校生徒会、瀬部紀美子、仙頭幸子、曾祇ヨシエ、鯛島達雄、(財)大同生命厚生事業団、第2回朝日関西学生チャリティー茶会、高岡千代、高嶋英子、高瀬信彦、高野和浩、高橋誠、高橋徹、高橋良子、田口鐵男、武居トシ子、竹内一利、竹内絹恵、竹内勝、辰巳砂仁美、田中勝美、田中八重子、田野ヒサ子、田端ひろ子、田原英明、玉井正光、段野邦夫、千綿繁満、津国民雄、辻章、辻井伝七・種子・美代子、辻谷英治、辻外科リハビリテーション病院、津下好子、堤芳子、津野泰子、出口孝友、寺中正義、土井隆、陶山陽子、遠山奈美子、百目鬼主計、友田重信、友近綾子、豊嶋淳一、長岡洋子、中尾サチ子、長尾昌治・怜子、中尾英樹・みどり、中務益治、中上佳昌、中川英子、中島志津、中島忠男、中島正典、中島了右、中田義仁、永田勇、中西昭次、中林眞佐男、中渕昇子、中村貫治・善子、中村英幾、中村幸夫、梨山春夫、那須明継、名田吉子、名村正勝、成川シヅエ、新船満江、仁賀恒一、西浦貴美子、西澤政宏、西田義幸、西村富士代、西脇ミキ、沼井清、能楽協会大阪支部、野口美智子、野下之男、野中俊亮・三枝子、信夫松枝、野村さだ子、萩原永美子、萩原克己、萩原友江、橋爪喜久子、橋本文夫、服部春子、林昭男、林威三雄、原由子、坂東重信、日置雄毅、日笠修宏、東大阪大学・東大阪短期大学部学祭実行委員会、東原光洋・初恵・佳那江、(有)ビッグフォーエンジニアリング、人見善三郎、百地俊一、平井秀夫、平井政子、平野元子、平野四次男、福井康次、福井富美恵、福井弘子、福田診療所、福田嘉弘、福永正弘、福山章紀、藤井喜美子、藤井照子、藤田勇、藤谷寿美子、古河拓、法心倫太良、細川浩敬、堀田喜久、堀野有美子、前田節子、真砂信三、松岡季代子、松岡学・朝生、松尾亮一、松下ゆり、松田守且、松本忠能、三浦光夫、三木悦子、三木邦夫・美弥子、水口孝子、水谷泰子、三谷節子、南諭・登代子、南洋子、三村晃、三村義一郎、宮浦彰司、三宅義夫、森昭、森快三、森野千鶴子、森本恵子、八木黎子、安岡邦昭、安里清、安仲信子、八束浩一、山木英雄、山下寛、山田栄子、大和梱包、山中守、山本勝秋、湯浅郁子、行尾嘉孝、吉岡和子、吉川弘記・方彦・孝子、吉川正彦、義積通子、吉田正、吉田智波、吉永由美子、吉野紀子、和田綾子、和田信矢、渡辺、渡辺雅美、渡辺良子

▼兵庫県：秋里照義、浅岡芳司、朝田菊緒・展子、浅田孝夫、安藤全代、飯尾道夫、飯田規子、池本恒彦、池本輝久、石川澄子、市原貞夫、猪原退蔵、植田弘、浦川弘、ASA名谷、ASA宝塚、大江良一、大場正人、大庭武夫、岡崎宏美、沖塩眞一郎、尾崎久枝、笠原千義、割烹小松、加納良男、加味忠司、神澤正三、亀井悟郎、川上信男・廣子、川端二四雄、河村慶子、関西ハーモニー力連盟、木村隆彦、木村功也、木村武弘、楠井和子、國枝優、車野依子、黒崎幸雄・満智子、黒田八郎、桑垣陽助、小梅喜久子、郡成子、混声合唱団「遊」、斉藤郁子、蔡東青、崎ダイ、櫻木弘身、塩崎勝・幸子、塩谷章子、塩見敏和・優子、重内皋月、重松貞夫、島川昭信、嶋村郁子、清水勤、下多睦子、真生園有志一同、菅村和弘、杉本力、鈴木敏男、蟬川勝己、高田節子、高福誠・憲子、高村英子、竹内竹司、竹下よう子、竹村雅和、武本富重、田中誠一朗、田中幸雄、谷政敏、筑瀬重喜、張準錫、塚谷綾子、辻良雄、寺田秀子・宏貴、寺本躬久、土井敏幸、堂ヶ平興治、道野伸樹、道野良枝、歳森暢子、富川稔、富田佳志、外山妙子、長尾絢子、仲島正教・真悠子・雄介・マリ子、永田敏一、中野多可子、中村幸夫、西岡きよ、西田宏、額田哲郎、橋本幸太郎、橋本壽明、長谷川敏郎、長谷川喜、畑尾雅子、服部睦子、花井彩、林三千男、林芳男、阪神タイガース鳥谷敬、日笠久美、曳野亥三夫、樋口量子、久野壬豊、久野誉典、平井由美、廣辻逸郎、福西秀信、藤岡賢子、藤木克尚、藤本洋敏・陽子、佛立寺婦人会、古高健司、古屋恒行、堀内英城、堀川法之・登喜子、堀洋子、町田道子、松本茂、松本直美、松山春子、真殿みさ子、水嶋幸江、水谷修子、御簾納勝利、水本雅子、光嶋忠、村居哲、村越婦美代、望月佐和子、森下哲志・英子、安江和子、山川香子、山口恵子、山崎敏明、山鳥重、吉田かほり、吉田修一、吉田元恵、吉永省三、吉村昭二、脇坂正之

▼奈良県：飯田尚弘、池田登美子、石田勇、稲葉慶信、上田充穂、上野邦一、占部文子、大西和子、大森純子、川畑宗一、木村佐喜夫、木本千津子、黒川正之進内、櫻井重成、申俊雨、滝澤治生、柘窪貞司、柘窪賢司、柘葉珠慶、中西康人、中之瀬文代、奈良県立平城高等学校、西川泰次、西塔輝男、野村進、花森俊之、濱川利郎、本田佐智子、宮崎新嗣、村岡誠二、村田敏文、崇徳寺・安井良道、山岡秀一、山崎賢

▼和歌山県：有元一陽、市原孝、上田寄世子、岡八重子、貝川好延、笠松雅子、かわらの小児科、木下郁敏・悠・さゆり、小井出郁也、正和情報サービス、高畑勝、高村眞知子、竹中信夫、東谷好子、前田照子、馬淵義也、諸橋道代、山本一郎、吉田賢治・三希子

▼鳥取県：足立仁、組藤式郎、田中幸夫、増谷玲子、矢谷啓、米原章喜

▼島根県：泉司郎、秀蕊気光研究会、野津利夫、秦雅岐、丸山浩二、萬井圭三

▼岡山県：ASA倉敷販売、大森マサ子、岡崎秀治、梶野政治、柏木一男、金光義弘、神山敏雄、木村俊夫、黒飛史朗、宗包朝香、高橋辰雄、土井満雄・土井友恵、徳山孝義、仲岡ひとみ、中村淳一、難波良之、原田格二・雄一、増田安男、松本英明、三秋尚、三澤房子、和田力

▼広島県：石田泰正、稲井はつ枝、井上年光、ASA可部、枝松なつ代、角田幸信、片桐悦子、見性寺、是光百合子、斉藤皓三、佐藤嘉展、田中誠之、田万里正三、田村節子、中村耕也、中村好江、根師一郎、浜田春之、東三千年、

平野貴美子、平野恭子、藤井成行・照子、船本健三、正岡義己、梶田敏樹、松田安子、水田耕嗣、村上益夫、矢野清、山手万知子

- ▼山口県：朝日新聞下関販売（株）、池田和生、伊藤医院、今住功、岩田チエノ、潮浩、A S A 玖珂、おおどの診療所、岡基子、音楽宅急便「クロネコファミリーコンサート」山口会場募金、片岡逸、河上勲、河上和洋、河村茂延、河本眞龍、神田正美、佐原翔一、神徳内科医院、隅田茂生、高松恵美子、高山晋洋、中国新聞大島販売所、中国新聞周防美和販売所、津森敏伸、天空静香、原田巖・初称、広重清子、広田幸名、深本良一、福山道義、藤本裙子、松崎浩司、松本美枝子、宮本俊明、宮本甫子、明林寺、安田英史、藪兼義彦、山岡邦雄・恵美子、山本春夫、湯田自動車学校、吉見ラジオ体操おはよう会、和田鵬亮
- ▼徳島県：阿部啓三、泉公允、小山国雄
- ▼香川県：金香コナミ、寺山和彦・文子、森口正則
- ▼愛媛県：青野敬子、秋山宏、阿部好孝、井渕昭水、大田黒千鶴子、越智睦美、笠原正直、合田治二、河野チエ子、近藤幸雄、曾我幸弘、砥部焼陶芸館（館長中村昭光）、長井慶代、藤原美鈴、松井完治、三好澄代
- ▼高知県：小川千賀子、尾崎善博、上村みちこ、吉井梗一、吉野益世
- ▼福岡県：青沼茜雲、秋成府左治、朝日新聞引野店、阿部志朗、荒木見悟、有馬護宏、粟屋栞、安西義孝、飯塚聖母幼稚園、池田暁彦・加寿子、池田知光、池野美都子、石橋大海、伊豆統一郎、磯矢洋子、一森軍生、伊藤貞一郎、井上明人・みどり、井上静子、（株）井上商会、井上継郎、井上祐毅・麻衣子・直哉、井上善明、今林昭、今村寿和、今本久美子・文徳、岩崎健治、岩田光雄、植田朋子、内山健治、梅田勇、梅谷敬哲、梅津法、遠藤信重・ひろみ、扇谷範可、大岩俊夫、大貝弘子、大久保瑞枝、太田久香、大塚保人・明子、大西克己、大西純一、大村公人、岡島孝行・十三子、緒方タツ子、岡田英之、岡田良一、岡村幸子、荻本策一郎、奥平成男、小倉弘孝、尾尻義博、OZUMIクリニック、小原秀俊、柿添富久子、梶務、加治屋三郎、梶山千里、春日雅樹、加藤隆、門田紘、金子隆彦、上山紅子、鴨川隆彦、苅田ロータリークラブ御一同、川原義守、川村勝自、川元忠男、きとう胃腸科内科クリニック、木下京子、木下景子、木村賢示、木村幸隆、金光教若松教会ニコニコバザー、工藤五六、久保一博、倉木恵美子、倉田智恵子、藏永知彦、藏本一郎、栗山太、黒田浩子、桑原純、桑原俊治・しのぶ、小石純也、恒富誠、河野直重、高山利恵子、国際ソロプチミスト北九州一東、小熊坂公千、小崎哲也、児玉正子、後藤トヨ子、小宮田鶴子、酒井チヨ子、坂田春海智、佐久間紘一・充子、佐々木清、佐藤武美、里村知宣、實藤正利・さかゑ、佐野靖夫、佐保肇、椎野千代子、渋江有恒、清水久枝、城島伸介、白土八郎、西生寺護持会、聖マリア病院、第5回椿杯チャリティーコンペ、田尾美智代、高岩宏之、高崎克、高嶋康年、田川勇、多川洋子、竹中久、立部香代子、田中敬子、田中大二、田中時雄、谷川榮彦、田端一敏、田原敬士、田村龍夫・末子、中荘政子、長治良知、ツジ胃腸科医院、土倉外科胃腸科医院、津野良子、（株）坪井商店、手嶋秀子、土居麗子、東司エミ子、戸田三七生、戸次玖美子、友井滋、取違芳弘、中川一能、中川壯、中島與志行、中島乃婦子、中島与志行、中村進一、中村寿、中村治雄、中村洋子、成重博美・まり子、新名恵子、西田野乃、西日本カラオケ連合、西村四郎、日鉄住金ハード（株）、野上智宏、野口貢、野原勲、信田靖徳、芳賀幸助、橋爪淳二、柘淵義光、畠中保實、波多野昌二、原田しかの、原田礼子、原トモ子、肥海芳行、日高孝枝、日高義之、日野喜美男、日比生隼斗、姫路秀明、平井信廣、平野敏弘、弘中将隆、吹原正子、福井義雄、福岡国税局一同、福岡吹奏楽連盟、福田宏行、福満三郎、福吉新、藤崎良之、藤島クリニック、藤田雅之、藤巻義範、藤山清郷、洲上鯉一、古川和則、古庄三喜男、堀之内薫、前田奉一郎、前田稔、前田宗徳、松井昭子、松井和弘、松岡順之介、松木俊正、松下徹、松本卓、松元忠雄、松本光史、松本靖子、丸野了、丸山芳子、溝口義晴、溝部忠増、魅モード1、宮口文生、宮崎冬樹、宮徹男、宮本産商（株）、向笠洋三、牟田芳子、村上啓子、村上歯科医院スタッフ一同、村上葉子・村上靖子、村田吹世・直子、目原清嗣、森真由美、森脇巖、矢嶋和樹、安永憲之、安村茂男、安元サツ、矢野雄、山下幸子、山下淳子、山下新一郎、山田初子、大和ひろみ、山本哲夫、山家輝美子、油絵屋大哲、行橋クリニック、吉永正人・郁子、嘉村起美子、米倉昭史、林成寺、脇節代、和田千春、渡邊千鶴子
- ▼佐賀県：江里口良子、榎本純一、西村正紘、長谷川敏子
- ▼長崎県：赤木輝子、後田敏子、小柳一、斎藤常子、酒井謙次、平美智子、徳田豊策、中尾カスミ、野口内科こども医院、三根真理子、宮崎初子、百田眞瑛彦、渡辺博光
- ▼熊本県：荒木鎮雄、大野耕治、緒方直之、鈴木一臣、樽海友希、中村医院、野崎隆、浜崎信一郎、早崎登美子、姫戸医院、増岡光義、宮田和子、森本政幸、山崎聡子、米満弘之
- ▼大分県：朝日新聞大分販売（株）、朝日新聞南大分店、石崎晃一郎、石橋弘行、神戸信之、河野なみ子、佐藤カホル、佐藤トシ子、友弘清文、友松功一、西森靖生、原隆、原嘉徳、深川充、本田和子、美登公希、六車真理子、山崎福男、山村照代
- ▼宮崎県：赤池義昭、石田信康、井上清美、樺山資紀、黒木ミサ、県南病院、田中栄次、濱田幸正、吉住洋一
- ▼鹿児島県：浅野庄三、有馬俊典、石堂忠彦・史子、木村龍一郎・理、蔵屋一枝、迫田久二、細山田良輝、田原睦郎、袴廣洲、徳世津夫、西あつ子、春山雅美
- ▼沖縄県：仲村宏春

朝日福祉ガイド DVD・ビデオ・本のご案内

◆朝日福祉ガイドDVD◆

<p>『自閉症の人が求める支援 全3巻』</p> <p>セット価格 10,692円</p> <p>各巻 4,320円</p>	<p>自閉症の人、それぞれの個性に合わせた支援の基本である「構造化」を映像化した画期的なDVDです。第1巻「基本編 基礎からわかる構造化」(60分)・第2巻「実技編 構造化と再構造化のしかた」(85分)・第3巻「実践編 自立のための構造化」(112分)。</p>
<p>『自閉症の人が見ている世界 全3巻』</p> <p>セット価格 10,692円</p> <p>各巻 4,320円</p>	<p>自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点です。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)・第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のダイジェスト21分)・第3巻「13人のエピソード」(85分)。</p>
<p>『自閉症の子どもの評価 全4巻』</p> <p>セット価格 18,144円</p> <p>各巻 4,860円</p>	<p>自閉症の人たちを正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、分かりやすく映像化。第1巻「評価のしかた」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。</p>
<p>『自閉症の子どもの自立課題 全3巻』</p> <p>セット価格 13,608円</p> <p>各巻 4,860円</p>	<p>「自分是可以する」という感覚を養い、いろいろなことに取り組む意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。</p>
<p>自閉症児の治療教育シリーズ(米国ノースカロライナ州TEACCHプログラム) 各巻3,024円</p>	
<p>『自閉症児の明日のために -TEACCHのねらいと考え方-』</p>	<p>プログラムの全体像をセラピストの立場から紹介、自閉症の人たちを援助する上で何が必要かを示唆(49分)。</p>
<p>『親のためのTEACCHプログラム』</p>	<p>親が実践できるように、家庭での援助の実際を具体的に分かりやすく紹介(67分)。</p>
<p>『教師のためのTEACCHプログラム』</p>	<p>教室やスケジュールの設定、親との連携など、教師や指導員の参考に(69分)。</p>
<p>『青年期・成人期のTEACCHプログラム』</p>	<p>学校卒業後の就職・居住・余暇など青年期・成人期向けの援助法を紹介(55分)。</p>
<p>◆朝日福祉ガイドビデオ◆</p>	
<p>『自閉症の治療教育』</p> <p>3,024円</p>	<p>全米自閉症児親の会の様子や米国ノースカロライナ州の自閉症の療育への取り組みを紹介。(60分)</p>
<p>『TEACCH』</p> <p>3,024円</p>	<p>TEACCH部で行われている1週間にわたる教師のための訓練セミナーの様子を詳しく紹介。(90分)</p>

◆朝日福祉ガイドブック◆	
『生き方、逝き方ガイドブック』 1,296円	どうすれば本人らしい「逝き方」ができるのか。タブー視されがちだったこの命題を新田國夫医師とともに考え、整理しました。
『なるほど高次脳機能障害』 1,296円	高次脳機能障害を、その障害の理解に始まり、発症から診断、リハビリ、社会参加まで、豊富な事例で解説しています。
『みんなのうつ』 1,080円	うつ病の「分かりにくさ」を整理し、正しく理解するための入門書。治療法や対処法も解説。監修は精神科医の大野裕さん。
『認知症とともに』 1,080円	認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでイラスト入りで解説。
『自閉症の人を支援するということ』 864円	TEACCHプログラムの最高責任者、ゲリー・メジボフ教授が自閉症の障害とプログラムの内容を分かりやすく解説。
『自閉症のひとたちへの援助システム』 540円	TEACCHプログラムの実践事例を豊富な写真とイラストで紹介しながら、プログラムを日本でいかに生かすかを提案。
『100%あたらくん』 648円	自閉症のあたらくんの大活躍を、母親が描いた4コママンガ。自閉症の子どもと、その家族の日常が理解できます。
『精神障害者のホームヘルプサービス』 864円	精神障害を正しく理解し、当事者の立場で支援できるよう、関係者の体験談や豊富な事例で分かりやすく解説しています。
『きみといっしょに』 540円	全国のLD児を持つ親たちが、LD児への理解や付き合い方をまとめた手引。Q&Aと、推薦する相談・診断機関なども掲載。
『くるまいす-第3改訂版』 324円	車いすの種類や構造、介助の基礎的な方法やポイントを分かりやすく解説、公共交通機関の利用についても触れています。
『新・川崎病がわかる本改訂増補版』 540円	乳幼児を中心に発病する原因不明の“川崎病”について症状や特色、療養上の注意、相談窓口などの情報を加えて解説。

※価格はいずれも税込み(2016年4月1日現在)

◆お申し込み・お問い合わせ◆

ご希望の方は電話かファクス、電子メール (guide@asahi-welfare.or.jp)
で下記までお申し込みください。
(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記してください)
ホームページ (http://www.asahi-welfare.or.jp/) からもお申し込みができます。
朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオ係
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
tel:03-5540-7446 fax:03-5565-1643

朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

人間尊重の原点に立って

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食料、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金を始め、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食料や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診療券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立し、保健・育児など多岐にわたる活動は日本の保健師制度の基礎を築きました。

第2次大戦後は、戦災者や引き揚げ者への家庭常備薬や衣料品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃虚の中での明るい話題は、49年9月にインドのネール首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らす高齢者の温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長とともに事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重町の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害のある子どもが参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害の学生のための奨学金制度も創設しました。

障害のある人や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及キャンペーンを展開。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ね

る「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。「ヨーロッパの旅」は障害のある人の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害のある人の自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」（86年に「朝日福祉助成金」に統合）を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、認知症など介護の必要な高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米5カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結10周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始。2002年からはその実践者千人余りが集う「自閉症カンファレンスNIPPON」を開催しています。同時に学習障害児（LD）の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生（大学生）の手話のスピーチコンテスト」は84年にスタート、「手話の甲子園大会」として定着しています。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどに車いすを贈る運動を展開、障害のある現地の人が車いすを製作・修理する工場を開設しました。

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害のある人への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など、多岐にわたって活動。2004年の新潟県中越地震では、被災者の心のケアをはかる事業を展開しました。この実績は11年3月の東日本大震災でも生かされ、両親を失った子どもに一時金を贈る「こども応援金」や、岩手県陸前高田市の地域交流施設「朝日のあたる家」の開設など、独自の救援事業に取り組んでいます。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は01年4月1日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、全国的な活動に力を注いでいます。

08年には創設80年を迎え、記念事業として「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」を実施しました。「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」も継続しています。09年度からは「子ども」「障害のある人」「高齢者」を事業の3本柱とする基本方針のもと、活動を続けています。今後とも、これまでの実績を生かし、人間尊重の原点に立って、「共に生きる豊かな福祉社会」の実現をめざし、先駆的な事業に取り組んでまいります。

2015年度 事業活動計算書より抜粋

(2015年4月1日~2016年3月31日)

単位:円

サービス活動収益	560,997,174	サービス活動費用	418,748,799
事業収益	149,272,952	事業費用	202,561,937
児童福祉事業	5,152,975	児童福祉事業	55,351,761
障害者福祉サービス等事業	14,135,446	障害者福祉サービス等事業	24,620,039
老人福祉事業	1,766,673	老人福祉事業	32,635,947
チャリティー事業	115,328,081	チャリティー事業	81,695,699
医療と公衆衛生	3,339,000	医療と公衆衛生	461,841
福祉啓発推進	0	福祉啓発推進	1,622,385
朝日福祉ガイド(DVD他)	9,550,777	朝日福祉ガイド(DVD他)	6,174,265
経常経費寄附金収益	411,643,042		
雑収入	81,180	人件費	163,080,630
		事務費	52,310,525
		減価償却費	780,417
		徴収不能額	15,290
サービス活動外・特別収益	7,506,617	サービス活動外・特別費用	0
受取利息配当金収益	3,619,584		
その他の特別収益	3,887,033	当期活動増減差額	149,754,992
合計	568,503,791	合計	568,503,791

新社会福祉法人会計基準（平成23年基準）を採用しています。

詳細は、当事業団のホームページをご覧ください。

理事・監事・評議員名簿

2016年3月31日現在

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団／理事・監事・評議員

(理事 6人 監事2人 評議員 13人) 敬称略・順不同

理事長	飯田 真也	朝日新聞社会長
常務理事	大井屋健治	朝日新聞厚生文化事業団常務理事
理事	佐々木正美	川崎医療福祉大学客員教授
同	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 元環境事務次官
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事
同	越村佳代子	元社会福祉法人こどもの国協会常勤理事・副園長
監事	野村 寛	社会福祉法人福栄会理事長
同	亀岡 保夫	公認会計士 大光監査法人理事長
評議員	山田 昭義	社会福祉法人A J U自立の家専務理事
同	影山 秀人	弁護士 子どもセンターてんぼ理事長
同	佐藤 佳則	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	石川 到覚	大正大学人間学部社会福祉学科特任教授
同	大塚 晃	上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授
同	佐野 信三	社会福祉法人博愛社顧問
同	大谷 泰夫	国立研究開発法人日本医療研究開発機構理事 元厚生労働審議官
同	長浜 力雄	認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク理事長
同	関戸 衛	元朝日新聞厚生文化事業団常務理事
同	谷 啓之	前朝日新聞厚生文化事業団広報担当部長
同	小林 秀樹	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	笠原 雅俊	朝日新聞社ブランド推進本部長補佐
同	高地 忠	朝日新聞社財務担当補佐

お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿

■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643

□郵便振替…口座番号「00130-1-9166」

□銀行振り込み…三井住友銀行新橋支店 普通「303668」

■大阪事務所

〒530-8211 大阪府大阪市北区中之島2-3-18

TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

■西部事務所

〒803-8586 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-1

TEL093(563)1284 FAX093(563)1287

■名古屋事務所

〒460-8488 愛知県名古屋市中区栄1-3-3

TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

※ご寄付に際して朝日新聞厚生文化事業団が振込料金を負担する「郵便振替用紙」をご希望の方はご請求ください。銀行振り込みの場合は事前にご連絡ください。クレジットによる寄付もホームページで受け付けています。

※各地の朝日新聞本社・支社・総局でもお受けします。

※当事業団への寄付金は所得税法・法人税法による寄付金控除が認められています。

ホームページ:<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

朝日新聞厚生文化事業団職員名簿(2016年3月31日現在)

■本部(東京)

事務局長 大井屋 健 治
 事業部長 福 田 年 之
 企画部長兼広報担当部長
 久保田 裕
 管理担当部長 大羽 淳 一
 小倉 玲 子
 落合 すが子
 古屋 厚 子
 小林 明 由
 松岡 百 合
 北村 美 樹

■大阪事務所

事務所長兼西日本事業部長
 山本 雅 彦
 事業担当部長 中村 茂 高
 岩切 修 次
 野崎 貴 士
 勝見 文 子

■西部事務所

事務所長 重光 雄 二

■名古屋事務所

事務所長 田中 彰

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

2015

平成27年度

事業
報告

ホームページで福祉情報を発信しています

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

2015年度 事業報告

2015年4月 1日から

2016年3月31日まで

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団